

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	わくわくアート・ミュージアム						施策番号		
							I-1-(2)-⑤		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	4,480 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
		3,544 千円	3,952 千円		課長	0.02 人 職員 0.5 人		担当課	美術館普及課
			係長		0.05 人	課長名		中尾	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	美術館が教育機関及び保護者との連携を強化し、子どもたちの美術に親しむ態度を育てるための様々な取り組みを行い、将来の地域文化の担い手を育みます。				成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	「わくわくアートミュージアム事業」の参加者数	8,565 人	9,000 人	5,397 人	60.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	美術鑑賞教室や館内授業、たんけんパスポート利用者など、「わくわくアートミュージアム事業」全体の参加者数を成果指標とします。 (最終目標と目標年度) 13,300人 平成26年度								
	(最終目標と目標年度)			%					

活動計画	小中学校及び保護者と連携して、美術鑑賞教室や子ども向けワークショップ(チャレンジアートミュージアム・サマーアートミュージアム)などを実施します。						活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】				
	美術鑑賞教室の実施回数	36 回	40 回	37 回	92.5 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
	小中学校と連携した学習プログラムの充実・強化を図ります。									
	子供向けワークショップの実施回数	12 回	10 回	8 回	80.0 %	順調				
「チャレンジアートミュージアム」を展覧会に合わせて開催するほか、夏休みには「サマーアートスクール」を実施します。										

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	小中学生の美術鑑賞教室、館内授業など、学校との連携事業は年々定着してきており、順調に参加者が増加しています。しかし、個々に配布した「たんけんパスポート」の利用者が減少した結果、全体で対前年度比37%減少しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	美術鑑賞教室の解説に美術館ボランティアを起用するほか、各種ワークショップでは美術館サポーターを参画させてマンパワーを充実させています。また、「たんけんパスポート」の利用促進については、小中学校と連携しながら保護者向けのPRの強化を目指しています。以上、美術館の持つ、学芸員の専門性を活かしながら市民参画や学校との連携を強化し、経済性と効率性を意識しながら事業を実施しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	市内の全小中学校を経由して配布している「たんけんパスポート」(展覧会無料鑑賞券)の利用率が低く、わくわくアート・ミュージアム事業全体の実績が低迷する原因となっています。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	「たんけんパスポート」のいっそうの利用促進を図るため、保護者向けのPRを強化しますが、予算については、事務経費の見直しにより縮小します。	予算を縮小した上で費用対効果を徹底的に検証し、広報を強化することで、23年度比1.5倍の利用者数を目標とします。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	博物館セカンドスクール事業						施策番号	I-1-(2)-⑤	
	コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	16,075 千円	(備考)	担当局
2,450 千円			2,713 千円	課長		0.05 人 職員 1.4 人	担当課		普及課
			係長	0.5 人		課長名	栗原		

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	博物館を第二の学校(教室)としてとらえ、子供たちの来館機会を創出し、新しい発見や感動を胸に理科・社会科への学習の意欲を持たせる仕組みづくりを行うため、(1)博物館への誘致事業、(2)学校教育支援事業、(3)家庭教育支援事業、の3つの柱をかかげ、学校教育現場と博物館の結びつきを強めます。	成果実績	「環境修学旅行」が前年度3団体から8団体に増加するなど、誘致活動の成果がありました。
-----------	---------------------	---	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	学校団体の誘致数	博物館を訪れる学校団体を増やすため、誘致活動を行い、来館者数の確保に努めます。 (最終目標と目標年度) 1,000団体 平成25年度	1,116 団体	1,000 団体	1,145 団体 114.5 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
学校関係入館者数	修学旅行、社会見学等、総合的な学習の時間などとして、学校関係者の博物館利用の促進を図ります。 (最終目標と目標年度) 70,000人 平成25年度	76,550 人	70,000 人	74,210 人 106.0 %	順調	

活動計画	修学旅行、社会見学、総合的な学習の時間としての博物館利用ガイドブックを改定するとともに、市外学校、団体の修学旅行等の誘致に向けた活動を行います。	活動実績	当初計画どおり、修学旅行、社会見学、総合的な学習の時間としての博物館利用ガイドブックを改定するとともに、市外学校団体の修学旅行等の誘致に向けた活動を行った。
-------------	--	-------------	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	誘致活動延べ日数	修学旅行、社会見学、総合的な学習の時間などとして、博物館が利用してもらえるよう、旅行会社等に対する誘致活動を実施します。	18 日	10 日	11 日 110.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
				%	順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	修学旅行の誘致に繋がる県外の旅行会社を効果的に訪問した結果、新たな地域からの訪問がありました。また、来館した旅行会社等に働きかけたことにより、新規の開拓につながるなど、効果的かつ効率的な誘致活動を実施することができました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	来館状況を分析することで、関係先教育委員会や旅行会社への誘致活動を絞り込み、効率性を高めるよう努めました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	来館状況の分析に基づく誘致活動を、関係部署との連携を図りながら、繰り返し、また地道に展開することで、リピーターを確保します。また、各地域の校長会議での説明活動も行い、来館実績の少ない地域へのPR活動を強化します。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	博物館のリニューアル工事に伴い整備した博物館利用ガイドブック、パンフレット、ホームページ、ガイドンスDVD等の資料を有効的に活用して、来館状況の分析に基づく誘致活動を展開し、市内外学校団体誘致数及び来館者数の促進を図ります。また、学校教育カリキュラム用として、小・中学校、保育所(園)を対象とした手引き書を改訂し、学校教育の一環としての博物館利用を促進します。事務経費の見直しにより予算は縮小します。	学校団体誘致数及び学校関係入館者数については、前年度実績以上の確保を図ります。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	夏休み子ども文学館開催事業						施策番号				
							I-1-(2)-⑤				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	2,900 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		3,265 千円	6,623 千円		課長	0.1 人		職員	0.1 人	担当課	文学館
					係長	0.1 人				課長名	西岡

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	夏休み期間を利用して子どもを対象とした企画展、イベント、作品募集などを開催し、文学館の利用を促進するとともに、子どもの読書・創作活動の意欲を高め、豊かな感性を培うことを目的とします。 子どもたちに魅力のある企画展の開催と、PR活動の工夫を行い、利用客の増加を図ります。	成果実績	入館者数は目標数に届きませんでしたが、昨年度と比較して約1,500人増加、詩のコンクールは市外からも応募がありました。
-----------	---------------------	---	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	夏休み企画展 入館者数	文学館の利用を促進するとともに、子どもの読書・創作活動の意欲を高め、豊かな感性を培うことを目的として行っている企画展のため、その入館者数を成果としました。 (最終目標と目標年度) 毎年度5,000人以上の入館者数 平成25年度	2,095 人	5,000 人	3,760 人 75.2 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
あなたにあってきた生まれきた詩コンクール作品応募数 子どもの読書・創作活動の意欲を高め、豊かな感性を培うことを目的として行っている詩のコンクールのため、その応募数を成果としました。 (最終目標と目標年度) 毎年度1,000人以上の応募者数 平成25年度		1,796 点	1,000 点	1,025 点 102.5 %	順調	

活動計画	平成23年度はこれまでと違い、原爆・戦争をテーマとし、子どもだけでなく親子で考える企画展を実施します。 あなたにあってきた生まれきた詩コンクールは第2回目となるため、近隣市町村へも広報を行い、応募者数増加を目指します。	活動実績	関連イベントとして、原爆・戦争をテーマとした講演会を開催した結果、親子での来場者が増えました。
-------------	--	-------------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	夏休み企画展 関連イベント開催回数	企画展をさらに楽しむとともに、来館者を増やすため、関連イベント(講演会等)の開催件数を活動指標としました。	4 回	3 回	6 回 200.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
詩コンクールの広報 詩コンクールの応募者増、市外からの応募者増を図るため、積極的な広報活動を行います。		広報活動実施		%	順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	夏休み企画展として原爆・戦争をテーマにした展覧会を開催し、子どもだけでなく大人の新規来館者も集め、昨年度と比較し1500人以上来館者が増加しました。詩のコンクールは、応募数は昨年度より減少しましたが、市外からの応募もあり、少しずつ認知されてきています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	子どもたちの関心、興味を引く展示・企画を行うために、毎年異なる企画を実施しています。そのため、年度によって開催経費が増減しますが、より無駄な支出を抑え、子どもたちがより興味を持つ展覧会を実施できるよう内容を検討しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題			
		平成24年度夏休み企画展は、五味太郎作品展を開催し、入館者数は子どもを中心に約6,000人と平成23年度に比べ大きく増加しました。入館者数は企画展の内容によって変わってくるため、どのような企画展を行うかが課題であると考えます。詩のコンクールは、毎回約1,000点の応募がありますが、さらに広報に努めます。		
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)		
	夏休み期間を利用して子どもやファミリーが楽しめる企画展を開催します。詩のコンクールは、学校を訪問し応募をお願いする等事業の普及に努めます。事業費は文学館普及研究費の一部であり、事務の見直しなどの努力を行い、予算は縮小します。	夏休み企画展入館者数5,000人以上、詩のコンクール作品応募数1,000点以上を目指します。また、詩のコンクールはより多くの学校からの応募を目指します。		

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	NPO・ボランティア活動促進事業					施策番号	
						I-3-(2)-②	
コスト	事業費	平成23年度執行額 14,521 千円	平成24年度当初予算額 15,885 千円	人件費の目安	金額 7,300 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局
					課長 0.2 人 職員 0.4 人	担当課	地域振興課
					係長 0.2 人	課長名	神野

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	地域の課題に自ら対応し、市民が自発的、主体的に公共活動に参画する市民社会の形成に向けて、まちづくりの重要な担い手であるNPOやボランティア団体などの活動を促進します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	--------------------	---	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		NPO法人数(累計)			293 法人	
	それぞれの目的の達成に向けて市民活動団体を主体的に発足させた市民活動団体(NPO法人)数の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)25年度330法人	263 法人	290 法人	101.0 %		
	市民活動サポートセンター利用者数(単年度)			20,428 人		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	これから市民活動に携わりたい市民への情報提供や相談受付を行うとともに、市民活動に取り組む団体の情報交換や交流を支援する市民活動サポートセンターの利用者数の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)25年度21,000人	19,318 人	20,000 人	102.1 %		

活動計画	市民活動サポートセンターを中心に、講座などを委託する以外は市の直接実施で、ニーズに即した各種支援策を実施します。NPO・ボランティア団体に関する総合的な相談受付、NPO法人認証に関する県の出張相談受付、NPO・ボランティア活動情報の提供、NPO活動発表会及び団体間の交流促進事業開催、専門講座・講演会等の研修・啓発を実施します。	活動実績	活動の状況は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	-----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		講座実施数			3 講座	
	これから市民活動に携わりたい市民への啓発や、市民活動に取り組む団体の組織や活動を強化するための講座を開催します。	2 講座	3 講座	100.0 %		
	広報誌などの発行			12 回		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	市民活動に取り組む団体等に、他団体の活動やイベント、助成金など、活動に役立つ情報を提供するため、広報誌やニュースレターを発行します。	12 回	12 回	100.0 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 活動や成果の状況は、順調でした。NPO法人数、市民活動サポートセンター利用者数共に目標を達成しました。このことから、活動は有効であると判断します。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 市民活動サポートセンターは、行政施設の一部を活用して行政機関の窓口の一部として直営で運営しており、職員についても嘱託職員で対応していることから、経済効率は高いものと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 成果指標と計画どおり推移しています。次年度、市民活動サポートセンターがコムシティの市民みらい創造プラザに移転する予定です。現在、市民活動サポートセンターの利用団体は市東部に拠点がある団体が多く、引き続きの利用継続と、市西部を中心に新たな利用団体の掘り起こしが、課題となります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	コムシティ移転を機に市民活動サポートセンター機能拡充、市内外の他施設との連携促進、認証・認定事務を通じて得られた団体ニーズに応じた支援等、事業費を拡充して取り組みます。	支援拠点としての市民活動サポートセンターの利用促進に努めることで、地域課題の重要な担い手である市民活動団体の活動の促進を図り、NPO法人数(累計)330法人、市民活動サポートセンター利用者数(単年度)21,000人の達成を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	消費者啓発推進事業					施策番号		
						Ⅱ-1-(1)-②		
コスト	事業費	平成23年度執行額 3,392 千円	平成24年度当初予算額 4,768 千円	人件費 の目安	金額	8,760 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局
					課長	0.04 人 職員 0.68 人	担当課	消費生活センター
					係長	0.32 人	課長名	愛甲

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 悪質商法による被害や多重債務問題を減少させるため、被害事例や予防策等を市民に周知するとともに、消費者被害が発生した場合、被害を拡大させないための迅速な啓発をおこないます。また、高齢者の被害が増加している現状を踏まえ、相談やトラブル解決のための窓口の市民認知度を向上させるPR活動をおこないます。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	---	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		消費生活センターの認知度			92 %	
	消費者トラブル、多重債務問題及び悪質商法被害等の未然防止と拡大防止のため、消費者啓発施策の推進により、相談窓口である消費生活センターの認知度90パーセント以上を維持します。 (最終目標と目標年度) 平成25年度まで90%以上を維持	-	90 %	102.2 %		
	消費生活センターを消費者トラブル解決方法に活用した市民の割合			42 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
	消費者トラブルや多重債務問題を解決した人の内、消費生活センターを利用することによって解決した市民の割合を増やします。 (最終目標と目標年度) 平成25年度までに50%	-	40 %	105.0 %		

活動計画	今年度は、昨年度に引き続き、出前講座や消費110番などの啓発事業を行うとともに、消費者学級、消費生活モニター活動の強化、中学生を中心とした若年層への啓発強化にも取り組みます。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		市民への啓発活動の年間実施回数			113 回	
	最新の悪質商法の事例や予防策などについて、講座や様々な媒体を用いて啓発活動に努めます。	137 回	125 回	90.4 %		
		回	回	%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	市民への啓発活動はほぼ予定通り実施し、消費生活センターの認知度及び消費者トラブルの解決方法ともに目標数値を超えた割合となりました。認知度については、これまでのセンターの長い取り組みにより高い割合を維持しており、解決方法についても、センターの役割の重要性はある程度評価されていると考えます。しかし、消費者トラブル等は年々多様化し、新たな手口の悪質商法なども出てくるため、市民の実被害を減少させるには、更なる事業推進が必要と考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	啓発講座の実施に当たっては、講師を専門性の高い北九州市消費生活相談員協会に委託しているほか、チラシ、リーフレット等紙媒体による啓発を見直すなど、経済性、効率性の向上に努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	市民に対する啓発活動は概ね予定通り実施していますが、平成24年度上半期の「出前講座」実施回数は前年度の34回に対し、約20%減の27回となっており、いかに市民からの申し込みを増やすかが当面の課題であると考えます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	事業費は縮小しながらも、実施方法を工夫し、効果的な啓発を行います。	「消費生活センターの認知度」は90%以上を目標とします。また、「消費生活センターを消費者トラブル解決方法に活用した市民の割合」は50%を目標とします。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	消費者啓発推進事業(消費者行政活性化基金事業の一部)						施策番号				
							Ⅱ-1-(1)-②				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	10,950 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		26,603 千円	29,765 千円		課長	0.05 人		職員	0.85 人	担当課	消費生活センター
					係長	0.4 人				課長名	愛甲

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	悪質商法による被害や多重債務問題を減少させるため、被害事例や予防策等を市民に周知するとともに、消費者被害が発生した場合、被害を拡大させないための迅速な啓発をおこないます。また、高齢者の被害が増加している現状を踏まえ、相談やトラブル解決のための窓口の市民認知度を向上させるPR活動をおこないます。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	--------------------	---	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【成果の状況】
	消費生活センターの認知度	消費者トラブル、多重債務問題及び悪質商法被害等の未然防止と拡大防止のため、消費者啓発施策の推進により、相談窓口である消費生活センターの認知度90パーセント以上を維持します。 (最終目標と目標年度) 平成25年度まで90%以上を維持	-	90 %	92 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
消費生活センターを消費者トラブル解決方法に活用した市民の割合	消費者トラブルや多重債務問題を解決した人の内、消費生活センターを利用することによって解決した市民の割合を増やします。 (最終目標と目標年度) 平成25年度までに50%	-	40 %	42 %	順調	
				102.2 %		
				105.0 %		

活動計画	今年度は、高齢者の被害防止を主眼に様々な媒体を用いた啓発事業を行うとともに、中学生を中心とした若年層への啓発強化にも取り組みます。あわせて、消費生活相談窓口の認知度向上のため、テレビCMや街頭大型ビジョンを使ったCM放映等のPRに努めます。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	市民へのPR活動	消費生活に関する相談窓口の認知度向上を図るため、テレビCMを放映します。	86 回	100 回	93 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
				93.0 %	順調	
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	市民への啓発活動はほぼ予定通り実施し、消費生活センターの認知度及び消費者トラブルの解決方法ともに目標数値を超えた割合となりました。認知度については、これまでのセンターの長い取り組みにより高い割合を維持しており、解決方法についても、センターの役割の重要さはある程度評価されていると考えます。しかし、消費者トラブル等は年々多様化し、新たな手口の悪質商法なども出てくるため、市民の実被害を減少させるには、更なる事業推進が必要と考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	テレビCMは競争入札で事業者を選定するなど、同じ成果をより低いコストで得られるよう経費の節減に努め、消費者教育DVDの制作に当たってはプロポーザル方式で事業者を選定し、同じ費用でより高い成果を得られるよう経済性、効率性の向上に努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	市民に対する啓発活動は概ね予定通り実施しています。本事業は、消費者庁発足とともに、地方消費者行政の一層の充実を図るために作られた基金を利用し、本市の相談窓口の認知度を高めるために実施した事業です。この消費者行政活性化基金は平成24年度で終了する予定のため、平成25年度以降、事業の見直しが必要となります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	本事業については今年度で終了する予定です。	-

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	消費者啓発推進事業(消費者被害防止体制整備事業の一部)						施策番号				
							Ⅱ-1-(1)-②				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	2,190 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		1,054 千円	1,969 千円		課長	0.01 人		職員	0.17 人	担当課	消費生活センター
					係長	0.08 人				課長名	愛甲

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	悪質商法による被害や多重債務問題を減少させるため、被害事例や予防策等を市民に周知するとともに、消費者被害が発生した場合、被害を拡大させないための迅速な啓発をおこないます。また、高齢者の被害が増加している現状を踏まえ、相談やトラブル解決のための窓口の市民認知度を向上させるPR活動をおこないます。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	--------------------	---	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【成果の状況】
	消費生活センターの認知度				92 %	
消費者トラブル、多重債務問題及び悪質商法被害等の未然防止と拡大防止のため、消費者啓発施策の推進により、相談窓口である消費生活センターの認知度90パーセント以上を維持します。 (最終目標と目標年度) 平成25年度まで90%以上を維持	-	90 %	102.2 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	
消費生活センターを消費者トラブル解決方法に活用した市民の割合			42 %			
消費者トラブルや多重債務問題を解決した人の内、消費生活センターを利用することによって解決した市民の割合を増やします。 (最終目標と目標年度) 平成25年度までに50%	-	40 %	105.0 %			

活動計画	今年度は、高齢者の被害防止を主眼に、昨年度に引き続き、高齢者を見守る方々への出張講座やあんしんサポートメールなどの啓発事業を行うとともに、中学生を中心とした若年層への啓発強化にも取り組みます	活動実績	下記の活動指標のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	市民への啓発活動の年間実施回数				83 回	
最新の悪質商法の事例や予防策などについて、講座や様々な媒体を用いて啓発活動に努めます。	93 回	91 回	91.2 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	
			%			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	市民への啓発活動はほぼ予定通り実施し、消費生活センターの認知度及び消費者トラブルの解決方法ともに目標数値を超えた割合となりました。認知度については、これまでのセンターの長い取り組みにより高い割合を維持しており、解決方法についても、センターの役割の重要さはある程度評価されていると考えます。しかし、消費者トラブル等は年々多様化し、新たな手口の悪質商法なども出てくるため、市民の実被害を減少させるには、更なる事業推進が必要と考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	啓発講座の実施に当たっては、講師を専門性の高い北九州市消費生活相談員協会に委託しているほか、チラシ、リーフレット等紙媒体による啓発を見直すなど、経済性、効率性の向上に努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題
	市民に対する啓発活動は概ね予定通り実施していますが、平成24年度上半期の「高齢者を見守る方々への出張講座」実施回数は、前年度の12回に対し、約33%減の8回となっており、いかに市民からの申し込みを増やすかが当面の課題であると考えます。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	事務経費の見直しにより事業費は縮小しながらも、出張講座の周知方法などを工夫し、積極的な働きかけを行います。
	「消費生活センターの認知度」は90%以上を目標とします。また、「消費生活センターを消費者トラブル解決方法に活用した市民の割合」は50%を目標とします。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	消費者トラブル法律無料相談					施策番号	
						Ⅱ-1-(1)-②	
コスト	事業費	平成23年度執行額 2,737 千円	平成24年度当初予算額 2,889 千円	人件費 の目安	金額	(備考) 担当局 市民文化スポーツ局 担当課 消費生活センター 課長名 愛甲	
					690 千円		
					課長 0.01 人 職員 0.05 人 係長 0.02 人		

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	多重債務問題をはじめ、複雑・多様化する消費者問題に対応するため、法律専門家の協力を得て、消費者がかかえているトラブルの解決策を探ります。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	消費生活センターを消費者トラブル解決方法に活用した市民の割合			42 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	消費者トラブルや多重債務問題を解決した人の内、消費生活センターを利用することによって解決した市民の割合を増やします。 (最終目標と目標年度) 平成25年度までに50%	-	40 %	105.0 %		

活動計画	弁護士又は司法書士による「消費者トラブル法律無料相談」を週2回消費生活センターで実施します。利用者の利便性を考え、毎月第2週は火曜日の代わりに、その週の土曜日に実施します。また、年1回夜間に実施します。弁護士会・司法書士会を通じて法律家を派遣していただき、その費用は主に県からの補助金で賄います。	活動実績	弁護士相談: 49回 司法書士相談: 49回 夜間相談: 1回			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	消費者トラブル法律無料相談会の実施回数			99 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	消費者に当法律相談を利用する機会を定期的に提供します。	102 回	99 回	100.0 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	弁護士会・司法書士会の協力を得て、予定どおりに実施できています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	平成24年度までは、「福岡県消費者行政活性化基金事業補助金」の助成を受けていますが、25年度以降は終了するため、経費の見直し等が必要と考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	法律無料相談は予定通り実施しています。本事業は、「消費者行政活性化基金」を活用して、法律無料相談を充実させてきました。この「消費者行政活性化基金」は平成24年度で終了する予定のため、平成25年度以降の法律無料相談の見直しが必要になります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	これまでの実績をもとに、1回あたりの相談枠を削減することで、事業費は縮小しますが、効率的な相談ができるよう工夫するとともに、法律無料相談の開催回数は維持します。	「消費生活センターを消費者トラブル解決方法に活用した市民の割合」は50%を目標とします。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	地域防犯対策事業					施策番号	II-1-(3)-①
	コスト	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	17,550 千円 (備考)	担当局
32,750 千円		39,814 千円	課長		0.2 人 職員 1.5 人	担当課	安全・安心課
			係長		0.4 人	課長名	福本

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	犯罪被害の防止には、市民の防犯意識の高揚や自主的な防犯活動への取り組みが重要です。本事業では、地域の自主防犯団体「生活安全パトロール隊」に対し人的・物的支援を行い、活動の活発化を図るとともに、市民防犯大会の開催や市民への防犯情報の提供などにより、市民が安全で安心して暮らすことのできる「安全・安心なまち北九州市」の実現を目指します。	成果実績	成果の状況は下記の通りです。
----	--------------------	--	------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	刑法犯認知件数	北九州市内の刑法犯認知件数です。平成14年の4万件をピークに、毎年減少しています。今後も毎年の件数減を目指します。 (最終目標と目標年度) 件数減(前年比較)平成25年度	1,418件減	件数減(前年比較)	1,252件減	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
市民が感じる治安状況(体感治安)	市民意見調査アンケートで、市民が「とても安全」「比較的安全」と回答する割合の向上を目指します。 (最終目標と目標年度) 80%(平成25年度)	—	80 %	65 % 81.3 %	順調	

活動計画	安全で安心なまちを実現するためには、市民による自主的な防犯活動の取組みが重要です。地域の自主防犯組織「生活安全パトロール隊」による防犯パトロールや登下校時の子どもの見守りなどの活動を促進します。	活動実績	下記の活動指標通りです。
------	---	------	--------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	生活安全パトロール隊による年間パトロール実施回数	各校区の生活安全パトロール隊による、自主防犯活動実施の1年間の合計値を全校区(131校区)で割った、1校区当たりの平均実施回数です。	103 回	100 回以上	194 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
生活安全パトロール隊による年間パトロール参加人数	各校区の生活安全パトロール隊による、自主防犯活動参加者の1年間の合計値を全校区(131校区)で割った、1校区当たりの平均参加人数です。	1,263 人	1,000 人	1,576 人 157.6 %	大変順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	町内の防犯パトロールや子どもの登下校時の見守りを毎日(平日)実施する地域があるなど、平均して、1校区につき年間約194回、1576人の参加があり、活動計画を大きく上回りました。こうした地域の自主的な防犯活動は犯罪発生を抑制するとともに、地域住民の体感治安の向上につながります。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	生活安全パトロール隊の活動はすべてボランティアによるもので、この事業では活動に対する人的支援(指導員による助言等)と物的支援(腕章、帽子などの支給)を実施しています。支援物品については、毎年、品目や購入数量を見直すなど、効果的かつ効率的な支援を心掛けています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	昨今、暴力団の犯行と思われる発砲事件や傷害事件等が相次いでおり、平成24年度の市民意識調査(中間報告)でも、市政要望の項目として「防犯、暴力追放の推進」が第1位となっています。しかし、市内の刑法犯認知件数は、平成14年の40,389件をピークに、平成23年は14,043件と9年連続で減少しています。なおかつ平成24年1月～8月は8,045件で、前年と比べて1,381件(約15%)減少しており、一定の効果があがっていると考えています。今後も、警察と連携しながら、地域の皆さんの協力のもと効果的な防犯対策を展開し、市民の体感治安の向上を図る必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	防犯意識のさらなる向上と自主防犯活動の一層の促進を図るため、広報啓発や生活安全パトロール隊への支援などを強化し、それに伴って予算を拡充します。	市内の刑法犯認知件数の減少と、市民の体感治安(市民意見調査アンケートで、市民が「とても安全」「比較的安全」と回答する割合)の向上を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	防犯灯設置補助事業						施策番号				
							Ⅱ-1-(3)-①				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	5,400 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		99,013 千円	109,105 千円		課長	0.1 人		職員	0.3 人	担当課	安全・安心課
					係長	0.2 人				課長名	福本

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	夜間における犯罪の発生を未然に防止し、公衆の通行の安全を図るため、地域が設置する防犯灯の一部を補助することで、防犯灯の設置促進を図り、市民が安全で安心して暮らすことのできる「安全・安心なまち北九州市」の実現を目指します。	成果実績	成果の状況は下記の通りです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	刑法犯認知件数	1,418件減	件数減 (前年比較)	1,252件減		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州市内の刑法犯認知件数です。平成14年の4万件をピークに、毎年減少しています。今後も毎年の件数減を目指します。 (最終目標と目標年度) 件数減(前年比較)平成25年度					
	市民が感じる治安状況(体感治安)	—	80 %	65 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
市民意見調査アンケートで、市民が「とても安全」「比較的安全」と回答する割合の向上を目指します。 (最終目標と目標年度) 80%(平成25年度)						

活動計画	地域が設置する防犯灯については、町内会等の属する連合会及びまちづくり協議会、未加入団体に対し、設置費の一部を補助し、現灯数を維持します。平成23年度からは、10年間を目途にLED照明への転換を図ります。LED化により維持管理経費が減少するため、町内会等の負担が軽減されます。また、蛍光灯と比べて球切れがないので、夜間の安全性が向上します。	活動実績	下記の活動指標通りです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	自治会等設置防犯灯の管理灯数	53,297 灯	現状維持	53,410 灯		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	自治会等が設置している防犯灯数(約53,400灯)について、補助制度を継続し、現灯数を維持します。			100.2 %		
	自治会等設置防犯灯のLED化灯数	—	5,300 灯	5,309 灯	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
毎年度、全灯数の約1割をLED化します。	100.2 %					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	防犯灯について、現灯数が維持され、LED化も計画どおり進んでいます。また、犯罪発生件数も減少するなど、成果の状況、活動状況、いずれも順調です。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	LED照明に転換した場合、維持管理経費(電気代)が大幅に減少します。維持管理補助金についても、LED防犯灯の場合1灯あたり1,100円(蛍光灯1,800円)としていることから、引き続き、防犯灯のLED化を促進します。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 防犯灯については、平成23年度以降の10年間で、LED灯への転換を図ります。このうち、地域が設置する防犯灯については、本市施策に基づく環境意識の高まりや、震災後の節電の取り組みの広がりなどを背景に、地域からの補助申請が増加しており、当初計画以上にLED化が進んでいます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容) 地域の状況等を踏まえ、事業費を拡充し、防犯灯のLED化を促進します。	LED灯は、蛍光灯と比べて球切れがないので、夜間の安全性の向上が見込まれます。あわせて、地域が設置する防犯灯の維持管理費(電気代)の減少を図ります。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	防犯灯設置事業					施策番号				
						Ⅱ-1-(3)-①				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	5,400 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局	
		44,105 千円	46,530 千円		課長	0.1 人		職員	0.3 人	担当課
			係長		0.2 人			課長名	福本	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	夜間における犯罪の発生を未然に防止し、公衆の通行の安全を図るため、地域で設置できない場所などに市が防犯灯を設置し、市民が安全で安心して暮らすことのできる「安全・安心なまち北九州市」の実現を目指します。	成果実績	成果の状況は下記の通りです。
-----------	--------------------	--	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	刑法犯認知件数	北九州市内の刑法犯認知件数です。平成14年の4万件をピークに、毎年減少しています。今後も毎年の件数減を目指します。 (最終目標と目標年度) 件数減(前年比較)平成25年度	1,418件減	件数減 (前年比較)	1,252件減	
市民が感じる治安状況(体感治安)	市民意見調査アンケートで、市民が「とても安全」「比較的安全」と回答する割合の向上を目指します。 (最終目標と目標年度) 80%(平成25年度)	—	80 %	65 %	大変順調 順調	順調
				81.3 %	やや遅れ 遅れ	

活動計画	夜間における犯罪の発生を未然に防止し、公衆の通行の安全を図るため、周囲に人家がないなど、自治会等で設置することが困難な場所に対して、市が防犯灯を設置します。平成23年度からは、10年間を目標にLED照明への転換を図ります。LED灯は、蛍光灯と比べて球切れがないので、夜間の安全性が向上します。	活動実績	下記の活動指標通りです。
-------------	--	-------------	--------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	本市設置防犯灯の管理灯数	本市が設置している防犯灯数(約14,600灯)について、効率的な配置のもと、現灯数を維持します。	14,643 灯	現状維持	14,631 灯	
本市設置防犯灯のLED化灯数	毎年度、全灯数の約1割をLED化します。	—	1,500 灯	100.0 %	大変順調 順調	順調
				1,622 灯	やや遅れ 遅れ	
				108.1 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	防犯灯について、現灯数を維持し、LED化も計画どおり進んでいます。また、犯罪発生件数も減少するなど、成果の状況、活動状況、いずれも順調です。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	LED照明に転換した場合、維持管理経費(電気代)が大幅に減少しますので、引き続き、防犯灯のLED化を促進します。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	防犯灯については、平成23年度以降の10年間で、LED灯への転換を図ります。これまで、計画どおりLED化が進んでいます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	事業費は現状維持し、計画通り、防犯灯のLED化を進めます。	LED灯は、蛍光灯と比べて球切れがないので、夜間の安全性の向上が見込まれます。あわせて、維持管理費(電気代)の減少を図ります。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	交通安全センター管理運営業務						施策番号	II-1-(3)-①	
	コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	3,075 千円	(備考)	担当局
27,350 千円			27,351 千円	課長		0.05 人 職員 0.2 人	担当課		安全・安心課
			係長	0.1 人		課長名	福本		

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	交通事故死者数を減少させることはもちろん、交通事故事故件数自体の減少に取り組むことによって、安全で安心なまちを目指します。				成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	交通事故の発生件数	8,859 件	件数減 (前年比較)	278件増		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	第8次北九州市交通安全計画(平成23年度～平成27年度)に基づき、各団体・関係機関が連携して交通安全対策に取り組むことにより、交通事故の発生件数の減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 8,000件以下(平成27年)								
	交通事故死亡者数	31 人	人数減 (前年比較)	3人減		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調		
第8次北九州市交通安全計画(平成23年度～平成27年度)に基づき、各団体・関係機関が連携して交通安全対策に取り組むことにより、交通事故死亡者数の減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 22人以下(平成27年)									

活動計画	今年度は、学校へ積極的に働きかけを行い、交通安全教室の開催数の増加に取り組んでいきます。「自転車運転免許証」について、子どもたちが持ちたいという気持ちになるよう制度の充実を図ります。また、大人対象の自転車教室やシルバーナイトスクールを開催するなど、全ての年代を対象として自転車の安全利用に関する教育を進めていきます。	活動実績	下記の活動のほかに、主に小学生高学年を対象に、講習受講者に対し「自転車運転免許証」を交付しています。						
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】			
	交通公園入場者数	170,125 人	180,000 人	184,682 人		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
	交通公園の入場者を増加させることで、自転車をはじめとした交通ルールの周知、遵守やマナーの改善を図ります。			102.6 %					
	安全教室の開催数	456 回	500 回	546 回		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調		
警察等と連携して、交通公園や小学校等での交通安全教室を開催します。	109.2 %								

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	交通公園は屋外利用施設であるため、入場者数は天候に左右されます。また、休日の利用が主ですが、休日における施設の収容人員はほぼ上限まできており、安全確保の面から、大幅に入場者数を増やすことは難しくなっています。そのため、安全教室などの内容を充実させることや、平日を有効に使える高齢者向けの教室を増加させるなど、交通安全思想の普及を一層図ることにしています。 全国的に自転車の安全利用が課題となっている中、「交通公園」を設置している自治体は少ないことから、有効な取り組みと判断しています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	平成18年度より指定管理者制度を導入し、経費の削減を図りました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	交通事故件数は、昨年と同水準で推移しており、平成27年までに8,000件以下とするためには大幅に交通事故発生件数を減少させる必要があります。死者数については、高齢者が関連した件数が半数を超えており、高齢者の死亡事故件数を減らすことが課題です。交通公園においても、高齢者を対象とした交通安全教室を充実させるなどの対策が必要であると考えています。		
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)		
	交通公園に自転車シミュレーターを導入し、高齢者も参加しやすい交通安全教室を実施するなど、交通安全教育機能を充実させて一層の事故防止を図るための取組みを予算を拡充して実施します。	啓発や教育等の取り組みはすぐに結果がでるものではないため、まずは交通事故件数や死者数が前年を下回るよう継続的に取り組みます。		

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	交通安全推進事業					施策番号					
						Ⅱ-1-(3)-①					
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	9,800 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		8,549 千円	9,844 千円		課長	0.2 人		職員	0.6 人	担当課	安全・安心課
					係長	0.3 人				課長名	福本

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	交通事故死者数を減少させることはもちろん、交通事故事故件数自体の減少に取り組むことによって、安全で安心なまちを目指します。				成果実績	成果の状況は下記のとおりです		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	交通事故の発生件数	8,859 件	件数減 (前年比較)	278件増	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	第8次北九州市交通安全計画(平成23年度～平成27年度)に基づき、各団体・関係機関が連携して交通安全対策に取り組むことにより、交通事故の発生件数の減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 8,000件以下(平成27年)								
	交通事故死者数	31 人	人数減 (前年比較)	3人減		順調			
第8次北九州市交通安全計画(平成23年度～平成27年度)に基づき、各団体・関係機関が連携して交通安全対策に取り組むことにより、交通事故死者数の減少を目指します。 (最終目標と目標年度) 22人以下(平成27年)									

活動計画	平成23年度中に策定予定の第8次北九州市交通安全計画に基づいて、その重点項目である「自転車等の安全確保」、「高齢者の安全確保」、「飲酒運転の撲滅」に取り組みます。 特に、本市は環境活動に積極的に取り組んでいることから、自転車ルール・マナーの向上に取り組んでいます。				活動実績	下記の活動のほか、 ・新小学校1年生に、黄色い帽子の配布 ・高齢者に、調剤薬局での啓発物の配布などを行ないました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】			
	高齢者に対する交通安全教室開催数	319 回	350 回	494 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
	高齢者の交通事故を防止するため、老人クラブ等と連携し、高齢者が参加するイベント等で巡回交通安全教室を実施します。			141.1 %					
	小学校での交通安全教室開催数	183 回	200 回	205 回		順調			
学校や地域と連携し、歩行者としての知識や自転車のルールなどを習得するための交通安全教室を実施します。	102.5 %								

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	交通事故発生件数は、過去最悪であった平成15年以降、若干の上下をしながら傾向的には減少傾向にあります。死者数は、平成16年以降、毎年減少しています。交通事故は一朝一夕ではなくならないことから、これまでと同様に、市、警察や関係団体、地域が一体となって、交通安全運動に取り組んでいく必要があると考えています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ポスターやチラシなどは県が作成したものを購入することで、経費の軽減を図っています。また、啓発物品については各区分を市で一括購入することで単価を引き下げています。引き続き、経済性・効率性の検討を進めていきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 交通事故件数は、昨年と同水準で推移しており、平成27年までに8,000件以下とするためには大幅に交通事故発生件数を減少させる必要があります。死者数については、高齢者が関連した件数が半数を超えており、高齢者の死亡事故件数を減らすことが課題です。そのため、啓発事業を引き続き実施するとともに、効果的な広報・啓発に努めます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容) 交通安全教室や交通事故防止の啓発に触れる機会の少ない高齢者に対しても、一層効果的に広報・啓発ができるよう取り組みます。 なお、事業の集中化・効率化を図ることで予算の縮小を行います。高齢者への啓発に力点を置いた取り組みを実施するなどし、啓発事業の効果は維持します。	啓発や教育等の取り組みはすぐに結果がでるものではないため、まずは交通事故事故件数や死者数が前年を下回るよう継続的に取り組みます。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	暴力追放啓発推進事業						施策番号		
							Ⅱ-1-(3)-②		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	9,300 千円	(備考) 業務割合は事業数にて均等割。(8/25付採用の係長は、在職期間7.2ヶ月とする)	担当局	市民文化スポーツ局
		6,944 千円	7,984 千円		課長	0.4 人 職員 0.2 人		担当課	民事暴力相談センター
					係長	0.32 人		課長名	七五三

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	北九州市から暴力団をなくすため、暴力追放市民大会や研修会等の実施により、事業者や市民の暴力追放意識の高揚及び暴排気運の醸成を図るとともに、市の事務事業からの暴力団排除を徹底させます。			成果実績	当事業の成果の検証は、「主要施策等の成果検証にかかる市民意識調査」により、下記目標を目指します。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	暴迫対策に対する市民の評価	— %	暴迫対策に対する市民の評価の対前年増を図ります	45 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	市民意識調査項目の「北九州市の暴力追放対策が、以前と比べ進んでいると思いますか。」の質問に「進んでいる」「少し進んでいる」と回答した市民の割合を高めめます。	— %		%				
	(最終目標と目標年度)市民が安全に、安心して暮らせる社会の確保、社会経済活動の健全な発展が感じられる状態	— %		%				
			— %	%	順調			

活動計画	暴力追放意識の高揚を図るため、暴迫大会や研修会等を開催し、啓発活動の推進を図ります。また、8月を暴力追放啓発強調月間と位置づけ、暴力追放広報啓発を集中して実施します。さらに民事暴力相談業務の充実のため、弁護士相談等を行います。	活動実績	下記の活動のほか、暴力追放の広報啓発、弁護士相談等を実施しました。
-------------	---	-------------	-----------------------------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
	暴迫大会や研修会等の実施開催		2 回	3 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	暴迫大会や研修会・出前講演等の開催により、暴力追放啓発活動を推進し、暴力追放意識の高揚を図ります。暴迫大会の開催数を指標とします。			150.0 %				
				%				
			%	順調				

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	暴迫意識の高揚と暴排気運の醸成を図ることを目的に、毎年、全市的な規模の暴迫大会を開催しています。年度当初は市民大会と県民大会(共催)の2回を開催の予定でしたが、加えて緊急市民大会の計3回を開催し、約5,000人の参加が得られました。併せて、出前講演等研修会を22回開催し、参加者数の増加(1,370人→3,116人)が得られました。また、8月の暴力追放啓発強調月間において、様々な広報媒体により啓発が行われるなど、事業が予定どおり進んでいるため、順調としました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。」	市の事務事業だけではなく民間の大型事業からの暴排にも取組んでいます。また、商工会議所等の業界団体を通じた啓発活動を行っています。暴迫啓発強調月間の事業について、より効果的な啓発を行うためコンペ方式による啓発事業を実施しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	本年8月以降の小倉・黒崎地区の繁華街における放火が疑われる不審火、飲食店等の従業員を狙った連続殺人未遂事件や脅迫事件等の被害が相次いでおり、また、平成24年度の市民意識調査(中間報告)でも、市政要望の項目として「防犯・暴力追放の推進」が第1位となっています。今後も、警察と連携しながら、効果的な暴迫運動を展開し、事業者や市民の暴力追放意識の高揚及び暴排気運の醸成を図る必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	暴迫大会や研修会・出前講演等の開催、暴力追放啓発強調月間の実施により、暴力追放啓発活動を推進し、暴力追放意識の高揚を図ります。事業規模は現状を維持して実施しますが、事業の統廃合などにより予算は縮小しつつ効率的な事業実施を図ります。	市民意識調査における暴迫対策に対する市民評価の向上を図ります。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	民事暴力相談センター運営事業						施策番号				
							Ⅱ-1-(3)-②				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	9,300 千円	(備考) 業務割合は事業数にて均等割。(8/25付採用の係長は、在職期間7.2ヶ月とする)	担当局	市民文化スポーツ局		
		17,711 千円	18,996 千円		課長	0.4 人		職員	0.2 人	担当課	民事暴力相談センター
					係長	0.32 人				課長名	七五三

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	北九州市から暴力団をなくすため、暴力追放市民大会や研修会等の実施により、事業者や市民の暴力追放意識の高揚及び暴排気運の醸成を図るとともに、市の事務事業からの暴力団排除を徹底させます。	成果実績	当事業の成果の検証は、「主要施策等の成果検証にかかる市民意識調査」により、下記目標を目指します。
-----------	--------------------	---	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		指標 暴排対策に対する市民の評価 市民意識調査項目の「北九州市の暴力追放対策が、以前と比べ進んでいると思いますか。」の質問に「進んでいる」「少し進んでいる」と回答した市民の割合を高めます。 (最終目標と目標年度) 市民が安全に、安心して暮らせる社会の確保、社会経済活動の健全な発展が感じられる状態	— %	暴排対策に対する市民の評価の対前年増を図ります	45 %	
		— %		%	大変順調	順調
		— %		%	順調	順調
		— %		%	やや遅れ	順調
		— %		%	遅れ	順調

活動計画	常駐の専門の相談員による民事介入暴力相談を実施し、警察や弁護士と連携し、問題の解決を図ります。また、小倉都心部にある繁華街の再生及び暴力追放の拠点施設の管理運営を行います。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		指標 民事介入暴力相談の実施回数 弁護士による民事介入暴力相談を実施し、問題の解決を図ります。1月あたりの実施回数を指標とします。	—	2 回	2 回 100.0 %	
		—		%	大変順調	順調
		—		%	順調	順調
		—		%	やや遅れ	順調
		—		%	遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 3名の常駐の専門の相談員が年間230件の民事介入暴力相談を受け、警察や弁護士と連携し、問題の解決を図りました。また、小倉都心部にある繁華街の再生及び暴力追放の拠点施設である塚町安全・安心センターの管理運営を行いました。事業が予定どおり進んでいるため、順調としました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 相談員による相談業務の他、弁護士による相談を月2回実施しており、より専門的な問題や法的な問題の相談に応じています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 本年8月以降の小倉・黒崎地区の繁華街における放火が疑われる不審火、飲食店等の従業員を狙った連続殺人未遂事件や脅迫事件等の被害が相次いでおり、また、平成24年度の市民意識調査(中間報告)でも、市政要望の項目として「防犯、暴力追放の推進」が第1位となっています。今後も、警察と連携しながら、効果的な暴排運動を展開し、事業者や市民の暴力追放意識の高揚及び暴排気運の醸成を図る必要があります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	常駐の専門の相談員による民事介入暴力相談を実施し、警察や弁護士と連携し、問題の解決を図ります。また、小倉都心部にある繁華街の再生及び暴力追放の拠点施設である塚町安全・安心センターの管理運営を行います。事業規模は現状を維持して実施しますが、事業の統廃合などにより予算は縮小しつつ効率的な事業実施を図ります。	市民意識調査における暴排対策に対する市民評価の向上を図ります。

P D C A チェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	暴力追放運動推進補助事業					施策番号			
						Ⅱ-1-(3)-②			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	9,300 千円	(備考) 業務割合は事業数にて均等割。(8/25付採用の係長は、在職期間7.2ヶ月とする)	担当局	市民文化スポーツ局
		4,625 千円	3,587 千円		課長	0.4 人 職員 0.2 人		担当課	民事暴力相談センター
					係長	0.32 人		課長名	七五三

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 北九州市から暴力団をなくすため、暴力追放市民大会や研修会等の実施により、事業者や市民の暴力追放意識の高揚及び暴排気運の醸成を図るとともに、市の事務事業からの暴力団排除を徹底させます。	成果実績	当事業の成果の検証は、「主要施策等の成果検証にかかる市民意識調査」により、下記目標を目指します。			
代表的な成果指標	指標(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【成果の状況】
	暴追対策に対する市民の評価	— %	暴追対策に対する市民の評価の対前年増を図ります	45 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民意識調査項目の「北九州市の暴力追放対策が、以前と比べ進んでいると思いますか。」の質問に「進んでいる」「少し進んでいる」と回答した市民の割合を高めます。			%		順調
	(最終目標と目標年度)市民が安全に、安心して暮らせる社会の確保、社会経済活動の健全な発展が感じられる状態	— %		%		

活動計画	暴力追放運動を推進している北九州市暴力追放推進会議をはじめ、(公財)福岡県暴力追放運動推進センターや各区及び市民団体等の活動に対し支援を行います。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
------	---	------	----------------	--	--

活動指標	指標(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	暴力追放運動推進支援団体数		2 団体	2 団体	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	暴力追放運動推進団体へ補助金等の支援を行います。支援団体数を指標とします。			100.0 %		順調
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	暴追意識の高揚と暴排気運の醸成を図ることを目的に、暴力追放推進団体に対して補助金等を交付し支援を行いました。事業が予定どおり進んでいるため、順調としました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	全体的な暴追大会に加えて各区暴追運動に対し補助を行うことで、地域における取り組みを活性化し、市全体の暴追の意識を高めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	本年8月以降の小倉・黒崎地区の繁華街における放火が疑われる不審火、飲食店等の従業員を狙った連続殺人未遂事件や脅迫事件等の被害が相次いでおり、また、平成24年度の市民意識調査(中間報告)でも、市政要望の項目として「防犯・暴力追放の推進」が第1位となっています。今後も、警察と連携しながら、効果的な暴追運動を展開し、事業者や市民の暴力追放意識の高揚及び暴排気運の醸成を図る必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	北九州市暴力追放推進会議をはじめ、(公財)福岡県暴力追放運動推進センターや各区及び市民団体等の活動に対する支援を行います。また、防犯カメラ設備設置に対する補助金を交付することで、繁華街の飲食業者等による防犯カメラ設置の促進を図るため、事業規模を拡充して実施します。	市民意識調査における暴追対策に対する市民評価の向上を図ります。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	暴力追放市民支援事業						施策番号				
							Ⅱ-1-(3)-②				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	9,300 千円	(備考) 業務割合は事業数にて均等割。(8/25付採用の係長は、在職期間7.2ヶ月とする)	担当局	市民文化スポーツ局		
		12,244 千円	22,074 千円		課長	0.4 人		職員	0.2 人	担当課	民事暴力相談センター
					係長	0.32 人				課長名	七五三

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	北九州市から暴力団をなくすため、暴力追放市民大会や研修会等の実施により、事業者や市民の暴力追放意識の高揚及び暴排気運の醸成を図るとともに、市の事務事業からの暴力団排除を徹底させます。			成果実績	当事業の成果の検証は、「主要施策等の成果検証にかかる市民意識調査」により、下記目標を目指します。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	暴追対策に対する市民の評価	— %	暴追対策に対する市民の評価の対前年増を図ります	45 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	市民意識調査項目の「北九州市の暴力追放対策が、以前と比べ進んでいると思いますか。」の質問に「進んでいる」「少し進んでいる」と回答した市民の割合を高めます。			%					
	(最終目標と目標年度)市民が安全に、安心して暮らせる社会の確保、社会経済活動の健全な発展が感じられる状態	— %		%					
			%	順調					

活動計画	北九州市暴力団排除条例の実効性を確保するため、市民・事業者に対し広報・啓発及び安全対策の支援を行います。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
-------------	--	-------------	----------------	--	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】			
	市民・事業者に対する支援	—	市民等に対する広報・啓発、安全対策の支援の実施	%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
	暴追大会の開催、暴追CM放映および、必要な箇所に防犯カメラを設置することにより、市民・事業者に対する広報・啓発及び安全対策の支援を行います。			%					
				%					
			%	順調					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	暴追意識の高揚と暴排気運の醸成を図ることを目的に、全庁的な規模の暴追大会を開催するとともに、小倉繁華街において暴力追放CMを放映しました。また、暴力団事務所撤去運動を実施した地域の安全確保、犯罪防止のため防犯カメラを設置しました。安全安心指導員を各区に配置することで地域のおける防犯・暴追運動を支援しました。事業が予定どおり進んでいるため、順調としました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	暴追啓発強調月間で作成したCMを活用することにより民事暴力相談センターの周知を図りました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	本年8月以降の小倉・黒崎地区の繁華街における放火が疑われる不審火、飲食店等の従業員を狙った連続殺人未遂事件や脅迫事件等の被害が相次いでおり、また、平成24年度の市民意識調査(中間報告)でも、市政要望の項目として「防犯、暴力追放の推進」が第1位となっています。今後も、警察と連携しながら、効果的な暴追運動を展開し、事業者や市民の暴力追放意識の高揚及び暴排気運の醸成を図る必要があります。		
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)		
	暴追大会の開催、暴追CM放映等による広報・啓発を、より一層効果的に行うよう取り組みを進めるとともに、市民・事業者に対する安全対策の支援を行います。事業規模は現状を維持して実施しますが、事業の統廃合などにより予算は縮小しつつ効率的な事業実施を図ります。	市民意識調査における暴追対策に対する市民評価の向上を図ります。		

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	防犯カメラ設置調査事業						施策番号				
							Ⅱ-1-(3)-②				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	9,300 千円	(備考) 業務割合は事業数にて均等割。(8/25付採用の係長は、在職期間7.2ヶ月とする)	担当局	市民文化スポーツ局		
		1,917 千円	154,000 千円		課長	0.4 人		職員	0.2 人	担当課	民事暴力相談センター
					係長	0.32 人				課長名	七五三

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	市内主要幹線道路沿いに防犯カメラを設置することにより、犯罪の起きにくい安全・安心なまちづくりを推進するとともに、重大犯罪等の抑止を図ります。	成果実績	当事業では、平成24年度の防犯カメラ設置に向けた諸調査を実施します。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	防犯カメラ設置箇所等の決定	— %	設置箇所等の決定	%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	防犯カメラに関する市民意識調査ならびに防犯カメラ撮影試験を行い、設置箇所等を決定します			%		
	(最終目標と目標年度)防犯カメラの設置及び運用開始	— %		%		順調
			%			

活動計画	暴力追放等の効果を高めるため、防犯カメラの設置に向けた調査を行います。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	-------------------------------------	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	防犯カメラ設置調査の実施	—	調査の実施	%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	暴力追放等の効果を高めるため、防犯カメラの設置に向け、市民意識調査およびカメラ撮影試験調査を行います。			%		
				%		順調
			%			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 市民意識調査により市民ニーズを把握したうえで防犯カメラ設置事業計画を進めました。また、複数のメーカーによる撮影試験を行うことで、防犯カメラの設置目的に適合する性能を有することを検証し、実際の防犯カメラ設置にあたっては一般競争入札によりコストダウンを図ることが可能であることを確認しました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 当初計画の市内主要幹線道路20箇所78台に加え、本年8月以降の小倉・黒崎地区の繁華街における放火が疑われる不審火、飲食店等の従業員を狙った連続殺人未遂事件や脅迫事件等の被害が続く状況のなか、繁華街の安全・安心の確保に向けた緊急措置として、監視機能強化による凶悪犯罪の抑止を目的に、小倉北区及び八幡西区繁華街に街頭防犯カメラの設置を進めます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	防犯カメラの設置により、犯罪の起きにくい安全・安心なまちづくりを推進するとともに、重大犯罪等の抑止を図ります。
	防犯カメラ設置に係る調査を終えたため本事業は終了します。今後は福岡県の防犯カメラ設置に関するガイドラインに基づき、北九州市の運用基準を設け、適正な運用を行います。	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	戦時資料展示コーナー管理運営事業						施策番号		
							Ⅱ-3-(4)-①		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,220 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
		2,471 千円	1,661 千円		課長	0.03 人 職員 0.05 人		担当課	地域振興課
					係長	0.05 人		課長名	櫻江

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 戦時資料展示コーナーは、各区で開催した「巡回平和資料展」が平成15年度に一巡したことを受けて、平成16年度に北九州市率埋蔵文化財センター内(小倉北区金田1-1-3)に開設しました。このコーナーの目的は、市民からご寄贈いただいた戦時下の資料を保管・展示することにより、風化しつつある戦争がもたらした戦禍と平和の尊さを多くの市民に理解いただき、二度と同じ過ちを繰り返さないよう次の世代に伝えていくことです。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです
-----------	---	-------------	-------------------

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
代表的な成果指標	戦時資料展示コーナー見学者数	3,647 人	3,600 人	4,208 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック 順調
	戦争の参加と平和への尊さに直接触れることができる機会を示す指標となるため、成果指標と設定しました。最終目標は平成18年度から21年度の平均の伸び率1%に平成21年度の子どもの入館者数を倍増させて設定しました。 (最終目標と目標年度)4,000人(25年度)			116.9 %		
	(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	今年度は22年度に引き続き、夏休みの機会を利用して戦争の悲惨さや平和の尊さを学んでもらうよう、私立小学校を含む、市内全小学校の6年生児童に戦時資料展示コーナーの案内チラシを配布します。また、あわせて区役所や市民センターを通じたチラシの配布を行うとともに、ホームページの掲載等による広報に努めます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです
-------------	--	-------------	---------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
活動指標	市民への広報活動件数	268 箇所・校	280 箇所・校	281 箇所・校	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック 順調
	見学者の増加に向けて、小中学校や区役所、市民センターに案内チラシを配布するなどあらゆる機会を捉えて広報活動を実施します。			100.4 %		
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	チラシ配布は予定通り行い、成果は目標値を達成しました。教育委員会と連携して全市立小学校6年生の教材として、戦時資料をより詳しく知ってもらうための資料を配布したことにより、小学校の来館者の増加なども影響していると考えられます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	戦時資料展示コーナーの管理費については、埋蔵文化財センターの面積按分で負担していますが、埋蔵文化財センターの管理運営は、松本清張記念館や文学館など、総合生涯学習センターと一括して委託しているため、コスト削減の余地は少ないと考えます。 広報活動に関しては、民間企業が行ったウォーキングのコースに戦時資料展示コーナーを組み込んでもらうことができ、入館者数を大幅に増やすことができました。今後も民間企業のイベント等を活用するなど効果的な広報を実施していきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 平成23年度は教育委員会や民間企業との連携により、見学者数は目標を大幅に上回ることができました。今後、さらに見学者の増加に向け、様々な機会を活用して、多くの人に戦時資料展示コーナーのPRが必要です。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成25年度は新たに中学校1年生を対象にPRを行う予定です。事業費は現状維持とし、事業を実施します。
	戦時資料展示コーナー見学者数は平成23年度にイベントとの連携により最終目標値を達成しましたが、平成25年度以降も継続的に4,000人以上の見学者を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	落書き消去活動支援事業						施策番号
							Ⅲ-1-(1)-④
コスト	事業費	平成23年度執行額 224 千円	平成24年度当初予算額 250 千円	人件費 の目安	金額 1,750 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局
					課長 0 人 職員 0.1 人	担当課	安全・安心課
					係長 0.1 人	課長名	福本

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	「落書き」はまちの景観を損なうとともに、放置すれば犯罪の発生を誘発するおそれがあります。地域団体、企業、学校、NPO等に溶剤・用具等の提供を行い、落書き消去活動を支援することにより、地域住民等のモラル・マナーアップを図るとともに、安全で安心して快適なまちづくりを行います。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	落書き消去活動への参加人数	85 人	50 人	60 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	地域住民等が自主的に落書き消去活動に取り組むことにより、まちの景観の回復だけでなく、地域におけるモラル・マナーの向上につながるため、活動への参加人数を指標としました。 (最終目標と目標年度) 平成25年度 延べ参加人数250人			120.0 %		
	(最終目標と目標年度)			%		順調

活動計画	地域団体、企業、商店街、学校、NPO等に、落書き消しの溶剤や用具等の提供を行い、地域における落書き消去活動を支援します。		活動実績	ホームページで落書き消去支援制度について周知・広報を行うとともに、本年度制作した啓発DVDにも制度の紹介を盛り込むなど、利用促進を図りました。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	落書き消去活動支援制度の周知・広報	- 件	支援制度の周知 件	- 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	地域住民等が自主的に落書き消去活動に取り組むことにより、まちの景観の回復だけでなく、地域におけるモラル・マナーの向上につながるため、本制度の活用についての周知、広報を指標としました。			%		
	(最終目標と目標年度)			%		順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	本制度の周知を進めることにより、落書き消去活動の活発化を図っています。本年度は、大規模な落書きを消去するため、周辺地域の団体に制度を周知するとともに、連携して落書き消去イベントを開催したところ、地域住民や学生など多くの参加があり、目標とした人数を上回りました。市民自らが落書き消去活動を行うことで、その姿を見た他の住民等も含め、地域におけるモラル・マナーアップが図られたと考えています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	地域住民等による自主的な落書き消去活動に対する支援を行っているものであり、経済性、効率性は十分図られていると考えています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 落書き消去活動の参加者は目標の50人を超えました。しかし、平成24年度は、事業の利用が低迷しており、周知の方法や利用しやすい仕組みづくりが課題です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	落書き消去活動の支援を「地域における迷惑行為防止活動」の支援メニューに加えることにより、地域において迷惑行為の防止に取り組む団体に事業を周知し、利用促進を図ることで、地域における落書き防止の効果を維持するため、予算は現状を維持します。	地域住民が自主的に落書き消去活動に取り組むことにより、まちの景観の回復や地域におけるモラル・マナーの向上につながるため、平成25年度までに活動への参加人数を延250人を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	モラル・マナーアップ関連条例推進事業						施策番号				
							Ⅲ-1-(1)-④				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	9,450 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		43,725 千円	42,985 千円		課長	0.3 人		職員	0.4 人	担当課	安全・安心課
					係長	0.3 人				課長名	福本

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市内における4つの迷惑行為(路上喫煙、ごみのポイ捨て、飼い犬のふんの放置、落書き)について、その発生を防止し、快適な生活環境を図ります。このため、人が多く集まる中心市街地など特に周囲の人々に影響を及ぼす地域を「迷惑行為防止重点地区」に指定し、同地区内において迷惑行為を行った者に対して過料の適用を行い、市民のモラル・マナーの向上を図ります。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【成果の状況】	
	モラル・マナーアップ関連条例に基づく過料適用件数の削減(小倉都心地区、黒崎副都心地区)	小倉 23.1 黒崎 - (H22.10月から徴収開始)	% 削減	30.8 % 削減	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	条例に基づく過料適用と周知のための広報活動に取り組んでおり、この取組みの周知が進むことによって条例違反者の減少が予測されるため、過料適用件数(1日平均)を過料適用開始時から小倉20%、黒崎10%削減を目標として取り組むこととしました。 (最終目標と目標年度) 平成25年度 小倉都心地区20%・黒崎副都心地区10%削減			% 削減		%	大変順調
						%	
				%			

活動計画	重点地区(小倉、黒崎地区)において巡視活動を実施するとともに、路面標示等の環境整備の充実や市政だより等の広報媒体の活用により、条例や重点地区についての広報・啓発を行います。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	迷惑行為防止重点地区での取り組みに関する広域にわたる啓発・広報活動回数	75 回	24 回	55 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	迷惑行為の発生を防止するためには、重点地区における巡視・過料適用とともに、市民に向けての広報活動が必要で、このため、街頭における広報活動や市政広報物を利用した広報など、より周知効果の高い媒体を利用した広報活動に取り組みます。なお、平成22年度は、重点地区及び推進地区の拡大があり、キャンペーン隊などを使った集中的な広報を行い、マスコミに多く取り上げられました。平成23年度は、制度の変更等を予定していないため、月2回程度の広報を目標としました。			229.2 %		大変順調
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	重点地区内での巡視、広報、環境整備に取り組んだ結果、重点地区内における過料適用件数は大幅に減少しており、市民のモラル・マナーの向上に高い効果が見られました。小倉、黒崎の重点地区における巡視活動を継続して実施するとともに、様々な媒体を用いて取り組みの広報活動を展開します。平成23年度は、24回を目標としていましたが、市民啓発用DVDの撮影の過程をホームページに細かに公開するなど、市民の関心を高める取り組みを行い、目標を上回る結果となりました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	条例違反者への指導・過料の徴収については、違反者の反発等によるトラブルが予想されます。これまで、巡視員に対する公務執行妨害事件へ発展することもあり、高度な対応能力、説明能力、法的知識が不可欠であることに加え、警察と緊密に連携をとる必要があることから、民間での対応は極めて困難であるため、市が警察OBを雇用し、実施しています。施策実現のためには、市において、重点地区における巡回指導、過料徴収及び広報活動を継続して実施していくことが不可欠と考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 モラル・マナーアップ関連条例に基づく過料適用件数(1日平均)については、広報や巡視・啓発活動の実施で減少しています。平成24年度においては、巡視活動を継続するとともに、JR小倉駅前やJR黒崎駅前に設置した音声案内装置や空港バスの車内放送等による条例の周知を行うなど、市民のみならず、市外からの来訪者への広報の充実を図っています。現在のところ、過料適用件数は前年度に比べて減少傾向にあります。違反者の約4割が市外からの来訪者であることから、継続して広報の工夫に取り組む必要があります。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	迷惑行為の防止には、息の長い取り組みが必要であるため、引き続き、巡視活動と広報・啓発の効果を持し、予算は現状を維持します。	過料の適用件数(1日平均)は、目標年度である平成25年度において、小倉都心地区は20%削減、黒崎副都心地区10%削減を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	モラル・マナーアップ関連条例地域活動支援事業						施策番号		
							Ⅲ-1-(1)-④		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	6,950 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
		2,425 千円	2,521 千円		課長	0.3 人 職員 0.2 人		担当課	安全・安心課
			係長		0.2 人	課長名		福本	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	全市的な迷惑行為の防止を図るためには、市の重点地区における取組みとともに、地域の理解と協力の下での自主的な取組みが不可欠です。このため、迷惑行為の防止に自主的に取り組む地域を支援することによって活動の活発化及び迷惑行為を「しない」「させない」意識の醸成を図る取組みを進めます。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	--------------------	--	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		迷惑行為防止活動実施地域数 市民のモラル・マナーアップを図り、全市的に迷惑行為をなくしていくためには、重点地区における過剰による規制だけでなく、地域住民が自主的に迷惑行為防止の取組みを行うことが重要です。そのため、推進地区を含め、本市において防止活動に取り組む地域数を指標としました。 (最終目標と目標年度) 平成25年度 延122地域	2 地域	延42 地域	延47 地域 111.9 %	
	(最終目標と目標年度)			%		大変順調

活動計画	推進地区での取組みについて様々な媒体を使って広報するとともに、推進地区以外の地域において迷惑行為防止に取り組む団体に対して支援を行い、市内全域に市民が自発的な活動ができるための取組みを進めます。	活動実績	ホームページや自治会等への説明により周知・広報を行うとともに、本年度制作した啓発DVDにも制度の紹介を盛り込むなど、利用促進を図りました。
-------------	---	-------------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		迷惑行為防止活動支援制度の周知・広報 市民のモラル・マナーアップを図り、全市的に迷惑行為をなくしていくためには、重点地区における過剰による規制だけでなく、地域住民が自主的に迷惑行為防止の取組みを行うことが重要です。そのため、本制度の周知、広報を指標としました。	- 件	支援制度の周知 件	- 件 %	
				%		大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	市民による迷惑行為防止活動が推進地区を含む市内全域で行われました。推進地区以外の地区においては、啓発に必要な物品(ポスター、チラシ、のぼり、ポケットティッシュ)を支援する事業を実施し、この周知・広報に努めた結果、目標を上回る地区からの申請があり、地域住民による自主的な迷惑行為防止活動が活発化しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	広報活動については、低コストとなるように無料の広告媒体(市政テレビ・ラジオ、市のHP、既製の印刷物への掲載など)を中心に実施し、地域への支援物品についても必要最小限のものに抑えています。市民のモラル・マナーの向上のためには、地域住民の自主的な活動を支援していくことが重要であると考えています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 推進地区5地区の支援に加え、平成23年度から推進地区以外で迷惑行為防止活動に取り組む団体への啓発物品の支援を行い、目標を上回る47地域へ支援を行いました。 平成24年度も、既に前年度を上回る地域からの申請がっており、活動は順調に広がりを見せています。 新たな地域が活動に参加し、活動が更なる広がりを見せるよう周知に取り組む必要があります。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	地域住民による迷惑行為防止活動の輪が市内全域に広がっていくよう、事業規模を維持し、迷惑行為防止活動推進制度の利用促進を図ります。全市的に迷惑行為防止の効果を維持するため、予算は現状を維持します。	延47地域と目標は達成されたので、平成25年度までに延122地域を目指し、着実に迷惑行為防止活動の輪を広げていきます。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	迷惑行為防止基本計画推進事業					施策番号	
						Ⅲ-1-(1)-④	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	10,850 千円 (備考)	
		3,299 千円	5,000 千円		課長	0.4 人 職員	0.3 人
					係長	0.4 人	
					担当局	市民文化スポーツ局	
					担当課	安全・安心課	
					課長名	福本	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	「迷惑行為防止基本計画」の二つの基本方針である、迷惑行為をしない・させない「人づくり」、及び、迷惑行為をしない、させない「環境づくり」を推進するため、マナーアップ教育や市民啓発の推進などの各施策に取組むことにより、全市民的なモラル・マナーの向上を図ります。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
----	---------------------	--	------	--------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	モラル・マナーアップ関連条例に基づく過料適用件数の削減(小倉都心地区、黒崎副都心地区)	小倉 23.1 % 削減 黒崎 - (H22.10 月から徴収開始)		単年度の目標設定はありません。	30.8 % 削減	
条例に基づく過料適用と周知のための広報活動に取り組んでおり、この取り組みの周知が進むことによって条例違反者の減少が予測されるため、過料適用件数(1日平均)を過料適用開始時から小倉20%、黒崎10%削減を目標として取り組むこととしました。 (最終目標と目標年度)平成25年度 小倉都心地区20%、黒崎副都心地区10%削減						
迷惑行為防止活動実施地域数	市民のモラル・マナーアップを図り、全市民的に迷惑行為をなくしていくためには、重点地区における過料による規制だけでなく、地域住民が自主的に迷惑行為防止の取組みを行うことが重要であり、推進地区を含め、本市において防止活動に取り組む地域数を指標としました。 (最終目標と目標年度)平成25年度 延122地域	延 2 地域	延 42 地域	延 47 地域	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	迷惑行為の防止を総合的、計画的に推進するため「迷惑行為防止基本計画」(平成23年2月策定)に掲げた事業に取組みます。平成23年度は、児童に対するマナーアップ教育や市民啓発の推進に取組みます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
------	---	------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	マナーアップ教育教材の配付	市内の小学6年生を対象としたマナーアップ教育教材を作成し、各小学校に配付することにより、マナーアップ教育を推進します。	-	9,300 部	9,300 部	
市民啓発用DVDの配布(箇所)				100.0 %		
市民啓発用DVDの制作し、市民センターで貸出しを行うことにより、地域住民のモラル・マナーの向上を図ります。また、小学校にも配付することで教育啓発効果の向上を図ります。		-	262 箇所	262 箇所	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
				100.0 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	モラル・マナーの向上のためには子どものところからのマナーアップ教育が重要であり、これまで学校における道徳教育等の中で取組まれてきましたが、本市のモラル・マナーアップ施策と連携することで、より効果が高まるものと考えています。この教育効果を持続させるためには、同時に子どもの手本となる大人のモラル・マナーの向上が不可欠であることから、併せて市民啓発DVDを制作しました。また、マナーアップ教育教材と合わせて活用できるよう本DVDを小学生向けに再編集し、各小学校へ配付しています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	平成23年度事業に関しては、児童向けマナーアップ教育教材と市民啓発DVDの制作を合わせて行うことにより、低いコストで高い効果を得ることができたと考えています。本事業は、基本計画に掲げる施策に順次取組むものであるため、各取組みの内容の中で経済性・効率性の向上について検討していきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	モラル・マナーアップ関連条例に基づく過料適用件数(1日平均)については、広報や巡視・啓発活動の実施で減少しています。平成24年度においては、巡視活動を継続するとともに、JR小倉駅前やJR黒崎駅前に設置した音声案内装置や空港バスの車内放送等による条例の周知を行うなど、市民のみならず、市外からの来訪者への広報の充実を図っています。現在のところ、過料適用件数は前年度に比べて減少傾向にあります。違反者の約4割が市外からの来訪者であることから、継続して広報の工夫に取り組む必要があります。推進地区5地区の支援に加え、平成23年度から推進地区以外で迷惑行為防止活動に取り組む団体への啓発物品の支援を行い、目標を上回る47地域へ支援を行いました。平成24年度も、既に前年度を上回る地域からの申請がっており、活動は順調に広がりを見せています。新たな地域が活動に参加し、活動が更なる広がりをもたせるよう周知に取り組む必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	基本計画に掲げる事業に取り組めます。引き続き、児童に対するマナーアップ教育等に取り組めます。平成24年度に音声案内装置の設置が終了したため、予算としては縮小します。	過料の適用件数(1日平均)は、目標年度である平成25年度において、過料適用開始時から、小倉都心地区は20%削減、黒崎副都心地区10%削減を目指します。迷惑行為防止活動推進地区数については、延47地域と目標は達成されたので、平成25年度までに延122地域を目指し、着実に迷惑行為防止活動の輪を広げていきます。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	文化財の保存及び活用事業						施策番号		
							Ⅲ-2-(1)-①		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	11,050 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
		144,962 千円	207,874 千円		課長	0.2 人 職員 0.5 人		担当課	文化振興課
					係長	0.5 人		課長名	西山

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	文化財の指定、保存管理、購入及び埋蔵文化財の発掘調査を行い市内の文化財を保護・活用します。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	指定・登録文化財の登録件数	143 件	144 件	144 件	100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	市内に所在する文化財を把握し、保護を図る必要がある文化財について、市の文化財に指定するほか、重要なものについては、国または、県の文化財指定を働きかけていきます。また、近代化遺産の保存・活用を図るため、国の登録文化財制度の利用を図ります。 (最終目標と目標年度) 147件(累計) 平成25年度							
					%		順調	
	(最終目標と目標年度)							

活動計画	市内に所在する文化財を把握し、保護を図る必要がある文化財について、市の文化財に指定するほか、重要なものについては、国または、県の文化財指定を働きかけていきます。また、近代化遺産の保存・活用を図るため、国の登録文化財制度の利用を図ります。				活動実績	国・県と連携して適切に活動しました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】			
	指定・登録文化財の保護		国・県と連携して活動します。		%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	市内に所在する文化財を把握し、保護を図る必要がある文化財について、市の文化財に指定するほか、重要なものについては、国または、県の文化財指定を働きかけていきます。また、近代化遺産の保存・活用を図るため、国の登録文化財制度の利用を図ります。								
					%		順調		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	市内に所在する文化財の把握に努め、国・県とも連携して活動するなど、適切な保護に努めました。指定文化財については、適切な保存活用を図れるよう支援しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	文化財公開施設については、地元で組織する文化財保存団体の協力を得て管理しており、経済的な運営が行われています。埋蔵文化財の発掘調査については、開発者と発掘調査機関とで円滑な調整が行われています。概して、経済的で効率的に実施されています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	平成23年度で144件の目標を達成した後、新規に2件国登録有形文化財登録を行っています。引き続き注意深く物件の調査を行ってきたいと考えています。限られた予算の中で、文化財の登録・保存・活用が課題です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	文化財の保存・活用に努めます。平成25年度予定している埋蔵文化財発掘調査整理業務の事業量減により平成24年度予算に対して平成25年度予算は縮小します。	予算は縮小しますが最終目標(平成25年度累計147件)を目指し、引き続き注意深く物件の調査を行っていきます。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	無形民俗文化財の保存・継承						施策番号		
							Ⅲ-2-(1)-②		
コスト	事業費	平成23年度執行額 1,100 千円	平成24年度当初予算額 1,150 千円	人件費 の目安	金額	11,050 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
					課長	0.2 人 職員 0.5 人		担当課	文化振興課
					係長	0.5 人		課長名	西山

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	伝統文化の継承者や保存団体の活動を育成・支援し、市内の伝統文化を発掘し、次世代に継承します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	指定無形民俗文化財保存支援団体数	16 団体	17 団体	16 団体	94.1 %	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	指定無形民俗文化財の保存団体が行う保存・継承活動を支援します。 (最終目標と目標年度) 17団体 平成25年度					
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
(最終目標と目標年度)				%		

活動計画	無形民俗文化財は、地域住民の熱意と努力により大切に守られてきたものであり、市の大切な「たから」として保存継承していきます。市の支援は有効な手段であり、引き続き現行の補助金を継続していきます。						活動実績	保存団体と時機に応じて適切に協議しました。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】				
	指定無形民俗文化財の保護		団体と時機に応じて適切に協議します。		%	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック				
	指定無形民俗文化財を保護するため、保存団体と時機に応じて適切に協議します。									
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調				
				%						

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	本事業は、昭和48年から指定無形民俗文化財の保存団体に対して補助金を交付しています。保存団体が行う伝承者の養成や文化財の公開のほか、用具の購入や修理の費用の一部に充てられており、子どもたちに対する技術の伝承など、伝統文化の保存継承につながっています。市の無形民俗保存団体の活動は、参加者の会費や地域の寄付金などで賄われており、保存団体の伝承活動に対する市の補助金は、文化財の保存継承のため有益な手段となっています。無形民俗文化財の保存活動を行っている16団体に対し補助金を交付しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	1件あたりの補助金は5万円程度のものが大半です。さらに補助金額を下げるのは難しい状況です。文化財保護法第182条、北九州市文化財保護条例で、市は文化財の保存及び活用に要する費用を補助できることとなっており、無形民俗文化財の伝承者の育成、公開や道具の補修にかかる費用に対して市が支援することで文化財保存団体の活動の強化につながると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	引き続き注意深く案件の調査を行っていきます。限られた予算の中で、文化財の保存・継承が課題です。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	引き続き無形民俗文化財の保存・継承に努めます。指定無形民俗文化財の保存のため、平成24年度予算に対して平成25年度予算は現状を維持します。	最終目標(平成25年度累計17団体)を目指し、保存団体等と協議していきます。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	芸術文化活性化事業(劇場・創造事業、響ホール事業・響ホールフェスティバル)						施策番号		
							Ⅲ-2-(2)-①		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,550 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局	
		108,842 千円	156,291 千円		課長	0.05 人 職員 0.17 人	担当課	文化振興課	
			係長		0.17 人			課長名	西山

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	【芸術劇場・創造事業】芸術劇場の創造事業は、質の高い独自の舞台作品を全国にアピールするとともに、舞台芸術創造の発信拠点となることを目指します。 【響ホール事業・響ホールフェスティバル】響ホール事業の中の響ホールフェスティバルは、オリジナリティある企画公演を提供し、響ホールから高レベルの音楽文化を発信することを目指します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	--------------------	--	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	北九州芸術劇場・自主事業入場率	北九州芸術劇場は、オリジナルの演劇作品等を制作し、公演しています。指定管理業務における自主事業入場率の目標値を設定します。 (最終目標と目標年度) 80% 平成25年度	93 %	80 %	87 %	
響ホール事業・響ホールフェスティバル入場率		78 %	65 %	108.8 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	
音楽専用ホールとしての響ホールの特性を生かしたオリジナリティのある企画を公演しています。指定管理業務における自主事業入場率の目標値を設定します。 (最終目標と目標年度) 65% 平成25年度				68 %		104.6 %
活動計画						

活動計画	【劇場・創造事業】北九州芸術劇場のプロデュース作品をはじめ、国内で活躍するアーティスト・カンパニーや国内の拠点劇場との共同制作作品など、高いレベルでの作品づくりに取り組み、全国に情報発信を行います。 【響ホールフェスティバル】新規性と獨創性に富んだオリジナリティのある企画を企画し、提供することで、ホール自体の価値を高め、響ホールから高レベルの音楽文化を発信します。また、内容のあり方についての方策を検討しています。	活動実績	活動の実績は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	-----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	北九州芸術劇場・創造事業の実施	北九州芸術劇場でオリジナルの演劇作品等を制作し、公演します。		オリジナルの演劇作品の制作	制作済 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
響ホール事業・響ホールフェスティバルの実施			オリジナリティのある企画の公演	公演済 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ		
【Check】評価(分析)							

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	劇場・創造事業では、全国レベルの作品づくりを通して、創造する劇場として市内外に発信するとともに質の高い作品制作力を市内外に発信することができました。また、響ホールフェスティバルではコンサートの質、プログラムの先進性・オリジナリティなどについて外部より高い評価を受けました。劇場・創造事業、響ホールフェスティバルはともに、本市独自の質の高いオリジナル公演であるため、本市の芸術・文化のけん引力となる発信力の高い事業です。全国への情報発信、まちの魅力づくりに、大きな成果を上げたものと評価できます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	劇場・創造事業、響ホールフェスティバルはともに、市の外郭団体が行っており、市が直接運営するより、コスト面で効率的な運営ができています。引き続き、さらに、経済性や効率性を意識した取り組みを行う必要があると考えています。本市において、芸術・文化のけん引力となる発信力の高い事業を計画的に、総合的に実施できる民間団体は存在せず、市が関与することは適切であると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	代表的な成果指標はともに、ほぼ目標どおりの成果を得ることができましたが、限られた予算の中でさらに、市内外の注目を浴び、人が訪れる状況を作り出すことが必要です。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	北九州芸術劇場オリジナルの演劇作品等の制作・公演や響ホールでのオリジナリティのある企画の公演など、発信力の高い芸術・文化の取組みを実施していきます。また、「市制50周年記念事業」を積極的に展開します。事業を精査し平成24年度予算に対して平成25年度予算は縮小します。	予算は縮小しましたが「北九州芸術劇場・自主事業入場率」は80%、「響ホール事業・響ホールフェスティバル入場率」は65%を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	北九州市自分史文学賞						施策番号		
							Ⅲ-2-(2)-①		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	5,825 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
		11,455 千円	14,233 千円		課長	0.05 人 職員 0.3 人		担当課	文化振興課
					係長	0.3 人		課長名	西山

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	平成2年から開催されている「北九州市自分史文学賞」を継続して実施し地域文化の育成を図ります。			成果実績	全国からたくさんの質の高い作品の応募を得ることができ、本市の文化都市としての認知を高めることができました。また、大賞作品を単行本として出版しました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)		前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	「北九州市自分史文学賞」作品応募数		403 件	400 件	330 件	→	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	第22回を迎える本文学賞は、全国・海外から多数の応募が寄せられ、全国的にも認知度の高い「ご当地文学賞」として、これまで成長してきました。作品募集件数を活動指標とします。 (最終目標と目標年度) 400件 平成25年度				82.5 %			
					%	→	順調	
(最終目標と目標年度)				%				

活動計画	年1回の「北九州市自分史文学賞」作品募集を継続します。	活動実績	活動の実績は下記のとおりです。
-------------	-----------------------------	-------------	-----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)		前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	「北九州市自分史文学賞」作品募集における的を絞った広報		効果的な全国・北九州地域での広報	効果的な全国・北九州地域での広報	%	→	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	費用対効果の面から広報媒体を厳選しつつも効果的な全国広報、北九州地域での広報を行います。				%			
					%	→	順調	
(最終目標と目標年度)				%				

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	応募件数は300件~400件程度に落ち着きつつありますが、他ではあまり募集のない「自分史文学」という独自のジャンルの文学賞を全国、海外に向けて発信しており、文化振興に貢献していると考えます。22回の実績を持ち、関東を中心に市外からの応募がほとんどで、全国的にも認知度がある文学賞なので、今後も「文化都市北九州」の発信のために、引き続き実施していきたいと考えています。作品応募数は、昨年度330件でしたが、審査員より、質としては毎年上がっているとの評価もありましたので、成果の状況としては「順調」としています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	全国及び海外を対象にした文学賞であるため、PRには力を入れています。PRについては、ノウハウを熟知し、より有効な宣伝を行えるよう、民間委託して実施しています。また、この文学賞の魅力のひとつとして、入賞賞金が高額(200万円)であること、大賞作品は単行本化し、出版することなどがあげられますが、いずれも経費削減のために減額や廃止をすると、応募数が極端に減少する恐れがあります。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題		
		応募件数については、平成23年度330編、平成24年度は現時点で356編と、全国より多数の応募を頂いており、順調です。限られた広報予算の中で応募件数を維持していくことが課題です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	
	応募件数の増減については、PR方法によって左右される面がありますが、これまで蓄積してきた広報宣伝のノウハウを活かし、引き続き、より効果的な広報活動を行います。事業内容に鑑み平成24年度予算に対して平成25年度予算は現状を維持します。	経費節減に努めつつ、目標の作品応募数400件達成を目指します。	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	現代美術センター CCA北九州事業						施策番号			
							Ⅲ-2-(2)-①			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	6,700 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局	
		60,194 千円	60,200 千円		課長	0.05 人 職員 0.55 人		担当課	文化振興課	
			係長		0.2 人			課長名	西山	

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	CCA北九州は現代美術の研究・学習機関として独創的なプログラムを進めるとともに、国内外における本市のイメージアップにも寄与しています。一方、CCAのネットワークを活かした地域向け事業を多彩に展開しています。引き続き他都市では、真似のできない世界レベルの活動と市民を対象とした多様な現代美術関連事業の実施を両輪に活動を展開していくことにより、発信力の高い芸術・文化の振興を図ります。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	CCA北九州事業参加者人数	2,191 人	2,200 人	2,122 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	現代美術展覧会の実施、一般公開事業(市民美術大学、サウンドワークショップ等)の質の高い事業が維持できるよう努めます。 (最終目標と目標年度)2200人 平成25年度			96.5 %			
	(最終目標と目標年度)			%		順調	

活動計画	世界の第一線で活躍するアーティストによる現代美術展覧会の実施やアーティストブックの出版などに注力していきます。一般公開事業では、特に市民の満足度の高い市民美術講座を引き続き実施するとともに、実験音楽のコンサートや専門レクチャーなどCCAならではの質の高い事業が維持できるようにします。これらの事業は多くが市からの補助金で実施されています。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	CCA北九州事業実施回数	24 回	24 回	21 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	CCAの持つ人的ネットワークを活かして引き続き質の高い各種講座を開催していきます。			87.5 %			
				%		順調	

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析</p> <p>活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p>	<p>世界の第一線で活躍するアーティストの招聘は日程的、金銭的に厳しい状況になっているため、予定されたアーティストの展覧会が開催できない場合もあり、目標回数は達成できませんでしたが、一般公開事業を含めた来場者は目標にほぼ達することができました。特に市民美術講座は安定した集客を得ており、アンケートにおける満足度も高いものでした。</p>
	<p>「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p>	<p>これまで培ってきたCCAのネットワークを活かして、美術関係者や講師から採算を度外視した協力や支援をいただき、各種事業を行っています。国内外から一流のアーティストを低いコストで招聘するだけでなく、市民向けの多彩な事業を効率的に展開しています。</p>

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入					
見直し状況等	課題				
	展覧会、一般公開事業への参加者人数はほぼ目標どおりとなりました。今後は限られた予算の中で、CCA事業の市民へのいっそうの浸透と、より多くの市民にCCAに足を運んでもらい、事業参加してもらうことが課題であると考えます。				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">次年度の活動計画(見直し内容)</td> <td style="width: 50%;">その結果目指す成果(次年度の成果目標)</td> </tr> <tr> <td>次年度においては、市民美術大学美術講座、子どもメディアワークショップ、建築ワークショップ等の一般市民が参加できる事業について、質の高い内容の講座を選択して事業実施するよう努めながら、講座等事業の実施を工夫し、一層の効率化に努め、予算は縮小します。</td> <td>CCA北九州事業参加者目標人数は計画どおりとし、100%の達成を目標とします。</td> </tr> </table>	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	次年度においては、市民美術大学美術講座、子どもメディアワークショップ、建築ワークショップ等の一般市民が参加できる事業について、質の高い内容の講座を選択して事業実施するよう努めながら、講座等事業の実施を工夫し、一層の効率化に努め、予算は縮小します。	CCA北九州事業参加者目標人数は計画どおりとし、100%の達成を目標とします。
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)				
次年度においては、市民美術大学美術講座、子どもメディアワークショップ、建築ワークショップ等の一般市民が参加できる事業について、質の高い内容の講座を選択して事業実施するよう努めながら、講座等事業の実施を工夫し、一層の効率化に努め、予算は縮小します。	CCA北九州事業参加者目標人数は計画どおりとし、100%の達成を目標とします。				

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	「知の融合」に向けた文化創造都市づくり事業						施策番号				
							Ⅲ-2-(2)-①				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,875 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		8,995 千円	9,000 千円		課長	0.05 人		職員	0.08 人	担当課	文化振興課
					係長	0.07 人				課長名	西山

【Plan】計画 →

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	CCAの貴重な知的財産を活用して本市の創造的な都市としての魅力を世界に発信するため、国内外の各分野の一流専門家の議論や創造の場を設定し、新たな知の領域を切り開きます。			成果実績	世界の第一線で活躍するアーティストだけでなく、各分野の研究者によるシンポジウム・レクチャーにより新たな知の領域を切り開きつつ、本市の創造的な都市としての魅力を世界に発信しました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	本市の創造的な都市としての魅力の世界への発信		「知の融合」を推進し、本市の創造的な都市としての魅力を世界に発信します。	%		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	国内外の各分野の一流専門家の参加のもと、創造の場を設定し、新たな知の領域を切り開きます。こうした動きを世界に発信することで本市の創造的な都市としての魅力を世界に発信します。 (最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調	順調		
	(最終目標と目標年度)			%	やや遅れ 遅れ			

活動計画	H23年度はスリランカ・アウンガラでアーティスト、科学者、建築家、文学者を迎えてレクチャー、シンポジウムを行います。この事業の実施に関しては、市からの補助金と共同で主催しているミュージアム・イン・プログレス(オーストリア)の現地財団、ワンワールド財団からの支援を予定しています。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】			
	BTG?8(スリランカ・アウンガラ)シンポジウムの開催	2 回	1 回	1 回		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
	国内外の各分野の一流専門家の参加のもと、シンポジウム・レクチャーを行います。様々な観点から生まれる考えや議論の場を持つことで、共同研究や共同制作の基盤を構築するとともに、創造の場を設定します。			100.0 %	%	大変順調 順調	順調		
				%	やや遅れ 遅れ				

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	海外において一流のアーティストや研究者が参画しながらのソフト事業を本市が主催、コーディネートしていくという事業スタイルは、本市の他の施策にはないため、事業開催都市や海外において、本市の創造的な都市としてのシティプロモーションに大きな効果を発揮していると考えられます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	これまで培ってきたCCAのネットワークを活かして、美術関係者だけでなく幅広い分野の専門家からの協力をいただき、事業を展開しています。また、海外での事業については、毎回現地のアート関連機関団体と連携し、財政的支援も得ながら実施しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	平成24年度においても、幅広い分野の専門家との協力のもと、海外においてレクチャー・シンポジウムを行います。今後は限られた予算の中でさらに、本市の創造的な都市としての魅力を効果的にシティプロモーションしていくことが課題であると考えます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	海外におけるレクチャー・シンポジウム開催に加え、国内でのレクチャーの開催を行います。引き続き本市の創造的な都市としての魅力を発信していくことに努めながら、開催方法・参加者人数の見直し等の努力を行い、予算は縮小していきます。	BTG?レクチャー・シンポジウムを国内・国外それぞれ1回ずつの開催を目指します。開催により本市の創造的な都市としての魅力を世界に発信します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	北九州国際音楽祭						施策番号	Ⅲ-2-(2)-①			
	コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,625 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局	
31,336 千円			43,000 千円	課長		0.05 人	職員		0.06 人	担当課	文化振興課
			係長	0.06 人					課長名	西山	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 本事業は、①「総合音楽祭」の確立、②芸術性の追求・発信、③“北九州らしさ”の創造、④顧客満足度の向上、⑤若者世代の取り込み、⑥情報発信の強化を掲げ、国内トップクラスの音楽祭の実現を目指して取り組んでいます。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。					
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	北九州国際音楽祭の満足度の割合	81 %	85 %	83 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	来場者のコンサートの満足度の割合を指標とし、これまでの実績を参考に、85%を目標とします。 (最終目標と目標年度) 85% 平成25年度			97.6 %				
	(最終目標と目標年度)			%		順調		
(最終目標と目標年度)			%					

活動計画	国内外で活躍中の旬のアーティストの招聘、北九州オリジナル企画の充実、若年者層を対象とした鑑賞事業などバラエティに富んだプログラムで質の高い国際レベルのコンサートを実施します。	活動実績	バラエティに富んだプログラムで質の高い国際レベルのコンサートの提供を行いました。					
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
	北九州国際音楽祭の入場者数	14,285 人	11,500 人	12,425 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	本事業のプログラム①有料プログラム、②教育プログラム、③特別プログラム、④協賛事業の入場者数を指標とし、これまでの実績を参考に指標を設定します。			108.0 %				
	(最終目標と目標年度)			%		順調		
(最終目標と目標年度)			%					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	国際音楽祭は、本市を代表する文化事業として、市内外へ大きく情報発信をするとともに、地域の文化力向上に大きく寄与しており、「発信力の高い芸術・文化の振興」を図っていく上で、重要な事業です。本市出身で世界で活躍する演奏家をはじめ、国内外の一流の演奏家を招き、良質な音楽の提供を通して本市の文化の振興を推進したものと評価できます。ただし、引き続き、事業規模や実施方法、新たな外部資金の獲得など工夫した取り組みを実施する必要があると考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、「民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市の外郭団体が実行委員会の事務局を担っており、市が直接運営するより、コスト面で経済的な運営ができています。引き続き、さらに、現状よりもさらに経済性や効率性を意識した取り組みを行う必要があると考えています。本市を代表する音楽イベントである国際音楽祭は、歴史もあり、知名度もあります。継続的に実施しないと今までの積み重ねが無くなってしまいます。本市において、芸術・文化のけん引力となる発信力の高い事業を継続的に実施できる純粋な民間団体は存在せず、市が関与することは適切であると考えられます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題 代表的な成果指標はともに、ほぼ目標どおりの成果を得ることができました。限られた予算の中で、音楽祭の質の維持が課題です。
	次年度の活動計画(見直し内容) その結果目指す成果(次年度の成果目標) 市制50周年記念事業を兼ね、国内外で活躍中の旬のアーティストの招聘、北九州オリジナル企画の充実、若年者層を対象とした鑑賞事業などバラエティに富んだプログラムや地元音楽家との連携を図る公演を実施します。「湧き上がる音楽祭」の見直しに伴い平成25年度予算は縮小します。 質の高い国際レベルのコンサートを実施するとともに、地元音楽家との連携を通じ、さらなる国際音楽祭の情報発信や地域の文化力向上を図ります。「北九州国際音楽祭の満足度の割合」は85%を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	北九州市文化振興基金						施策番号	
							Ⅲ-2-(2)-②	
コスト	事業費	平成23年度執行額 12,240 千円	平成24年度当初予算額 12,442 千円	人件費の目安	金額 3,825 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
				課長 0.05 人 職員 0.3 人			担当課	文化振興課
				係長 0.1 人			課長名	西山

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	本事業は、市の文化振興に役立てて欲しいとの篤志家による寄附金等の運用益が原資となり、市民の自主的な芸術・文化活動に対する助成や、資力のない児童に奨学金を交付するなど実施しているものです。本制度を活用することにより市民の芸術・文化活動が更に活発化し、本市の地域文化の振興に寄与することを目指します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	--------------------	--	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		北九州市文化振興基金奨励事業の採用件数 地域文化の裾野を支える市民の自主的な芸術・文化活動に対し、事業補助金を交付します。 (最終目標と目標年度) 25件 平成25年度	24 件	25 件	28 件 112.0 %	
	(最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	半年に一度(上半期、下半期の2回)、北九州市文化振興基金奨励事業の募集を行います。	活動実績	予定通り募集を実施しました。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		北九州市文化振興基金奨励事業の募集実施 半年に一度(上半期、下半期の2回)、北九州市文化振興基金奨励事業の募集を行います。	2 回	2 回	2 回 100.0 %	
				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 「経済性」 「効率性」 の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 文化振興基金の助成件数については、市民の自主的な活動に対して行うものであるため、政策的に増加させるものではありませんが、一定の件数の助成を行うことができたことと評価できます。 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 本事業の財源は、篤志家による寄附金等の運用益が原資となっているため、一般財源の持ち出しが少なく済んでおり経済性は高いと考えています。本事業の実施形態(寄附金等の運用益を原資にして実施)から、実施主体は市以外考えられません。
------------------	--	---

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 代表的な成果指標がともに、ほぼ目標どおりの成果を得ることができました。平成24年度も順調に成果が出ています。今後も、地域文化の裾野を支える市民の自主的な芸術・文化活動を支援する必要があるため、事業補助金を交付します。 次年度の活動計画(見直し内容) 地域文化の裾野を支える市民の自主的な芸術・文化活動に対し、事業補助金を交付します。平成24年度予算に対して平成25年度予算は預金利息の低迷もあり補助基準を見直し、縮小します。	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 予算は縮小しますが「北九州市文化振興基金奨励事業の採用件数」は25件を目指します。
---------------	--	--

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	芸術文化育成負担金・補助金						施策番号				
							Ⅲ-2-(2)-②				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	5,825 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		38,950 千円	37,750 千円		課長	0.05 人		職員	0.3 人	担当課	文化振興課
					係長	0.3 人				課長名	西山

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	本市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興、市民の芸術文化活動促進のため積極的に文化活動を展開している文化団体等へ助成を行います。	成果実績	積極的に文化活動を展開している文化団体等へ助成を行い、文化祭や定期演奏会等のコンサートなどを実施し、本市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興、市民の芸術文化活動促進を図りました。
-----------	--------------------	--	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	各種文化イベントの実施	積極的に文化活動を展開している文化団体等へ助成を行い、文化祭や定期演奏会等のコンサートなどを実施し、本市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興、市民の芸術文化活動促進を図ります。 (最終目標と目標年度) 事業の継続実施 平成25年度		本市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興、市民の芸術文化活動促進	%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
(最終目標と目標年度)				%	順調	

活動計画	本事業は、本市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興、市民の芸術文化活動促進のため積極的に文化活動を展開している文化団体等へ助成を行います。また、より効果的な芸術・文化活動の支援となるような検討を行います。	活動実績	補助を行い、本市の特性である市民レベルでの芸術・文化活動の支援、促進を図りました。
-------------	--	-------------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	芸術文化育成負担金・補助金交付団体数	市民の芸術・文化活動の促進を図るための補助金を交付する団体数を指標とします。	16 団体	16 団体	16 団体 100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
				%	順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	助成制度や助成団体数の多寡が直接政策の取り組みの指標や成果を示すものではないと考えていますが、本市にはプロの芸術家や音楽家は非常に少なく、働きながら文化活動を行っているケースが多数であり、助成制度の存在により一定の市民レベルでの活動を支えている側面はあると考えます。各団体の定期演奏会や文化祭は予定どおり実施されており、多数の来場者の満足を得たものと思われることから、文化水準の向上や個性ある地域文化の振興、市民の芸術文化活動促進が図られたものと評価します。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	事業規模の再検討、補助金のみに頼らない協賛拡大など、運営体制についての指導も必要だと考えます。助成制度により北九州シティオペラなどの市民レベルでの芸術・文化活動を支えており、制度の有効性は高いと考えます。魅力ある「まちづくり」を担う「人材」の育成のため、現在のところ事業主体は市が適当と考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	協賛拡大など、補助金に頼らない運営体制の指導を行い、事業規模に見合った助成額の認定を行う必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	補助金交付団体の状況を見ながら、補助対象等を見直し、平成25年度予算額は縮小します。	本市の文化水準の向上や個性ある地域文化の振興、市民の芸術文化活動促進を図ります。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	「松永文庫」運営事業						施策番号		
							Ⅲ-2-(2)-③		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	2,325 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
		8,553 千円	8,577 千円		課長	0.05 人 職員 0.1 人		担当課	文化政策課
			係長		0.1 人	課長名		用田	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	映画や映画を通した生活文化の貴重な資料である「松永文庫」を展示し、市民が日ごろ馴染みのない映画資料や昔、懐かしいウィークリー(地元映画館の宣伝用パンフレット)などに、気軽に触れる機会を提供します。 同時に門司港レトロ地区で館外企画展を実施し、レトロ地区のにぎわいづくりにも寄与することを目指します。	成果実績	入場者数は、昨年と比較し、微減しましたが、マスコミ等に多く取りあげられ、市民のみならず、映画関係者も来場しています。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【成果の状況】
	「松永文庫」入場者数	11,111 名	11,500 名	9,675 名	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	より多くの入場者を増やすために、魅力ある企画展や館外企画展を積極的に実施し、「松永文庫」の周知を図ります。 開館5ヶ月の入場者数が、4,335人、1年間に換算すると約10,000人、毎年500人ずつ増加するとし、目標を12,500人としました。 (最終目標と目標年度)12,500人 平成25年度			84.1 %		
	(最終目標と目標年度)			%		順調

活動計画	「松永文庫」の収蔵品は貴重なものであり、文化振興の推進に必要なツールの一つです。これを用いて門司港レトロ地区のにぎわいづくりに寄与するために、積極的に企画展等展開していきます。 また、関門連携において下関市と合同で企画展の開催を検討するなど、他自治体との交流も検討し、門司港レトロ地区全体のにぎわいづくりに寄与するために、積極的に事業展開していきます。	活動実績	松永氏の知名度や充実した映画資料により、行政だけでなく、マスコミ(新聞、テレビ等)に、度々取り上げられ、門司港だけでなく、北九州市の活性化に貢献しています。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	松永文庫企画展開催回数	5 回	5 回	5 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	より多くの入場者を増やすために、魅力ある企画展や館外企画展を積極的に実施し、「松永文庫」の周知を図ります。			100.0 %		
	(最終目標と目標年度)			%		順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	<p>【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析</p> <p>活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。</p>	<p>入場者のアンケート調査等において、貴重な資料を展示しており観ることができて良かったとの肯定的な意見が多く、特に高齢者では、昔懐かしい資料を観ることができ、再度来場したいとの意見が多数寄せられました。 このように、「市民が芸術・文化に接する機会の拡大」についての貢献度は大きいと考えます。</p>
	<p>【経済性】 【効率性】 の分析</p> <p>「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。</p>	<p>収蔵品については寄附されたものであり、既設の旧市民センターを活用するなど低コストで施設整備をするとともに、運営経費についても、門司市民会館の運営団体に委託することで管理費などが削減でき、他の市有施設に比べ効率的な運営を行っていると考えます。</p>

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	<p>課題</p> <p>平成24年度9月末現在の入場者数は、減になった平成23年度同時期と比較し、増加傾向にあります。特に「館内企画展」の内容を見直したことが、入場者増に大きく貢献しています。今後も、入館者にとって魅力ある企画展の開催に努め、更なる入場者増に努めます。</p>	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	<p>平成25年度も、魅力ある企画展の開催、他自治体との交流など、門司港レトロ地区全体のにぎわいづくりに寄与するために、事業費を現状維持しながら、積極的に事業展開していきます。 また、平成25年8月頃(具体的な日時は未定)には、従来の門司市民会館展示室に加え、港湾空港局所管の「旧大連航路上屋」に展示室を整備します。交通アクセス、周辺の環境等、来場者にとって訪問しやすい場所になるため、更なる展示内容の充実にも努めます。</p>	<p>平成25年度は、「旧大連航路上屋」に展示室を整備することから、より多くの入場者が予想されます。平成25年度の状況を見ながら、平成26年度より成果指標の変更を行う予定です。</p>

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	文化情報提供事業						施策番号	
							Ⅲ-2-(2)-③	
コスト	事業費	平成23年度執行額 31,807 千円	平成24年度当初予算額 30,678 千円	人件費 の目安	金額 1,075 千円 課長 0.05 人 職員 0 人 係長 0.05 人	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
							担当課	文化政策課
								課長名

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価				
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	本市の文化振興、まちづくりの総合情報誌として「ひろば北九州」を発行し、市民の文化及び生活の向上に寄与するとともに、多くの市民に文化情報等の提供を実施します。				成果実績	個人会員数が1,456から1,380へ、団体会員数が232から216へ減少傾向にあります。	

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	「ひろば北九州」の購読者数	1,688 (団体)	1,700 (団体)	1,596 部	→	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民へ、より効果的な文化情報の提供を行い、芸術・文化に接する機会の拡大に寄与します。 (最終目標と目標年度) 郷土密着情報を提供し購読者数の増加を図る。			93.9 %		
	(最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	やや遅れ

活動計画	平成25年度に事業の大幅な見直しを行う予定であり、他事業との統合や、インターネット情報発信などを検討します。	活動実績	「ひろば北九州」の、個人(団体)会員は、H22年度 1,688人⇒H23年度 1,596人(△92)と微減傾向ですが、文化に接する機会の拡大に寄与していることに対して、一定の評価は得ていると考えます。
-------------	--	-------------	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	効果的な情報発信		効果的な情報発信		→	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	郷土に密着した文化総合情報を市民に提供するために、効果的な情報発信を行います。			%		
	(最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	やや遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	記事の内容を工夫するなどして購読者から一定の評価は得たものの、会員の減少が続いています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	平成25年度の事業見直しに向けた検討期間と位置づけた年度であり、経費の節減に努めつつも、従来の事業フレームでの事業実施となりました。そのため、現時点では費用対効果の面で問題がある状況は改善されていません。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題		
		年々、「ひろば北九州」の購読者数は減少傾向にあり、費用対効果の面から事業内容の見直しが必要であると考えます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	
	「ひろば北九州」の発刊については、平成25年度より「かるかる」に統合してフリーペーパー化を考えています。平成25年度予算額は、平成24年度予算と比較して、縮小しています。	新冊子の配置場所や配布経路を再検討し、市民に文化情報の提供を続けることで、文化活動の活性化を図ります。	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	美術館の企画展充実事業						施策番号	Ⅲ-2-(2)-③			
	コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	32,250 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局	
133,520 千円			132,939 千円	課長		0.25 人	職員		3.05 人	担当課	美術館普及課
			係長	0.65 人					課長名	中尾	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	市民が日常生活の中で多様な芸術・文化に接し、豊かな感性の育成と教育文化の向上を目指して、質の高い作品などに接する機会を提供していきます。また、芸術・文化活動をしている人たちの発表の場や交流できる機会の拡大をしていきたいと考えています。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	---------------------	---	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	やや遅れ	美術館の入館者数 入館者数は、魅力ある展覧会を開催する上で最も分かりやすい指標です。 (最終目標と目標年度)年間300,000人 平成25年度	428,783人	300,000 人	189,623 人	63.2 %
コレクション展の観覧者数 コレクション展は、学芸員が、美術館の所蔵作品を利用して市民や子どもたちのために自主企画する展覧会で、美術館単独での成果指標になります。 (最終目標と目標年度)50,000人 平成26年度		31,579人			32,210 人	

活動計画	収蔵作品及び作家についての研究を含め、テーマ性のあるコレクション展や自主企画展を実施します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	順調	展覧会の開催回数 幅広い作品の展覧会を開催し、多くの市民の来館を目指します。	69 回	70 回	72 回	102.9 %
コレクション展のテーマ件数 美術館所蔵の作品を有効に活用して、テーマ性のある魅力的な展覧会を開催します。		12 回			10 回	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	各コレクション展のテーマ性を前面に出すことで、年間を通じバラエティ豊かな内容を紹介できました。また、テーマに合わせ、これまでと違った角度から調査内容を掘り下げることができました。震災の影響による広報の遅れや、知名度の低さなどが重なり、大型の展覧会への入館者数は前年を大きく下回りました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」 得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	厳しい財政事情を踏まえ、開催経費やその他の経費を精査した上で、その年の目玉となる大規模な企画展の開催やコレクション展の展示替え等を計画的に実施し、何時来館されても楽しめるような魅力的な展覧会を今後も開催していくように努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 近年、美術館の入館者は減少傾向にあるため、今後、魅力があり多くの観覧者を見込める展覧会を開催することが課題となっています。	次年度の活動計画(見直し内容) 市制50周年事業として、ルーベンス展など大型の企画展の開催も予定しており、より多くの市民が多様な芸術文化に接する機会を創出するため、事業費を拡大します。	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 幅広い作品の展覧会等を開催することにより年間300,000人の入館者を目指します。
---------------	---	---	--

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	博物館企画展・特別展充実事業						施策番号				
							Ⅲ-2-(2)-③				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	60,550 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		68,673 千円	58,162 千円		課長	0.95 人		職員	4.55 人	担当課	普及課
					係長	1.55 人				課長名	栗原

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	「いのちのたび」をコンセプトとして、歴史、考古、自然科学等に関する資料の収集・保管、研究により、本市の学術文化の発展に資することを目的とします。また、企画展・特別展の魅力向上を図るとともに、併せて実施する「普及講座」の充実等により、地域の賑わいの拠点施設をめざします。			成果実績	特別展や普及講座の当初計画を上回る実施により、入館者目標数を達成することができた。		
代表的な成果指標	指標 <small>(数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)</small>	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	博物館総入館者数	37 万人	35 万人	37 万人	105.7 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	常設展・特別展に加え、普及講座等の開催により、より多くの方に博物館に来館していただくことで、本市の文化発展に資することとします。 (最終目標と目標年度)35万人 平成25年度							
(最終目標と目標年度)				%		順調		

活動計画	市民や子どもたちの自然や歴史に対する関心を育み応える場として、①年4回にわたり四季折々に特別展を開催、②ポケットミュージアムの展示更新、③博物館の様々な専門分野の学芸員による各種講演会や室内講座、野外観察会の開催、等に取組みます。				活動実績	市民の関心の高いものをテーマに特別展を当初4回の予定を7回開催し、入館者数の増につながりました。			
活動指標	指標 <small>(数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)</small>	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】			
	特別展の入館者数	127,447 人	108,600 人	133,902 人	123.3 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	市民の興味関心を呼ぶ、魅力あふれる特別展(年4回程度)を開催し、市民の自然や歴史に対する関心を一層高めます。								
教育普及講座の実施回数	50 回	50 回	66 回	132.0 %		順調			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	新規講座の開催など、内容を見直しながら、総入館者数について目標数を達成しました。また、常設展についても、ポケットミュージアムの展示替えなどを行い、入館者数の増につながりました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市職員である学芸員が講師を務めることで、コストを最小に抑えることが出来ており、経済性・効率性は高いです。また、魅力ある特別展等の開催が入場者数の増加につながっています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成24年度は、夏の特別展やイベントが好評で、入場者数は増えています。今後も、「もう一度行きたい博物館」といわれる博物館を目指し企画展、特別展の充実を図り、いっそうの入館者増に努めます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	特別展に加え、市制50周年記念事業「(仮称)北九州市の宝の展」や常設展リニューアルなどにより、相乗的誘客の向上を図っていきます。予算は現状を維持します。	平成25年度35万人の目標を落とすことなく維持していくことを目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	松本清張記念館の企画展充実事業						施策番号			
							Ⅲ-2-(2)-③			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	8,475 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		7,516 千円	7,794 千円		課長	0.15 人	職員	0.5 人	担当課	松本清張記念館
					係長	0.3 人			課長名	木村

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	市民の豊かな感性の育成と教養文化の醸成を図るためには、質の高い作品などに接する機会を提供することが求められています。松本清張記念館では、館の一層のPRに努めるとともに、継続的に質の高い企画展等を開催することにより市民が芸術・文化に接する機会の拡大に努めます。	成果実績	年2回の特別企画展開催及びシンポジウムや企画展関連講演会の開催により、入館者数の確保に貢献しました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	松本清張記念館の入館者数	58,187 人	60,000 人	49,731 人		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	平成21年度の生誕100年記念事業で大幅に増加した入館者数が22年度から減少に転じました。この傾向に歯止めをかけるべくさらに魅力ある企画展等を開催し、入館者数の確保に努めます。 (最終目標と目標年度) 年間入館者数の増加を目標とします 平成25年度			82.9 %		
	企画展入場者の満足度	85 %	85 %	84 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
来館者アンケートのうち企画展の内容についての設問で、「非常に良い」「良い」といった満足度の高い評価の割合を高めます。 (最終目標と目標年度) 90% 平成25年度	98.8 %					

活動計画	開催した企画展の成果を分析し、新規入館者の増加及びリピータ率の向上を図ります。さらに魅力的な企画展・特別展を開催します。	活動実績	H22.12.1~23.8.15特別企画展『松本清張と東アジア-描かれた<東アジア・東南アジア> 読まれる<清張>』、H24.1.20~24.5.6松本清張没後20年記念特別企画展『いつもカメラを携えて-松本清張が愛したカメラとその時代-』			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	企画展の開催回数	2 回	2 回	2 回		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市民に質の高い作品などに接する機会を安定的に提供し、魅力ある企画展・特別展を開催します。			100.0 %		
				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	大変順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成23年度は2回の企画展を開催し、14,711人の入場があり、内容についてもアンケート結果で好評を得ています。また、開館記念講演会、国際共同研究公開シンポジウム、企画展関連講演会の開催など質の高い文化に接する機会を提供しています。今後もさらに魅力的な企画展等を開催することが課題とされます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	委託業務については、コンペや予定価格の見直し等、経済的でより質の高い事業を行えるよう努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題		
		平成24年度の企画展入場者は、10月18日現在で10,636人です。最終的に18,000人となるのが予想されます。入館者数は企画展入場者の約3倍であるので、企画展入場者の増加を図り入館者の拡大に努めます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	
	市制50周年と開館15周年を記念した企画展を開催し、入館者数の増加を図ります。予算は現状を維持します。	入館者数60,000人を目標とします。	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	文学館の企画展充実事業						施策番号				
							Ⅲ-2-(2)-③				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	12,625 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		23,281 千円	23,119 千円		課長	0.5 人		職員	0.25 人	担当課	文学館
					係長	0.5 人				課長名	西岡

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	市民が日常生活の中で多様な芸術・文化に接し、豊かな感性の育成と教養文化の向上を目指していくために、文学に接する機会を提供していきます。また、関連の講演会や文学講座などを開催し、入館者の拡大に努めます。			成果実績	親子で考えてもらう内容の企画展を行った結果、年間入館者数が約20%増加しました。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)		前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	文学館入館者数		8,890 人	13,000 人	10,741 人		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	魅力ある企画展等を開催し、入館者数の増加に努めます。 (最終目標と目標年度) 毎年度13,000人以上の入館者数 平成25年度				82.6 %		
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	%	順調
(最終目標と目標年度)							

活動計画	前年度に引き続き、定期的に魅力ある企画展を開催し、大人から子どもまで文学に親しむ機会を提供します。又、入館者数の増加に努めます。	活動実績	企画展は目標数を実施することができました。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)		前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	企画展等の開催回数		5 回	4 回	4 回		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	文学の振興、教育、普及とともに本市にゆかりのある文学者と文芸活動をより多くの市民に紹介する手段として、企画展などの開催件数を活動の指標としました。				100.0 %		
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	%	順調

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	企画展について、前年度より1つ数は減少しましたが、目標数を開催することができ、又、入館者数は昨年度と比較し増加しました。(8,890人 → 10,741人) アンケートでは、企画展の内容について非常に高い評価を得ています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	企画展は、毎回違う内容で実施するため、経済性・効率性の向上を図りにくいですが、できる限り最少の費用で最大の効果があげられるよう、毎回検討し企画展を行っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題
	平成24年度の文学館の入館者数は、夏休み企画展が約6,000人と好評だったため前年度と比較し増えていますが、目標には達していません。引き続き、特別企画展や企画展、講演会や文学講座等のイベントを実施し、入館者の拡大に努めます。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	定期的に魅力ある企画展を開催するとともに、文学に関心を持ってもらう講座を実施し、大人から子どもまで文学に親しむ機会を提供します。事業費は事務の見直しなどの努力を行い、予算は縮小します。
	入館者数13,000人以上を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	芸術文化活性化事業(劇場・公演事業、響ホール事業)						施策番号	
							Ⅲ-2-(2)-③	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,550 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局
		108,842 千円	156,291 千円		課長	0.05 人 職員 0.17 人	担当課	文化振興課
					係長	0.17 人	課長名	西山

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	【劇場・公演事業】ラインナップの充実を図ることで観客層を拡大し、都市の賑わいとシティブランドを創出し、市民生活に潤いと誇りを提供します。 【響ホール事業(企画事業)】国内外の一流の演奏家や国内外で活躍する地元出身の演奏家等の起用を通じて、本物の音楽に触れる機会を提供します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	北九州芸術劇場・自主事業入場率			87 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	北九州芸術劇場は、良質な舞台芸術の鑑賞機会を提供しています。指定管理業務における自主事業入場率の目標値を設定します。 (最終目標と目標年度) 80% 平成25年度	93 %	80 %	108.8 %		
	響ホール事業・企画事業入場率			68 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
音楽専用ホールとしての響ホールの特性を生かした質の高い音楽鑑賞の機会を提供しています。指定管理業務における自主事業入場率の目標値を設定します。 (最終目標と目標年度) 65% 平成25年度	78 %	65 %	104.6 %			

活動計画	【劇場・公演事業】事業予算の効果的な執行を図りながら、良質で幅広いラインナップの舞台芸術を提供します。【響ホール事業(企画事業)】「響ホールフェスティバル」では、新規性と独創性に富んだオリジナリティのある公演、「響シリーズ」では、市民が身近に内外の優れた本物の音楽にふれる機会の公演、「響ホールへようこそ」では、クラシック初心者向けやファミリー向けの公演を実施します。	活動実績	活動の状況は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	北九州芸術劇場・公演事業の実施			事業実施済		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	良質な舞台芸術の鑑賞機会を提供します。		良質な舞台芸術の鑑賞機会の提供	%		
	響ホール事業・企画事業の実施			事業実施済	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
良質な音楽の鑑賞機会を提供します。		良質な音楽の鑑賞機会の提供	%			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	【劇場・公演事業】幅広く様々なジャンルの作品を網羅し多くの人に良質な舞台芸術を鑑賞する機会を提供しました。 【響ホール事業(企画事業)】音楽専用ホールとしての響ホールの特性を生かした良質な音楽を鑑賞する機会を提供しました。 劇場・公演事業、響ホール事業・公演事業はともに、市の外郭団体が行っており、市が直接運営するより、コスト面で効率的な運営ができています。引き続き、さらに、経済性や効率性を意識した取り組みを行う必要があると考えています。 本市において、芸術・文化のけん引力となる発信力の高い事業を計画的に、総合的に実施できる民間団体は存在せず、市が関与することは適切であると考えます。
------------------	---	--	---

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 代表的な成果指標はともに、ほぼ目標どおりの成果を得ることができましたが、限られた予算の中でさらに、良質な舞台芸術の鑑賞機会や質の高い音楽鑑賞の機会の提供が必要です。 次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 予算は縮小しますが「北九州芸術劇場・自主事業入場率」は80%、「響ホール事業・企画事業入場率」は65%を目指します。
---------------	---	---

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	北九州国際音楽祭						施策番号	Ⅲ-2-(2)-③		
	コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,625 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
31,336 千円			43,000 千円	課長		0.05 人	職員		0.06 人	担当課
		係長	0.06 人			課長名	西山			

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	本事業は、①「総合音楽祭」の確立、②芸術性の追求・発信、③“北九州らしさ”の創造、④顧客満足度の向上、⑤若者世代の取り込み、⑥情報発信の強化を掲げ、国内トップクラスの音楽祭の実現を目指して取り組んでいます。			成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	北九州国際音楽祭の満足度の割合			83 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	来場者のコンサートの満足度の割合を指標とし、これまでの実績を参考に、85%を目標とします。 (最終目標と目標年度) 85% 平成25年度	81 %	85 %	97.6 %				
	(最終目標と目標年度)			%				

活動計画	国内外で活躍中の旬のアーティストの招聘、北九州オリジナル企画の充実、若年者層を対象とした鑑賞事業などバラエティに富んだプログラムで質の高い国際レベルのコンサートを実施します。	活動実績	バラエティに富んだプログラムで質の高い国際レベルのコンサートの提供を行いました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	北九州国際音楽祭の入場者数			12,425 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	本事業のプログラム①有料プログラム、②教育プログラム、③特別プログラム、④協賛事業の入場者数を指標とし、これまでの実績を参考に指標を設定します。	14,285 人	11,500 人	108.0 %		
	(最終目標と目標年度)			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 「経済性」 「効率性」 の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	国際音楽祭は、本市を代表する文化事業として、市内外へ大きく情報発信をするとともに、地域の文化力向上に大きく寄与しており、「発信力の高い芸術・文化の振興」を図っていく上で、重要な事業です。本市出身で世界で活躍する演奏家をはじめ、国内外の一流の演奏家を招き、良質な音楽の提供を通して本市の文化の振興を推進したものと評価できます。ただし、引き続き、事業規模や実施方法、新たな外部資金の獲得など工夫した取組みを実施する必要があります。
		市の外郭団体が実行委員会の事務局を担っており、市が直接運営するより、コスト面で経済的な運営ができています。引き続き、さらに、現状よりもさらに経済性や効率性を意識した取組みを行う必要があると考えています。本市を代表する音楽イベントである国際音楽祭は、歴史もあり、知名度もあります。継続的に実施しないと今までの積み重ねが無くなってしまいます。本市において、芸術・文化のけん引力となる発信力の高い事業を継続的に実施できる純粋な民間団体は存在せず、市が関与することは適切であると考えられます。	

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 代表的な成果指標はともに、ほぼ目標どおりの成果を得ることができました。限られた予算の中で、音楽祭の質の維持が課題です。 次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 質の高い国際レベルのコンサートを実施するとともに、地元音楽家との連携を通じ、さらなる市民が芸術・文化に接する機会の拡大を図ります。「北九州国際音楽祭の満足度の割合」は85%を目指します。
	市制50周年記念事業を兼ね、国内外で活躍中の旬のアーティストの招聘、北九州オリジナル企画の充実、若年者層を対象とした鑑賞事業などバラエティに富んだプログラムや地元音楽家との連携を図る公演を実施します。「湧き上がる音楽祭」の見直しに伴い平成25年度予算は縮小します。	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	(仮称)北九州市漫画ミュージアム開設準備事業						施策番号			
							Ⅲ-2-(2)-③			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の 目安	金額	46,500 千円	(備考) 直接関わる職員以外 に、嘱託職員4名も関 わっています。	担当局	市民文化スポーツ局	
		114,456 千円	0 千円		課長	1 人		職員	2 人	担当課
					係長	2 人		課長名	岡田	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	本市は、松本零士氏、畑中純氏、わたせせいぞう氏、北条司氏など著名な漫画家を数多く輩出している地域です。これらの作家・作品を地域の重要な資源として活用し、さまざまな漫画の魅力を幅広い世代に伝える漫画文化の拠点施設「北九州市漫画ミュージアム」を開設し、漫画文化の普及を目指します。	成果実績	開設準備を進めることで、漫画文化の普及の準備ができました。
-----------	--------------------	--	-------------	-------------------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	漫画文化の普及	「漫画文化の普及」を数値で表すことは、現在は困難だと考えています。漫画ミュージアムの開館後は来館者数を指標として上記状態を測ります。 (最終目標と目標年度)		漫画文化の普及を目指します。	—	
	(最終目標と目標年度)			%	大変 順調	順調
	(最終目標と目標年度)			%	やや遅れ 遅れ	

活動計画	設置工事・展示製作委託、漫画本・備品の購入等、漫画ミュージアムの開設準備を行います。また漫画ミュージアムのプレイベントを実施します。	活動実績	下記の活動指標のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		漫画ミュージアム設置工事、展示製作委託、漫画本・備品の購入等の進捗率		100 %	70 %	
	平成24年8月のオープンに向け、開設準備を行います。			70.0 %		
	漫画ミュージアムプレイベントの実施			1 回	大変 順調	やや遅れ
	開館に向けた周知及び漫画文化の普及のため、プレイベントを実施します。	1 回	1 回	100.0 %	やや遅れ 遅れ	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	漫画ミュージアムの設置階が変更になったことにより、事業の進捗に遅れが生じました。一方、プレイベント「少女漫画家3人展」やあるあるCity(漫画ミュージアムが入居するビル)のプレイベントと連携した広報の実施により、これまでのプレイベントとは異なる層への周知や漫画文化の普及を図ることができました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	設置工事・展示製作委託、漫画本・備品の購入等に関しては、入札を実施し経済性を重視した契約を行いました。また、あるあるCityのプレイベント「あるあるフェスタ」や「あるある茶房」での複製原画やパネル展示など、あるあるCityと連携しより経済的・効率的な広報を実施しました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題
	平成24年8月に漫画ミュージアムが開館しました。年間10万人の来館者を目標にしており、集客のために多様なイベント・ワークショップを開催する必要があります。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	さまざまな内容の企画展・イベント・ワークショップを開催していきます。ビルやテナントとの協力にも努めます。 平成24年度は開館後8ヶ月の活動費であり、次年度は12ヶ月の活動費となりますが、年間の企画展開催回数を減らすことで予算を縮小します。その分開催する企画展やワークショップの内容の充実を図ります。
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	漫画ミュージアムの来館者数年間10万人を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	芸術文化活性化事業(劇場・学芸事業、響ホール事業)						施策番号		
							Ⅲ-2-(2)-④		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,550 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
		108,842 千円	156,291 千円		課長	0.05 人 職員 0.17 人		担当課	文化振興課
			係長		0.17 人	課長名		西山	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	【劇場・学芸事業】演劇を通して、地域の人々をつなぎ、共に育っていくこと等を目的としています。 【響ホール・音楽アウトリーチ事業】クラシック音楽の担い手(演奏者側・聴衆側)の育成などを図ることを目的としています。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	--------------------	--	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	北九州芸術劇場・学芸事業参加者数 アウトリーチ活動や専門家養成講座など学芸事業の参加者数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 1,700人 平成25年度 響ホール事業・音楽アウトリーチ事業の聴衆者人数 クラシックの演奏家を学校や市民センターに派遣するアウトリーチ事業の聴衆者人数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 2,500人 平成25年度		1,727 人	1,650 人	1,670 人 101.2 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
		2,918 人	2,500 人	3,443 人 137.7 %	順調	

活動計画	【劇場・学芸事業】これまで培ってきたアーティストとの交流や信頼関係をもとに、地域のコミュニティ等との連携を図りつつ、交流事業や育成事業、普及事業、教育事業を実施します。 【響ホール・音楽アウトリーチ事業】訪問コンサート事業、音楽ワークショップ事業、地域の音楽文化の担い手育成・継承事業、市民の音楽活動支援事業を実施します。	活動実績	活動の実績は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	-----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	北九州芸術劇場・学芸事業の事業実施ジャンル 交流事業・育成事業・普及事業・教育事業といった事業のジャンルを指標とします。 響ホール事業・音楽アウトリーチ事業の事業実施ジャンル 訪問コンサート、音楽ワークショップ、地域の音楽文化の担い手育成・継承、市民の音楽活動支援といった事業のジャンルを指標とします。		4 ジャンル	4 ジャンル	4 ジャンル 100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
		4 ジャンル	4 ジャンル	4 ジャンル 100.0 %	順調	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	【劇場・学芸事業】ワークショップ、講座等を通じて、演劇、ダンスを様々な形で体験し、演劇・ダンスならではの面白さ、表現する喜びを提供し、人材の育成を図るとともに、演劇ファン層の拡大を図ることができました。 【アウトリーチ事業】学校等身近な場所で生の音楽に触れることができました。実施先の小学校担当者、市民センター来場者のアンケートでも高い評価を得ており、クラシック音楽の裾野拡大に寄与したと判断できます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	劇場・学芸事業、アウトリーチ事業はともに、市の外郭団体が行っており、市が直接運営するより、コスト面で効率的な運営ができています。引き続き、さらに、経済性や効率性を意識した取り組みを行う必要があると考えています。 本市において、芸術・文化のけん引力となる発信力の高い事業を計画的に、総合的に実施できる民間団体は存在せず、市が関与することは適切であると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題
	代表的な成果指標はともに、ほぼ目標どおりの成果を得ることができましたが、限られた予算の中でアウトリーチ活動によりさらに、本市の芸術文化の裾野を広げることが必要です。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	北九州芸術劇場での交流事業・育成事業・普及事業・教育事業や響ホールでの訪問コンサート、音楽ワークショップなど、本市の芸術文化の裾野を広げる取組みを実施していきます。事業を精査し平成24年度予算に対して平成25年度予算は縮小します。 予算は縮小しますが「北九州芸術劇場・学芸事業参加者数」は1,700人、「響ホール事業・音楽アウトリーチ事業の聴衆者人数」は2,500人を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	芸術文化振興財団委託事業						施策番号				
							Ⅲ-2-(2)-④				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,275 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		73,269 千円	75,741 千円		課長	0.05 人		職員	0.04 人	担当課	文化振興課
					係長	0.04 人				課長名	西山

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	北九州市少年少女合唱団、北九州市ジュニアオーケストラの活動を通じて、合唱技術や演奏能力の向上並びに団員相互の親睦を深め、情緒豊かな青少年を育てるとともに、市民文化の高揚を図ります。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	---------------------	--	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	北九州市少年少女合唱団の団員数	北九州市少年少女合唱団に在籍している人数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 90人 平成25年度	58 人	90 人	100 人 111.1 %	
北九州市ジュニアオーケストラの団員数	北九州市ジュニアオーケストラに在籍している人数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 110人 平成25年度	116 人	110 人	115 人 104.5 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	【北九州市少年少女合唱団】地域の音楽文化を担う演奏家の育成と活躍の場を広げるため、定期演奏会やサマーコンサートを実施します。 【北九州市ジュニアオーケストラ】情緒豊かな青少年の育成及び市民文化の向上を図るため、定期演奏会やスプリングコンサートを実施します。	活動実績	活動の実績は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	-----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	北九州市少年少女合唱団の定期演奏会等回数	定期演奏会、サマーコンサートの回数を指標とします。	2 回	2 回	2 回 100.0 %	
北九州市ジュニアオーケストラの定期演奏会等回数	定期演奏会、スプリングコンサートの回数を指標とします。	2 回	2 回	2 回 100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	2団体とも定期演奏会に加えて、市内イベントに出演し、音楽を楽しむ機会を提供することができました。その過程において、異年齢の団員との活動の中で、合唱や演奏を通して自主性や協調性等を学ぶとともに、情操豊かな人間形成と音楽文化の高揚を図ることができました。 練習活動を通じて、情緒豊かな青少年を育てることを目的とした本事業は、施策目標「芸術・文化の担い手の育成」に対する有効性は高いものと考えられます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は市の外郭団体が行っており、市が直接運営するより、コスト面で効率的な運営ができています。ただし、短期的な成果が見えづらいため、目的と効果を検証しながら、事業を実施する必要があります。本市において、本事業のように大規模かつ計画的、総合的に実施している民間団体は存在せず、市が関与することは適切であると考えられます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 代表的な成果指標はともに、ほぼ目標どおりの成果を得ることができました。少子化の影響で団員の確保が年々難しくなっていますが、今後も、団員の確保に努めます。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	定期演奏会やサマーコンサート、オーディションを行い、団員の募集に努めます。来年度は、団員の相互交流、演奏技術の向上のため新潟市で開催されるジュニアオーケストラフェスティバルに出場します。遠征に伴う経費増を踏まえ支出を見直します。施策目標に鑑み平成24年度予算に対して平成25年度予算は現状を維持します。
	「北九州市少年少女合唱団の団員数」は90人、「北九州市ジュニアオーケストラの団員数」は110人を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	芸術文化体験事業					施策番号			
						Ⅲ-2-(2)-④			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,550 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
		5,552 千円	7,621 千円		課長	0.05 人 職員 0.17 人		担当課	文化振興課
					係長	0.17 人		課長名	西山

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	文化体験を通して、子どもたちの豊かな情操を養うとともに、芸術文化に対する関心を高め、未来の文化の担い手として育成します。子ども文化ふれあいフェスタは、地元文化団体等が企画したワークショップ等を年1回行います。学校訪問コンサートは、アーティストが直接学校に出向いて生の音楽等を提供します。	成果実績	様々な文化体験や音楽鑑賞により子どもたちの豊かな人間性と多様な個性を育みました。
-----------	--------------------	---	-------------	--

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
代表的な成果指標	子ども文化ふれあいフェスタ参加者者人数			1,043 人		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	子ども文化ふれあいフェスタへの参加者人数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 680人 平成25年度	1,015 人	680 人	153.4 %		
	学校等訪問コンサート参加者人数			1,637 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
	学校等訪問コンサートとは、北九州市民文化賞・奨励賞を受賞した芸術家(主に音楽)を小学校等に派遣し、子どもたちに生演奏を聞いてもらうコンサートです。コンサート参加者人数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 1,800人 平成25年度	2,317 人	1,800 人	90.9 %		

活動計画	【子ども文化ふれあいフェスタ】8月下旬に文化団体等が企画したワークショップを実施し、芸術文化に対する関心を高めます。 【学校等訪問コンサート】20校程度の学校を訪問し、アーティストを派遣して子どもたちに生の演奏を提供します。	活動実績	様々な文化体験や音楽鑑賞により子どもたちの豊かな人間性と多様な個性を育みました。
-------------	---	-------------	--

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
活動指標	子ども文化ふれあいフェスタ実施回数			1 回		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	子ども文化ふれあいフェスタの実施回数を指標とします。	1 回	1 回	100.0 %		
	学校等訪問コンサート実施回数			24 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
	学校等訪問コンサートとは、北九州市民文化賞・奨励賞を受賞した芸術家(主に音楽)を小学校等に派遣し、子どもたちに生演奏を聞いてもらうコンサートです。コンサート実施回数を指標とします。	30 回	20 回	120.0 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	子ども文化ふれあいフェスタは、子どもたちが普段接することがあまりないと思われる伝統芸能の分野(日本舞踊、いけばな、琴等)を中心とした、体験型の催事です。実際に体験してもらうことで、その楽しさを実感してもらえました。学校等訪問コンサートでは、子どもたちが集中して音楽に聞き入っており、また学校の先生からも、普段接することができない生演奏を聞くことができ貴重な経験ができたとの声が多く寄せられました。多くの小学生に参加してもらうことができました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ふれあいフェスタについては、当日の運営業務等は外部委託を行い、低コストで実施しています。しかし、高い効果が得られるようにさらに、工夫する余地はあります。 学校等訪問コンサートについては、今後、外部委託を検討していきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題
	代表的な成果指標はともに、ほぼ目標どおりの成果を得ることができましたが、訪問コンサート実施回数が減る中、いかに参加人数を維持していくかが課題です。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	子どもたちが夏休みを利用して伝統芸能に触れる機会を確保します。業務委託の内容などを精査し平成24年度予算に対して平成25年度予算は縮小します。
	予算は縮小しますが「子ども文化ふれあいフェスタ参加者者人数」は680人、「学校等訪問コンサート参加者人数」は1,800人を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	現代美術センター CCA北九州事業						施策番号		
							Ⅲ-2-(2)-④		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	6,700 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
		60,194 千円	60,200 千円		課長	0.05 人 職員 0.55 人		担当課	文化振興課
					係長	0.2 人		課長名	西山

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	若手アーティストのための学習研究プログラム(リサーチ・プログラム)では、世界のアートシーンで活躍しうる人材育成を目指します。プログラム修了後、国内外で活躍しているこれまでの多くの受講生により、CCA北九州の評価と認知度がさらに高まっていくと思われます。また、地域の子どもの対象とした子ども向けワークショップでは、CCAの持つ専門性や独創的なネットワークを活かし、子どもたちに本市の芸術文化の担い手として育成することを目的とします。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	---------------------	---	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	リサーチプログラムの受講者数	国内外の若手アーティストが本市に滞在しながら自身の制作活動を進めるプログラムであり、世界に通用する人材育成を目指しています。今後はさらにプログラムを充実させていきます。 (最終目標と目標年度) 7名程度 平成25年度	5 人	7 人	6 人 85.7 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
子ども対象プログラム参加者数 鋭い感性や創造性を子どもたちが備えていくことは、本市の未来にとっても大切な人的投資であると考えます。CCAの専門性とネットワークを活かし、子どもの参加者の拡大と質の高いプログラム実施を心がけていきます。 (最終目標と目標年度) 40名程度 平成25年度		26 人	30 人	40 人 133.3 %		

活動計画	今年度も引き続き、リサーチプログラムの充実を図り、北九州から世界に通用するアーティストを育成していきます。また、子ども対象プログラムでは、プロの映像作家を招き、コンピューターを使用して映像作品を作成することになっています。これらのプログラムの多くは市からの補助金で実施されています。	活動実績	活動の実績は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	-----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	リサーチプログラム受講生の活動及び発表回数	世界の第一線で活躍するアーティストを講師として招聘し、受講生はレクチャーを受けていますがその成果を発表する場(展覧会等)をいっそう充実させていきます。	2 回	3 回	3 100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	活動は予定どおりに行い、ほぼ目標は達成しています。リサーチプログラムに関しては、受講に係る個人負担が非常に高く、急激な円高・ドル安・ユーロ安によって、日本での生活はいっそう厳しいものとなりました。そのため、受講生の経済的な理由のみで参加を取りやめたケースもありました。一方、子ども対象プログラムについては、プロの映像作家を講師に映像作品を作り上げていくワークショップを開催し、予定どおりの子どもたちの参加を得ることができました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	これまで培ってきたCCAのネットワークを活かして、美術関係者や講師から採算を度外視した協力や支援をいただき各種事業を行っています。また、国内外から一流のアーティストを低いコストで招聘するだけでなく、市民向けの多彩な事業を効率的に展開しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	リサーチプログラムにおいて、海外からの受講生の中には、経済的要因で来日困難になったケースがあり、目標をやや下回っています。子ども対象プログラム参加者については予定を超える参加を得ることができました。引き続き、両プログラムとも受講者の確保に努めていきます。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	リサーチプログラムにおいては、若手アーティストの中から一定レベルの受講生の確保を図り、また、子ども対象プログラムでは充実した内容のプログラムを維持しながら、開催方法・諸経費削減等の見直しをする努力を行い、予算は縮小します。	リサーチプログラムにおいては受講者数を当初の目標より1人削減して6人とし、子ども対象プログラムの参加者目標人数は計画どおりの30人を目標とします。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	北九州市子どもノンフィクション文学賞						施策番号	Ⅲ-2-(2)-④		
	コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	8,000 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
8,490 千円			13,250 千円	課長		0 人	職員		1 人	担当課
係長		0.05 人	課長名	西山						

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 平成21年から開催されている「北九州市子どもノンフィクション文学賞」を継続して実施し、子どもたちが人間・社会への関心や思考力を高めながら成長していく契機とします。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	--	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	北九州市子どもノンフィクション文学賞への市内からの応募数 子どもたちが自身の体験を通して、ノンフィクション分野の文学にふれる機会となる「北九州市子どもノンフィクション文学賞」への市内からの応募数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 900編 平成25年度	北九州市子どもノンフィクション文学賞への市内からの応募数	858 編	900 編	916 編	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
北九州市子どもノンフィクション文学賞応募全国ブロック数		101.8 %					
全国規模での事業展開状況が分かる指標として九州以外の全国を8ブロックに分け、九州8県と海外応募を含めて17ブロックとし、指標とします。 (最終目標と目標年度) 17ブロック 平成25年度		14 ブロック	17 ブロック	12 ブロック	70.6 %		順調

活動計画	年1回の「北九州市子どもノンフィクション文学賞」作品募集を継続します。	活動実績	活動の実績は下記のとおりです。
-------------	-------------------------------------	-------------	-----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	「北九州市子どもノンフィクション文学賞」作品募集における的を絞った広報 費用対効果の面から広報媒体を厳選しつつも効果的な全国広報、北九州地域での広報を行います。	「北九州市子どもノンフィクション文学賞」作品募集における的を絞った広報		効果的な全国・北九州地域での広報	%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
		%				
		%			%	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・第3回目も1回目、2回目につき、全国各地の子ども達から1,000編を越す多くの作品をご応募をいただき、審査員からの評価も高い力作がそろいました。北九州市から全国の子どもたちへこのような文学賞を発信していくことは、文化の担い手の育成に大きく貢献していると考えます。 ・本市では平成2年度より、「北九州市自分史文学賞」を継続して実施しており、当文学賞はジャンルとしては同じノンフィクション作品を募集する子供向けの文学賞です。このような文学賞は他都市ではあまり例のない本市独自の取り組みであり、文化の担い手の育成に十分貢献していると言えます。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年度は広報媒体を厳選する等委託料に係る経費の節減に努めました。 ・現在のところ、他の実施主体は考えられず、実施主体は市が適当だと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成23年度(第3回)も第1回、第2回に続き、全国各地の子ども達から1,000編を越す多くの作品のご応募をいただき、審査員からの評価も高い力作がそろいました。平成23年度の市内からの応募数は目標の900編を超え、市内での認知度は高まっています。今後は、費用対効果を考慮しつつ、より効果的な広報活動に努めながら、全国的な事業展開を目標に、応募数増加に努めます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	費用対効果の面から、広報媒体を厳選しつつも効果的な全国広報、北九州地域での広報を行います。事業展開に鑑み平成24年度予算に対して平成25年度予算は現状を維持します。	引き続き、市内からの応募数を確保しつつ、全国規模での事業展開を目標に、九州以外の全国を8ブロックに分け、九州8県と海外応募を含めて17ブロックの応募率80%を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	黒崎副都心「文化・交流拠点地区」整備事業						施策番号					
							Ⅲ-2-(2)-⑤					
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	6,220 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局			
		333,809 千円	2,472,600 千円		課長	0.03 人		職員	0.25 人	担当課	文化政策課	
					係長	0.4 人				課長名	用田	

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	九州厚生年金病院跡地等(約3.3ha)に、図書館、ホール、広場・緑地など、文化・生涯学習・コミュニティ活動を通して人が交流する場や、快適に憩える都市空間をPFI事業にて整備することにより、副都心に相応しい都市機能の充実と地域の回遊性の向上を図り、黒崎の活気と賑わいを再生させます。			成果実績	予定どおり施設整備が進み、施設の利用予定も順調に入ってきていることから、黒崎のにぎわいづくりに向けて順調に事業が推進されていると判断しました。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【成果の状況】	
	黒崎の賑わいが感じられる状態		黒崎の賑わいが感じられる状態を目指します	—		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	ホール開設によってもたらされる「黒崎の賑わいが感じられる状態」を数値で表すことは、現在は困難です。 (最終目標と目標年度)24年度以降黒崎の賑わいを感じられる状態			%			
	(最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	

活動計画	平成23年度は事業用地の取得をはじめ、PFI事業により図書館、ホール、広場などの施設整備を進めて、平成24年7月のオープンを目指します。				活動実績	下記の活動指標のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】	
	「文化・交流拠点地区」の整備	設計・工事着手等	工事の着実な進捗等	%		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	PFI事業による図書館、ホール、広場などの整備に向け、施設の設計などを進め、平成22年内に工事着手を図り、平成24年7月のオープンを目指します。			%			
	(最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	本事業は、中心市街地活性化基本計画(平成20～24年度)の主要事業であり、計画期間内の平成24年7月のオープンを目指し、現工程のとおり、計画的で着実な施設整備を進めてきました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	民間資金と経営能力・技術力(ノウハウ)を活用したPFI事業(BTO方式)により事業を進めます。本事業については、従来の公共事業発注方式に比べ、「効率性(施設整備と維持管理運営の一体による使いやすさ)」「経済性(性能発注・一括発注による事業費の削減、事業期間内における財政負担の平準化など)」の面で効果が見込まれます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題
	平成23年度に引き続き、計画的で着実な施設整備を進めてきた結果、当初の予定通り、平成24年7月1日にオープンしました。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	利用者が満足できるようなホール施設の管理運営を一年間通して進めていきます。 なお、平成24年度予算は、施設オープンに際して施設整備費の大部分を計上したため規模が大きくなりましたが、平成25年度予算は、施設整備費が縮小したため、事業費は減少しています。
	ホール施設の管理運営を通して、黒崎の賑わいが感じられる状態を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	(仮称)北九州市漫画ミュージアム開設準備事業						施策番号		
							Ⅲ-2-(2)-⑤		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の 目 安	金額	46,500 千円	(備考) 直接関わる職員以外 に、嘱託職員4名も関 わっています。	担当局	市民文化スポーツ局
		114,456 千円	0 千円		課長	1 人 職員 2 人		担当課	文化振興課
			係長		2 人	課長名		岡田	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	本市は、松本零士氏、畑中純氏、わたせせいぞう氏、北条司氏など著名な漫画家を数多く輩出している地域です。これらの作家・作品を地域の重要な資源として活用し、さまざまな漫画の魅力を幅広い世代に伝える漫画文化の拠点施設「北九州市漫画ミュージアム」を開設し、漫画文化の普及を目指します。	成果実績	開設準備を進めることで、漫画文化の普及の準備ができました。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	漫画文化の普及		漫画文化の普及を目指します。	—		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	「漫画文化の普及」を数値で表すことは、現在は困難だと考えています。漫画ミュージアムの開館後は来館者数を指標として上記状態を測ります。 (最終目標と目標年度)			%		
					%	順調
(最終目標と目標年度)				%		

活動計画	設置工事・展示製作委託、漫画本・備品の購入等、漫画ミュージアムの開設準備を行います。また漫画ミュージアムのプレイベントを実施します。			活動実績	活動の実績は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	漫画ミュージアム設置工事、展示製作委託、漫画本・備品の購入等の進捗率		100 %	70 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	平成24年8月のオープンに向け、開設準備を行います。			70.0 %		
	漫画ミュージアムプレイベントの実施		1 回	1 回	1 回	やや遅れ
開館に向けた周知及び漫画文化の普及のため、プレイベントを実施します。				100.0 %		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	漫画ミュージアムの設置階が変更になったことにより、事業の進捗に遅れが生じました。一方、プレイベント「少女漫画家3人展」やあるあるCity(漫画ミュージアムが入居するビル)のプレイベントと連携した広報の実施により、これまでのプレイベントとは異なる層への周知や漫画文化の普及を図ることができました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	設置工事・展示製作委託、漫画本・備品の購入等に関しては、入札を実施し経済性を重視した契約を行いました。また、あるあるCityのプレイベント「あるあるフェスタ」や「あるある茶房」での複製原画やパネル展示など、あるあるCityと連携しより経済的・効率的な広報を実施しました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 平成24年8月に漫画ミュージアムが開館しました。年間10万人の来館者を目標にしており、集客のために多様なイベント・ワークショップを開催する必要があります。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	漫画ミュージアムの来館者数年間10万人を目指します。
	さまざまな内容の企画展・イベント・ワークショップを開催していきます。ビルやテナントとの協力にも努めます。 平成24年度は開館後8ヶ月の活動費であり、次年度は12ヶ月の活動費となりますが、年間の企画展開催回数を減らすことで予算を縮小します。その分開催する企画展やワークショップの内容の充実を図ります。	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	北九っ子！パワーアップ大作戦						施策番号
							Ⅲ-2-(3)-①
コスト	事業費	平成23年度執行額 7,927 千円	平成24年度当初予算額 8,050 千円	人件費の目安	金額 5,630 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局
					課長 0.02 人 職員 0.4 人	担当課	スポーツ振興課
					係長 0.24 人	課長名	杉本

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 全国体力・運動能力等調査において、本市の小・中学生の平均は多くの種目で全国平均を下回りました。その原因として、子どもたちが活動する場所や機会の減少、保護者の運動・健康の重要性の認識不足があげられます。また小学校高学年から、運動する子としない子が二極化する傾向にあります。そこで、子どもたちが早期から運動に親しむ習慣を身につけるきっかけづくりと、保護者への啓発に重点を置いて事業を展開し、子どもの体力向上を図るものです。	成果実績	下記のとおりです。
-----------	---	-------------	-----------

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
代表的な成果指標	事業実施後の追跡アンケートによる改善項目数 「親子で遊ぼう！パパ・ママ・キッズ」実施1か月後アンケート(運動の回数が増えたか？食育料理教室で作った料理を家庭でも作ってみたか？等)の抜粋8項目について、参加者の50%以上が改善したと回答した項目の数。 (最終目標と目標年度) H25年度 5項目	1 項目	4 項目	4 項目 100.0 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	H22年度の参加者から得られたアンケート結果を反映し、H23年度事業に活用していきます。また、運動しない子どもや運動嫌いな子どもとその保護者に対し、いかにアプローチしていくかを重視し、そのために運動プログラムの構成について教育委員会指導指導二課(指導主事)と、子どもの発達段階に応じた正しい食育指導を行うために子ども家庭局子育て支援課(母子栄養指導担当係長)と連携して事業を進めていくこととし、子どもの運動習慣の定着や体力の向上について、幅広い視点から取り組んでいきます。	活動実績	下記のとおりです。
-------------	--	-------------	-----------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
活動指標	親子で遊ぼう！パパ・ママ・キッズの実施回数 未就学児の子どもを対象に、体力向上・健全育成のためのきっかけづくりを行うとともに保護者に対しては、食育を通して子育ての啓発を行っていく「親子で遊ぼう！パパ・ママ・キッズ(委託事業)」を実施します。	8 回	9 回	11 回 122.2 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	ジュニアスポーツ体験教室の実施回数 小学校低学年の児童を対象に、体を動かすことの楽しさを体験させ、生涯を通じて運動・スポーツに親しむきっかけづくりを行う「ジュニアスポーツ体験教室(委託事業)」を実施します。	140 回	140 回	140 回 100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。
		活動・成果ともに順調に推移し、目標を達成することが出来ました。このことから事業は順調に進んでいると考えています。 「親子で遊ぼう！パパ・ママ・キッズ」の委託事業者は、市内の総合型スポーツクラブやNPO法人の中から企画コンペにより選定しています。提案プログラムの内容だけでなく実施回数や費用対効果の項目を採点基準に盛り込んでおり低コストで有効な教室が実施できています。また「ジュニアスポーツ体験教室」は、各種スポーツ指導に高いノウハウを有した各区の総合型スポーツクラブに委託しています。各クラブが拠点としているスポーツ施設や学校施設を利用することで、低コストで有効な教室が実施できています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 全体的には活動、成果ともに順調な成果があげられました。ただし、ジュニアスポーツステップアップフェスタについては、トップアスリートから直接指導を受ける機会を設け、子どもたちに夢を与え、競技力の向上を図る事業として実施していますが、年に1度の事業であることから、子どもたちの競技力向上にどの程度効果を発揮しているかを見極め、実施方法や事業の縮小の検討を行う必要があると考えています。	その結果目指す成果(次年度の成果目標) ジュニアスポーツステップアップフェスタの見直しを行いながら、全体的には、より魅力的な事業を行い、体験参加後も子どもたちがスポーツに親しむよう習慣づけると同時に、保護者への啓発を促進させていきます。併せて、実施後のアンケート調査の改善項目が5項目となるよう目指します。
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	ジュニアスポーツステップアップフェスタについては、事業の見直しを行い、予算を縮小します。	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	レディーススポーツフェスティバル						施策番号				
							Ⅲ-2-(3)-①				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,945 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		2,500 千円	0 千円		課長	0.03 人		職員	0.12 人	担当課	スポーツ振興課
					係長	0.07 人				課長名	杉本

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	レディーススポーツフェスティバルの開催によりスポーツに接する機会を増やし、身体を動かすことの楽しさを発見してもらい、女性の健康づくりを増進します。				成果実績	成果状況は下記のとおりです。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)		前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	「レディーススポーツフェスティバル」の参加者数		4,199 人	4,200 人	3,953 人	94.1 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	参加者数が前年度に比べ同数、または増加するよう取り組みます。 (最終目標と目標年度) 平成23年度4,200人									
								順調		
(最終目標と目標年度)										

活動計画	広報活動など従前どおり実施しながら、初心者体験コーナーを設置し、参加する人の裾野を広げていきます。また参加者数の増加に向けて、競技団体に競技方法の見直しなどの協力を行います。				活動実績	各種目に初心者体験コーナーを設置しました。				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)		前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】			
	「レディーススポーツフェスティバル」競技数		23 種目	23 種目	23 種目	100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	多くの市民がイベントに参加できるよう競技団体等の協力の下、競技数の確保・増加を行います。									
								大変順調		
(最終目標と目標年度)										

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	各競技団体への協力依頼や競技方法の見直しなどを行い、実績としては目標参加者数を若干下回りましたが概ね順調でした。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	効率的な運営と低コスト化を目的に平成24年度から「レディーススポーツフェスティバル」と「市民体育祭」を統合しました。具体的なメリットとして開会式や実行委員会を一本化することによりコスト削減をすることが出来ます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	類似事業を整理統廃合しコスト削減を図るため、平成24年度より、本事業を市民体育祭に統合し、開会式、実行委員会を一本化しました。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成24年度より廃止。	-

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	市民体育祭						施策番号	Ⅲ-2-(3)-①
	コスト	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	4,650 千円	(備考)	担当局
7,100 千円		9,000 千円	課長		0.1 人 職員 0.2 人	担当課		スポーツ振興課
		係長	0.2 人		課長名	杉本		

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価					
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	市内各所で多くの市民がスポーツに取り組んでおり、活動の成果を確認したり、同じ競技をしている人たちとの交流を進めています。市民参加型のスポーツイベントを開催し、多くの市民に参加いただくことで、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、生涯にわたりスポーツに取り組み、健康で充実した生活を送ろうとする気持ちを高めることができます。			成果実績	成果状況は下記のとおりです			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	「市民体育祭」参加者数	55,288 人	56,000 人	56,214 人	100.4 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	市民のスポーツに対する興味・関心を高め、スポーツへの取組状況が表れている同スポーツイベントへの参加者数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 平成25年度までに63,000人								
	(最終目標と目標年度)						順調		

活動計画	市主催のスポーツイベントの参加者数が増加するよう、競技団体へ市民が参加しやすい内容になるよう協力の依頼を行います。			活動実績	活動状況は下記のとおりです				
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】			
	「市民体育祭」競技数	72 種目	72 種目	72 種目	100.0 %	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	多くの市民がイベントに参加できるよう競技団体等の協力の下、競技数の確保・増加を行います。								
	(最終目標と目標年度)						順調		

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	活動の状況は競技数が目標に達成したことなどから着実に事業が進められ順調に推移していると判断しました。また、成果の状況につきましても目標を超える参加者があったことから概ね順調に推移していると判断しました。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は市を代表するスポーツイベントであり、多くの市民にも参加いただいているなど「誰もが気軽にスポーツに楽しめる環境づくり」を進めるには欠かせない事業であると考えます。しかしながら、「経済性」「効率性」の観点から本事業の効果や趣旨は残しつつ、効率的な運営と低コスト化を図るよう、「レディーススポーツフェスティバル」と本事業を統合しました。統合により開会式や実行委員会などを一本化し、コストの削減が出来ます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入	
見直し状況等	課題 ・平成24年度より、類似したレディーススポーツフェスティバルを本事業に統合し、開会式、実行委員会を一本化してコスト削減を行いました。 ・競技内容等の硬直化が見られます。
	次年度の活動計画(見直し内容) その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	事業費を維持しながら、現行のスポーツイベントを実施します。また、競技内容・開会式など事業のあり方についても検討をします。 市民が皆参加しやすい環境作りに勤めることで、前年度を上回る参加者数を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	地域スポーツ振興事業						施策番号			
							Ⅲ-2-(3)-①			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	990 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		3,537 千円	20,560 千円		課長	0.01 人	職員	0.05 人	担当課	スポーツ振興課
					係長	0.05 人			課長名	杉本

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	各区における地域スポーツの普及振興を図るため、ニュースポーツ用具の整備及び各種交流大会を実施します。また、親子のコミュニケーションづくりに着目し、家族単位の地域交流を促進するファミリースポーツ推進事業を展開し、市民のスポーツ実施率の向上を図ります。			成果実績	一部予定事業が雨天等により中止となったため実績数字が減少しました。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	各区におけるニュースポーツ及びファミリースポーツ大会の参加人数	12,600 人	12,600 人	12,531 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	本事業予算は、各区におけるスポーツ大会開催に係る審判謝礼金や用具代など大会運営を支える経費ですので、大会参加人数を指標とします。 (最終目標と目標年度) 平成25年度末までに15,000人			99.5 %			
	(最終目標と目標年度)				順調		

活動計画	各区において、地域スポーツの普及振興を図るため各種スポーツの開催やニュースポーツの用具、備品整備を図ります。	活動実績	活動状況は下記のとおりです			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	各区におけるスポーツ行事の開催数	一 回	100 回	103 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市民の機会創出を図るため、各区において行われる各種スポーツ大会開催数の確保・増加を図ります。			103.0 %		
	(最終目標と目標年度)				順調	

【Check】評価(分析)		
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	【経済性】 【効率性】 の分析	活動の状況は着実に事業が進められ順調に推移しました。成果の状況については一部事業が雨天等で中止となりましたが、ほぼ目標どおりの人数が参加し概ね順調に推移しています。
	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は施策に対する有効性も高く「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」を推進していく上で重要な事業であると考えています。本事業におけるスポーツ大会は市民主体による企画・運営に基づくものであり、経費の支出も審判謝礼・備品代など必要最小限の範囲で行われています。今後とも事業の「経済性」「効率性」の向上へ向けた視点を持ちつつ、目標の達成に向けて着実な取り組みを進めていくことが適当であると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入					
見直し状況等	課題				
	より一層の地域スポーツ振興のために、参加者の増加が必要であると考えています。				
	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 50%;">次年度の活動計画(見直し内容)</td> <td style="width: 50%;">その結果目指す成果(次年度の成果目標)</td> </tr> <tr> <td>事業費を維持しながら、現行の各種スポーツ大会を開催します。また、より多くの市民が参加可能となるように広報・周知を徹底します。</td> <td>前年度を上回る参加者数を目指します。</td> </tr> </table>	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	事業費を維持しながら、現行の各種スポーツ大会を開催します。また、より多くの市民が参加可能となるように広報・周知を徹底します。	前年度を上回る参加者数を目指します。
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)				
事業費を維持しながら、現行の各種スポーツ大会を開催します。また、より多くの市民が参加可能となるように広報・周知を徹底します。	前年度を上回る参加者数を目指します。				

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	総合型地域スポーツクラブ育成・支援事業						施策番号
							Ⅲ-2-(3)-①
コスト	事業費	平成23年度執行額 4,340 千円	平成24年度当初予算額 4,459 千円	人件費 の目安	金額 2,325 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局
					課長 0.05 人 職員 0.1 人	担当課	スポーツ振興課
					係長 0.1 人	課長名	杉本

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	総合型地域スポーツクラブは、人々が身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブです。多世代、多種目、多志向を特徴とし地域住民により自主・主体的に運営される総合型地域スポーツクラブは、これからの地域スポーツの中核をなすものです。本市における成人の週1回のスポーツ実施率の向上のためにも、果たす役割は大きいことから総合型地域スポーツクラブの会員数拡大を目指します。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	総合型地域スポーツクラブの会員数			2,059 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	スポーツをする人、支える人など市民のスポーツへの関わりが表れている総合型地域スポーツクラブの会員数を成果指標とします。 (最終目標と目標年度) 平成32年度までに4,000人	1,940 人	2,000 人	103.0 %			
	(最終目標と目標年度)						

活動計画	総合型地域スポーツクラブの会員数増加のためには、市民にとってクラブへの入会を魅力あるものにする必要があります。広報・PR強化のみではなくクラブの質の向上を図るため、交流事業や勉強会を定期的開催し、指導者の充実やクラブを円滑・安定的に運営できる人材の育成等に努めます。			活動実績	下記の活動指標のとおりです		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	総合型地域スポーツクラブのPR強化及び交流事業等の開催			—	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	「総合型地域スポーツクラブ連絡協議会」を通じて、交流行事や勉強会を開催します。	—	交流行事や勉強会の定期的開催				
	(最終目標と目標年度)						

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	活動の状況は着実に事業が進められ順調に推移しました。また、成果の状況につきましても昨年度より会員数が約10%増加していることから概ね順調に推移していると判断しました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本事業は施策に対する有効性も高く、地域住民が出し合う会費や寄附により自主的に運営される総合型地域スポーツクラブを支援することは、「誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくり」を効率的に推進していく上で重要な事業であると考えています。今後、クラブの運営・事業にスポーツ推進委員などが多く参加できる仕組みづくりを検討することなどにより、地域の活動促進及び経費節減を図ります。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 ・「総合型地域スポーツクラブ」に対する市民の理解・認知状況。 ・市内の「総合型地域スポーツクラブ」数の増加状況。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	前年度より総合型地域スポーツクラブに携わる役員及び会員数が増加することを目指します。
	事業費を維持しながら、既存の総合型地域スポーツクラブの活動促進に向け、同クラブの紹介など広報を強化するとともに新たなクラブの設立に向け、地域・団体への働きかけを行います。	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	国際大会・全国大会等スポーツ開催						施策番号		
							Ⅲ-2-(3)-②		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	4,325 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
		4,550 千円	5,840 千円		課長	0.05 人 職員 0.3 人		担当課	スポーツ振興課
			係長		0.15 人	課長名		杉本	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	実践するスポーツだけでなく、見るスポーツも多くの市民が望んでいます。競技レベルの高い大会を開催したり、誘致したりすることは、市民のスポーツに対する興味・関心を高め、スポーツに取り組むきっかけにもなります。また、高度な技術などを目にする事で、個々の競技力向上にもなり、まちの活性化につながります				成果実績	成果状況は下記の通りです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	国際・全国大会等の開催数	19 回	19 回	17 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	市内において国際・全国規模大会を開催することで、多くの市民にスポーツに関心をもたせスポーツに取り組むきっかけづくりを行います。加えて高度な技術に触れることによる競技力の向上やその集客力によって地域の活性化を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成25年度 21回			89.5 %					
	大型スポーツイベント(自主事業)の参加人数	4,644 人	4,800 人	4,895 人		順調			
門司港レトロマラソン及び西日本少年柔道大会を開催し、健康の増進、競技力向上、集客による地域の活性化を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成25年度 5,000人	102.0 %								

活動計画	国際大会などの誘致活動や自主事業であるスポーツイベントの実施。						活動実績	他の部署との協力により、自主事業の参加規制を上限2,800人から3,000人と上げました。		
-------------	---------------------------------	--	--	--	--	--	-------------	---	--	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	国際大会など誘致活動の実施	-	誘致活動の実施	-	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	大会開催のインセンティブを宣伝し、各関係団体と連携して誘致活動を行います。			1 件		
	自主事業の実施件数	-	1 件	1 件		順調
自主事業実施に伴い、関係機関との連絡調整を行います。	100.0 %					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	大型スポーツイベントの参加人数は増えましたが、国際・全国大会の開催数は、多少減少しました。総合的には概ね順調な実績を挙げています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	(公財)北九州市体育協会や(財)西日本産業貿易コンベンション協会など関係機関との協力を一層強化しながら、高い成果を挙げるとともに、今後は、全体のコストと他事業の関係性などを把握し、事業の整理や統合なども検討する必要があると考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題		
	個別のスポーツ事業の費用対効果を把握し、事業の整理や統合などを検討する必要があります。		
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	
	H24年度をもって西日本少年柔道大会を終了することによって、全体のコスト削減を図ります。	コスト削減を図りながら、前年度並の国際・全国大会等の開催数を目指します。	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	ギラヴァンツ北九州支援事業						施策番号			
							Ⅲ-2-(3)-②			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	2,325 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		50,000 千円	60,000 千円		課長	0.05 人	職員	0.1 人	担当課	スポーツ振興課
					係長	0.1 人			課長名	杉本

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	本市唯一のプロスポーツチームである「ギラヴァンツ北九州」が、市民の一体感を高め、誇りや愛着を持てるようなシンボルとなり、真に市民に愛されるチームとなることを目的とします。			成果実績	主催試合の平均入場者数は、東日本大震災の影響により特に前半が伸び悩みました。北九大都市政策研究所の調査によると、チームの認知度は2年前に比べ64%⇒88%と増加しています。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	ギラヴァンツ北九州主催試合の平均入場者数	4,189 人	5,000 人	4,051 人	81.0 %	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	より多くの市民に実際の試合を見ていただくことがチームの認知度や愛着感を高めるために重要であると考え設定しました。最終目標はJ2の平均以上としました。 (最終目標と目標年度) 平成28年度6,500人以上(23年度J2平均6,423人以上)							
(最終目標と目標年度)					順調	やや遅れ 遅れ		

活動計画	今年度は、KPECスポーツ振興チケット(子どもたちの健全育成や地域コミュニティの交流を目的とした招待チケット)を活用した取り組みを強化します。チームの広報や集客事業の一部への補助金による支援です。	活動実績	活動状況は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
	KPECスポーツ振興チケットによる平均入場者数	650 人	700 人	691 人	98.7 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	今年度は、KPECスポーツ振興チケット(子どもたちの健全育成や地域コミュニティの交流を目的とした招待チケット)を活用した取り組みを強化します。本事業は、チームの広報や集客事業の一部への補助金による支援です。							
					順調	やや遅れ 遅れ		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	来場者増に向けた広報活動はあらゆる機会をとらえ実施しました。特にKPECスポーツ振興チケットについては、チームと市、教育委員会が連携し、市内の全小中学生に配布、その他にも高校や大学でも配布しました。しかしながら、東日本大震災の影響と想われますが、6月までの来場者数が伸び悩み、前年実績を下回ることとなりました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	招待チケットの費用は、青少年の健全育成を目的としてKPECが負担しています。本事業は、補助金という性質上、経済性や効率性を求めづらいですが、チームには、補助金がホームゲームの集客につながる使途となるよう働きかけています。また「北九州」の名を冠したチームがホームだけでなくアウェイでも試合を行うことや、マスコミへの露出による本市のイメージアップ・PR効果は高いと考えています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題		
	今年度は、J2リーグが原則日曜日開催となり、特にナイターでは親子連れやアウェイサポーターの来場が減少したことや、悪天候などにより、来場者数が昨年度より減少しています。		
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	
	来場者アンケートなどで要望の高いチーム情報の周知やアクセスの改善にクラブと協力し取り組みます。事業費は現状維持とします。	主催試合の平均来場者数4,300人	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	ホームタウン推進事業						施策番号				
							Ⅲ-2-(3)-②				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,950 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		50,040 千円	64,450 千円		課長	0.05 人		職員	0.25 人	担当課	スポーツ振興課
					係長	0.15 人				課長名	杉本

【Plan】計画 →				【Do】実施 → 【Check】評価			
目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	市民の一体感の醸成や青少年の健全育成等を目的として、一流のプロスポーツ観戦の「みる」スポーツの機会を市民に提供します。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。	
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)		前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	スポーツ観戦率			30 %	21.3 %		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	競技レベルの高いプロスポーツの試合を「みる」機会の充実を図る指標として欠かせないため設定しました。最終目標は、北九州市スポーツ振興計画の目標である40%以上としました。 (最終目標と目標年度) 平成32年度までに40%以上				71.0 %		
	(最終目標と目標年度)					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	やや遅れ

活動計画	今年度は、本市をホームタウンとする「ギラヴァンツ北九州」をはじめ、準ホームタウンとする「福岡ソフトバンクホークス」や「堺ブレイザーズ」等のスポーツチームの試合観戦事業等を実施します。				活動実績	活動結果は下記のとおりです。	
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)		前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	市民招待事業等によるギラヴァンツ北九州ホームゲームの観戦者数				18,144 人		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	ギラヴァンツ北九州のホームゲームを「みる」機会を創出し、スポーツ観戦のきっかけ作りとします。		8,795 人	20,000 人	90.7 %		
	ソフトバンクホークス・堺ブレイザーズ親子招待事業による観戦者数				1,975 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
親子を対象に、本市を準ホームタウンとする両チームの試合観戦機会を創出し、スポーツ観戦のきっかけ作りとします。			2,000 人	98.8 %			

【Check】評価(分析)			
分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	市政だより等を通じた広報の結果、両指標とも達成率が90%以上と、活動は順調です。本年度より市民招待事業をサッカーだけでなく、野球、バレーボールにも拡充しましたが、いずれも市民から好評を得ています。しかし成果指標である「スポーツ観戦率」については、達成率が7割にとどまっているため、次年度は新たにサッカーのプレシーズンマッチを本市で開催するなど、更なるスポーツ観戦機会の提供拡充を図ります。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	本市でのプロスポーツの開催は、市民がレベルの高いスポーツに触れる機会の創出のみならず、経済効果やシティプロモーション効果も望めます。本事業は、市民向け事業でありながら、一定数の観客の確保も担保することから、主催者が本市で開催するインセンティブにもなっています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入					
見直し状況等	課題				
	活動の状況は昨年度に引き続き今年度も順調に推移しています。しかし、目標を下回っているスポーツ観戦率を向上させるため、より幅広い市民に一流スポーツを「みる」機会を提供できる活動を検討します。				
	<table style="width: 100%; border: none;"> <tr> <td style="width: 50%; border: none;">次年度の活動計画(見直し内容)</td> <td style="width: 50%; border: none;">その結果目指す成果(次年度の成果目標)</td> </tr> <tr> <td style="border: none;">事業費については、現状維持としつつも、ギラヴァンツ北九州のホームゲームでの区民デーの開催など、より簡易に市民が参加できる仕組みをクラブと検討します。</td> <td style="border: none;">スポーツ観戦率30%</td> </tr> </table>	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	事業費については、現状維持としつつも、ギラヴァンツ北九州のホームゲームでの区民デーの開催など、より簡易に市民が参加できる仕組みをクラブと検討します。	スポーツ観戦率30%
次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)				
事業費については、現状維持としつつも、ギラヴァンツ北九州のホームゲームでの区民デーの開催など、より簡易に市民が参加できる仕組みをクラブと検討します。	スポーツ観戦率30%				

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	新球技場整備事業						施策番号
							Ⅲ-2-(3)-③
コスト	事業費	平成23年度執行額 37,869 千円	平成24年度当初予算額 0 千円	人件費の目安	金額 20,950 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局
					課長 0.3 人 職員 1 人	担当課	スポーツ振興課
					係長 1 人	課長名	村上

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	市民に夢と感動を与え、豊かで活力ある北九州市の創出につながるサッカーやラグビーなどのハイレベルな試合や、大規模なコンサートなどを開催できる施設として、新球技場を整備します。				成果実績	当事業の成果を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、28年度以降、新球技場が、市民に夢と感動を与え、豊かで活力ある北九州市の創出につながると考えています。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	市民が夢と感動を感じ、豊かで活力ある北九州市の創出につながる施設の実現		市民が夢と感動を感じ、豊かで活力ある北九州市の創出につながる施設の実現	—		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	「市民が夢と感動を感じ、豊かで活力ある北九州市の創出につながる施設の実現」を数値で表すことは困難であると考えています。代替の指標として、「見るスポーツ」の機会提供の拡充や「Jリーグ観戦者数の増加」を検討しています。 (最終目標と目標年度)H28年度以降、市民が夢と感動を感じ、豊かで活力ある北九州市の創出につながる施設の実現		市民が夢と感動を感じ、豊かで活力ある北九州市の創出につながる施設の実現	—					
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調			
(最終目標と目標年度)									

活動計画	H21年度から事業を開始、H22年度には基本方針を公表し、以後、市民への説明会や意見交換会を継続的に実施しています。H23年度には、大規模事業の公共事業評価(事前評価1)にて、事業の必要性や有効性を中心に定性的な面について意見をいただくこととしています。					活動実績	公共事業評価(事前評価1)を実施し、公共事業評価委員から次のステップである事業計画等の策定に進むことについて「異存はない」という意見を頂きました。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】			
	公共事業評価実施		公共事業評価の実施	—		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック			
	公共事業評価(事前評価1)の実施		公共事業評価の実施	—					
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	活動の状況については、事業が予定通りに進んでいるため、順調としました。成果の状況については、毎年度測定することが困難です。市民が夢と感動を感じ、豊かで活力ある北九州市の創出につながる施設の実現に向け、市民への説明会や意見交換会を継続的に実施することで市民の理解を図り、さらに、市民を始め、公共事業評価委員会や有識者による検討会の意見について、事業計画への反映を検討するなど、目的達成に向けて丁寧に事業を進めていることから、順調としました。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	事業計画について、「効率的・経済的な整備手法」や「コスト縮減の工夫」、「施設の有効活用」などに十分留意して策定することとしています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題			
	H23年度は順調に事業が進捗しました。今後は、公共事業評価(事前評価2)に向け、建設候補地の現況調査や事業計画の策定を実施し、H28年度の完成を目指し、事業を進めていきます。	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)	
	H28年度の完成を目指し、計画に沿って事業を進めていきます。		H28年度以降、市民が夢と感動を感じ、豊かで活力ある北九州市の創出につながる施設の実現を目指します。	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	戸畑D街区スポーツ施設整備事業						施策番号		
							Ⅲ-2-(3)-③		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	17,200 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
		21,651 千円	30,000 千円		課長	0.3 人 職員 0.5 人		担当課	スポーツ振興課
					係長	1 人		課長名	喜洲

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	戸畑まちづくり構想の一環として、主要地区である戸畑区役所周辺地区内のD街区において、戸畑区内に点在し老朽化したスポーツ施設を集約することで、施設の効率的な運営を進めるとともに、スポーツ環境の充実を目指し、区民の健康増進や地域の活性化を図っていきます。			成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、計画通り整備することで成果が達成されると考えています。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	戸畑区のスポーツ環境の充実			-		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	「戸畑区のスポーツ環境の充実」を数値で表すことは、現在は困難だと考えていますが、代替の指標として、「新旧施設の年間利用者数の変化」や「市民意識の変化」など、検討を行っています。 (最終目標と目標年度) 28年度以降、戸畑区民がスポーツ環境の充実を感じられる状態	-	-					
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調		
	(最終目標と目標年度)							

活動計画	平成25年度からの事業着手に向けて、平成22年度から地元や関係者に事業について説明会を行っています。今年度は、事業について再度地元関係者に説明を行い、整備計画の取りまとめを行う予定です。	活動実績	-
-------------	---	-------------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	地元関係団体への説明会開催数			18 団体		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	地元関係団へ事業の説明・意見交換を実施します。	17 団体	18 団体	100.0 %		
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	活動の状況については、事業がほぼ予定どおりに進んでいるため、順調としました。H23年度は、地元関係者18団体460名に対し説明を行い、一時的には反対もありましたが、丁寧に説明を重ねた結果、事業の推進に概ね理解を得られたため、順調としました。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	スポーツ施設を集約化することで、駐車場や会議室、更衣室などの共用化を進め、経済性を図るとともに、太陽光発電などの自然エネルギーを活用することで、維持管理費の節減を目指しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	H23年度は順調に事業が進捗しました。H24年度は、事業進捗に向けて、整備計画案の再度の地元等関係者への説明会を行い、概ね理解をいただきましたが、周辺住民等より、テニスなどの騒音や車両による不法駐車などの周辺環境への影響について心配する声が上がっています。現在、その影響調査と対応策の検討を進めており、今後は、その結果を踏まえ住民に丁寧に説明を行い事業への理解をいただき、H28年度部分完成、H29年度全面完成に向けて、事業を進めていきます。		
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)		
	H28年度部分完成、H29年度全面完成に向けて、計画に沿って事業を進めていきます。H24年度で基本設計等を終え、工事着手への準備を整え、H25年度は予算を拡充し、実施設計や既存建築物取り壊しなどを行っています。	H28年度及びH29年度以降、施設の効率的な運営を進めるとともに、スポーツ環境の充実及び区民の健康増進や地域の活性化を目指していく中で、H25年度は、既存建築物取り壊しや実施設計等を行い、確実に事業を推進します。		

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	自治会・町内会活性化事業						施策番号		
							Ⅲ-3-(1)-①		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	3,595 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
		4,452 千円	5,100 千円		課長	0.03 人 職員 0.3 人		担当課	地域振興課
					係長	0.1 人		課長名	櫻江

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	地域活動への理解促進を図るとともに活動への参加者を増やすことにより、住民主体の地域づくりを促進します。そのため、地域コミュニティの中心的な役割を担う自治会・町内会の加入促進や活性化などに向けた取り組みを支援します。	成果実績	成果の実績は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	地域づくり活動へ肯定的な考えの市民の割合(意識)		80.0%	75.4%		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民意識調査の「活動へ参加している人と機会があれば参加したいと考えている人」の割合を指標とします。高齢等で参加できない人を考慮し、85%を目指しますが、平成25年度までの目標を80%とします。 (最終目標と目標年度) 平成25年度 80%			94.3 %		
	地域づくり活動への参加者の割合(行動)		43.0%	40.5%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調
市民意識調査の活動への参加率を指標とします。目標は、活動には概ね1世帯から1名が参加していることと、1世帯当たりの人員が平均2.3人であることを踏まえて、全人口に対する参加者の割合43%を目指します。 (最終目標と目標年度) 平成25年度 43%			94.2 %			

活動計画	自治会・町内会が行う加入者の増加や人材育成等の取り組みを支援します。	活動実績	目標の11事業に加え、自治会加入促進活動事例集及び自治会設立マニュアルを作成・配布しました。
-------------	------------------------------------	-------------	--

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	広報・研修等の事業数		11	13		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	自治会活動の活性化及び自治会加入促進につながる広報・研修等の事業数	9		118.2 %		
					%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	市民意識調査を行い、その結果で前年度の成果を測るという成果指標を新たに設けました。調査の結果、市民の参加意識と活動への参加に乖離があり、意識と活動が結びついていない状況があるため、引き続きこの事業を進めることにより、住民主体の地域づくりの醸成を図る必要があると考えています。
	「経済性」「効率性」の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ヒアリング等による地域の実情調査など、市が実施して地域団体の声を聞くことが重要であると考えていますが、広報活動等については、民間のノウハウなどを活用していきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	市民の地域活動に対する参加意識と実際の参加には乖離がありますが、参加できない理由は世代ごとに異なります。自治会等の地域活動への参加者を増やすためには、世代に応じた取り組みが必要であり、平成24年度は、子どもたちからの意識づけを図るため、若年世代向けのパンフレットの作成に取り組んでいます。今後も、世代に応じた啓発等、対象別に取り組むことが必要です。		
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)		
	平成25年度は、現役世代の自治会活動等への参加促進に向けた事業を行うとともに、自治会が取り組む加入促進に繋がる活動を支援する新たな事業を実施する予定ですが、事業の見直しにより、事業費は現状維持で実施します。	引き続き、地域活動への参加意識と実際の参加者の両者が増加することを目指します。		

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	地域総括補助金						施策番号				
							Ⅲ-3-(1)-①				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	3,825 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		361,064 千円	385,964 千円		課長	0.05 人		職員	0.3 人	担当課	地域振興課
					係長	0.1 人				課長名	櫻江

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	平成16年度から市の各部署が事業ごとに地域団体に交付していた補助金を可能な限り一本化し、「地域総括補助金」をまちづくり協議会に交付しています。この補助金の活用により、地域団体の連携・協力を図り、地域が一体となった住民主体の地域づくり・まちづくりを促進します。				成果実績	下記の代表的な指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	地域総括補助金を導入したまちづくり協議会数	116 団体	122 団体	120 団体	→	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック			
	まちづくり協議会に対して、地域総括補助金の制度導入と継続的な制度活用の働きかけを行ないます。 (最終目標と目標年度) 平成25年度 136団体			98.4 %					
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調			

活動計画	本事業は、補助事業であり区コミュニティ支援課が窓口となり、まちづくり協議会に補助金を交付しています。平成23年度の地域総括補助金を導入しているまちづくり協議会は、120団体で前年度より4団体の増加となっています。今後も区コミュニティ支援課と連携して、導入団体の増加を図っていきたく考えています。						活動実績	活動結果は下記のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】				
	未導入まちづくり協議会への働きかけ	6 団体	6 団体	6 団体	→	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック				
	総括補助金の未導入まちづくり協議会に対して、区役所コミュニティ支援課が継続的に制度の説明等、働きかけを行ないます。			100.0 %						
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調				

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	地域総括補助金未導入のまちづくり協議会に対し、区役所コミュニティ支援課が導入の働きかけを行っており、導入数は増加しています。しかし、体制が整わない等の理由で導入を見送るまちづくり協議会もあり、引き続き、事業の趣旨や事務等の説明を行います。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	制度の導入により、これまで各部署が行ってきた補助金交付に関する事務について、区役所コミュニティ支援課に集約され、効率化が図られています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 地域総括補助金を導入したまちづくり協議会は、平成23年度は目標数値には達しませんでした。市内のまちづくり協議会の約90%が導入しています。しかし、制度の趣旨の理解が進んでいないことや、体制が整わない等の理由で、導入しないまちづくり協議会があります。今後、導入団体を拡大するためには、引き続きまちづくり協議会に対する、制度の周知等の働きかけが必要です。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容) 導入団体の拡大のため、引き続き区役所コミュニティ支援課による、制度の周知や事務手順のマニュアルの配布等を行います。また、防犯灯のLED化の促進や地域総括補助金導入団体の拡大にあわせて、事業費の拡充を行います。	全団体の地域総括補助金導入を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	コミュニティ活動促進事業						施策番号				
							Ⅲ-3-(1)-①				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	905 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		1,257 千円	4,003 千円		課長	0.02 人		職員	0.05 人	担当課	地域振興課
					係長	0.03 人				課長名	櫻江

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	自治会やNPO等が開催する研修会や講演会にまちづくりの専門家を派遣するとともに、まちづくり協議会が取り組む活動の計画策定づくりの支援や活動についての情報提供の場づくり等により、住民主体の地域づくりを促進します。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	--------------------	---	-------------	--------------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】	
	まちづくり専門家派遣回数	まちづくり専門家派遣回数	5 回	19 回	8 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
地域団体やNPO等が求めるニーズに対応できるような人材(専門家)の発掘など制度の充実を図ることにより、まちづくり専門家派遣回数の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)平成25年度 30回		42.1 %					
「地域のちから」報告会参加団体数		123 団体	136 団体	121 団体	89.0 %		やや遅れ
まちづくり協議会の活動の参考になる事例の紹介等、報告会の内容の充実を図ることにより、参加団体の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)							

活動計画	まちづくり専門家派遣については、まちづくりの専門家の登録を行い、利用者が専門家を選択し、地域のニーズにあった講師を派遣する体制を構築するとともに、地域団体やNPO等に事業を活用してもらうために、案内チラシを配布するなど周知、広報活動を実施します。また、情報提供の場として、全てのまちづくり協議会が参加する「地域のちから」報告会を開催します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】	
	まちづくり専門家派遣事業の市民への広報活動件数	まちづくり専門家派遣事業の市民への広報活動件数	272 団体	750 団体	732 団体	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
地域団体やNPO等に事業を活用してもらうために、案内チラシを配布するなど周知、広報活動を実施します。		97.6 %					
まちづくり協議会への「地域のちから」報告会参加の働きかけ		135	136	136 団体	100.0 %		順調
「地域のちから」報告会について、まちづくり協議会へ区役所コミュニティ支援課と連携し継続的に参加の働きかけを行ないます。							

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 「経済性」 「効率性」 の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。
		平成23年度は、新たに、まちづくりの専門家の登録を行い、制度の周知のためのチラシを作成しました。また、広報の対象団体についても拡大を図りました。まちづくりの専門家の発掘などに時間を割いたため、広報する期間が短かったため、目標は達成できませんでしたが、周知を拡大した結果、派遣回数は増加しています。また、活動についての情報交換等を行う「地域のちから」を開催しました。参加したまちづくり協議会では、他の地域の取り組みを参考に、新たな活動に取り組むという気運が高まっています。 市民活動サポートセンターの協力を得て、この事業の趣旨に合致したまちづくりの専門家を登録し、利用者が専門家を選択し、地域のニーズにあった講師を派遣する体制を構築しました。利用者の満足度が高く、事業効果も高いと考えています。講師への謝礼金(旅費こみ)は3万円、派遣回数も同一団体に年3回までとするなど経済性、効率性にも配慮しながら実施していきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 平成23年度はまちづくり専門家の発掘等に時間を割いたため、PRの期間が短く派遣回数は目標に達しませんでした。平成24年度はPRチラシの配布先を拡大することで、派遣回数は昨年度を上回っています。今後、派遣回数を増やすためには、様々なニーズに対応できるようまちづくり専門家の充実を図るとともに、引き続きPRを行っていく必要があります。 次年度の活動計画(見直し内容) 平成25年度は、まちづくり専門家派遣の充実を図るとともに、様々な機会を通してPRを行います。また、「地域の力」報告会は内容を見直し、広く市民に地域コミュニティの重要性の理解促進を図るフォーラムとして開催しますが、事務の見直しなどの努力を行ない、予算は縮小します。
	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 専門家派遣回数30回を目標とします。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	地域カルテづくり事業						施策番号				
							Ⅲ-3-(1)-①				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	3,575 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		3,992 千円	7,000 千円		課長	0.05 人		職員	0.2 人	担当課	地域振興課
					係長	0.15 人				課長名	櫻江

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 住民が参加するワークショップの開催により、地域情報や課題解決のアイデア等を盛り込んだ地域カルテを作成する。地域カルテづくりを通じて、住民による地域の課題や地域資源の共有化、課題解決のための処方箋づくりやそれに基づく具体的な取り組みのきっかけづくりを行います。			成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【成果の状況】	
	まちづくり協議会が主体となって新たな課題解決に向けた活動に取り組むこと		まちづくり協議会が主体となって新たな課題解決に向けた活動に取り組むこと	%		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	この事業をきっかけに、まちづくり協議会が主体となって新たな課題解決に向けた活動に取り組むことを成果としています。 地域ごとに課題の件数が異なっていることや取り組みの開始時期が翌年度になることから、当該年度の活動件数を指標とすることはなじまないと考えます。 (最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調	
	(最終目標と目標年度)						

活動計画	まちづくり協議会に事業の趣旨等を説明し、事業実施の働きかけを行います。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	-------------------------------------	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績(達成率)	→	【活動の状況】
	事業実施についてのまちづくり協議会への働きかけ		7 団体	7 団体 100.0 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	地域カルテづくり事業について、まちづくり協議会に対し区役所コミュニティ支援課と連携し継続的に事業実施の働きかけを行います。			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成23年度は市内で7ヶ所でモデル事業として実施しました。ワークショップ等を開催し、地域課題の解決のための活動プランを企画書としてまとめ、それらを盛り込んだ地域カルテを作成しました。この事業を通して、新たな地域活動への取組みに向けての気運が高まっています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	ワークショップ等の実施については、民間のコーディネーターに委託しており、民間の地域づくりのノウハウの導入や経済性・効率性の向上に配慮しています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	平成23年度はモデル事業で各区1つずつまちづくり協議会が地域カルテづくり事業に取り組みました。この事業をきっかけとして、新たな活動への取り組みに向けての気運が高まっています。平成24年度は事業に取り組むまちづくり協議会の拡大を図っていますが、まちづくり協議会の実施体制が整わないことや、新しい事業に取り組む負担等の理由で実施に至っていないケースもあります。今後、実施団体を拡大するためには、事業の趣旨の周知等の働きかけが必要です。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	地域カルテ事業に取り組むまちづくり協議会の拡大に向けては、既に自ら様々な課題解決の活動に取り組んでいる団体もあるため、対象地域の選定について見直し等を行いながら進めることとし、それに伴って予算は縮小します。	引き続きまちづくり協議会が主体となって新たな課題解決に向けた活動に取り組むことを目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	市民センター管理運営事業					施策番号	
						Ⅲ-3-(1)-②	
コスト	事業費	平成23年度執行額 1,679,209 千円	平成24年度当初予算額 1,721,061 千円	人件費 の目安	金額 24,950 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局
					課長 0.3 人 職員 1.8 人	担当課	市民センター室
					係長 0.8 人	課長名	櫻江

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか 市民センター館長に公募などによる多様な人材を配置するとともに、地域の活動を担うまちづくり協議会への管理委託などを行い、市民センターの円滑な運営を図っていきます。今後、館長やまちづくり協議会職員のコーディネート能力などの向上を図る研修や更なる情報発信に努め、市民センターを活用した地域づくりを推進します。	成果実績	下記の代表的な成果指標のとおりです。
-----------	---	-------------	--------------------

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
代表的な成果指標	市民センター1館あたりの利用者数	40 千人	40 千人	40 千人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市民センター1館あたりの年間利用者数。1館あたりの利用者数は、コミュニティ施設としての市民センターの利用度を計る指標となるため、成果指標として掲げました。最終目標は、基準である平成21年度から2千人増の41千人と設定しました。 (最終目標と目標年度)平成25年度41千人			100.0 %		
	市民センターにおけるコミュニティ活動の参加人数(延べ) 市民センター全館におけるコミュニティ活動参加者の合計人数。市民センターにおける様々な活動のうち、コミュニティ活動の参加人数は地域活動の状況を把握する目安となるため、指標として設定しました。 (最終目標と目標年度)平成25年度1,774千人	1,762 千人	1,770 千人	1,699 千人		96.0 %

活動計画	平成23年度は市民センター利用者数増加に向けて、館長及び職員の能力向上を図る研修を行うとともに、更なる情報発信に努めます。	活動実績	活動結果は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	----------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
活動指標	館長及び職員の能力向上を目的とした研修の実施回数	60 回	70 回	70 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市民センターなどを活用したコミュニティ活動の活性化に向けては、地域の特性を活かした活動の推進や地域で取り組まれている分野の活動を充実させるコーディネート役となる人材が必要です。これまで各区で実施してきた研修を体系的に整理し、専門分野ごとにバランスよく実施することにより、館長や職員のコーディネート能力の充実を図ります。			100.0 %		
	ホームページを毎月1回以上更新している市民センターの館数 新たな利用者を増やすためには、センターの事業や活動などをタイムリーに発信する体制を充実させる必要があります。そのために、様々な情報を機動的に発信できるホームページによる広報活動を充実します。	85 館	129 館	128 館		99.2 %

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	ホームページの操作研修等を行い、館長や職員の能力の向上を図りました。その結果、情報発信機能も拡充し、128館で毎月1回のホームページの更新を行うことができました。コミュニティ活動の参加人数は、わずかに減っていますが、1館あたりの利用者数は、昨年同様の利用者数です。
	「経済性」 「効率性」 の分析 「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	現在、市民センターは、嘱託職員の館長とまちづくり協議会が雇用した地元の実情を熟知した職員により運営しています。これまでも、清掃業務など維持管理業務の一括発注などコスト削減に取り組み、経済性・効率性の高い運営を行っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 これまでの取り組みにより、市民センターの利用者数は順調に増加していますが、今後は、センターを利用した地域ごとの課題解決に向けた取り組みに、より多くの人に参加してもらう必要があります。そのため、市民センターの事業や地域の活動についてタイムリーな情報発信に努めます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 1館あたり41,000人の利用者数を目指します。
	次年度の活動計画(見直し内容) 予算の規模は、現状維持としますが、効率的な事務の執行に努めながら、広報活動などの充実を図り、市民センターを活用した地域づくりを促進します。	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	市民センター整備事業						施策番号	Ⅲ-3-(1)-②		
							コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額
		439,185 千円	396,651 千円		課長	0.7 人	職員	1.5 人	担当課	市民センター室
					係長	0.7 人			課長名	菅野

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	建築後30年以上が経過し老朽化が進んだ市民センターについて、耐震化や外壁の改修、玄関の自動ドア化、エレベーターの設置、洋式トイレの改修、空調機器の更新等の大規模改修を行い、地域の自主的活動推進を図ります。 また、地元の協力が得られたところから市民センターを補完する機能を持つ市民サブセンターの設置を行い、地域コミュニティ力をより強化した地域活動を促進します。	成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、計画的に整備が進むことで満足度が向上していると判断しています。
-----------	---------------------	--	-------------	--

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
代表的な成果指標	市民(サブ)センターを利用する市民が満足感を得られる状態			—		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	老朽化が進んだ市民センターにおいては、大規模改修工事により安全性や利便性などが向上するとともに、地域の新たな市民活動拠点として市民サブセンターの整備を行うことで、市民(サブ)センターを利用する市民が満足感を得られる状態を目指します。 (最終目標と目標年度) 市民(サブ)センターを利用する市民が満足感を得られる状態			%		
	(最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	老朽化が進んだ市民センターについて、施設機能の向上や耐震化を図るため、玄関ドアの自動化、エレベーターの設置などのバリアフリー化を始めとした大規模改修を計画的に行っています。 また、市民サブセンターの設置については、地元の合意が得られたところから順次整備をします。 本年度は、市民センター大規模改修工事4館、設計2館、市民サブセンター改修工事1館、建設工事1館、設計1館の実施を予定しており、年度末までに全ての竣工を目指します。	活動実績	市民センター大規模改修工事 4館 市民センター大規模改修設計 2館 市民サブセンター建設工事 1館 市民サブセンター改修設計 1館
-------------	---	-------------	--

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
活動指標	市民センター整備の進捗状況			90 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	本年度中の竣工に向け、事業の進捗状況を指標として設定しました。		100 %	90.0 %		
				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	成果の状況については、大規模改修工事後は安全性や利便性などが向上し、市民にとって利用しやすい施設となったため順調としました。 活動の状況については、事業がほぼ予定どおりに進んだため順調としました。 市民センターの大規模改修工事の設計に当たっては、地元との協議を重ね計画どおりに進められ、工事については、安全対策に配慮した施工ができました。また、市民サブセンターの改修設計も、地元との協議を重ね計画どおりに進められ、建設工事についても安全対策に配慮した施工ができました。 一方、市民サブセンター改修工事については、契約辞退等による工事延伸のため翌年度に繰越となりました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	公共工事として入札により発注し、効率的な工事を行っているため、コスト削減の余地は少ないです。老朽化した市民センターの施設機能向上や耐震化を図るための大規模改修を進めており、改修後は利用者にとって安全性や利便性が向上し、施策実現に対する効率性は高いと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 現在、129館の市民センターについて、老朽化が進んだ館から計画的に大規模改修工事を行っていますが、空調機器などの設備機器も更新時期を迎えるため、計画的な改修が必要です。 また、市民サブセンター整備においては、公民館類似施設など既存施設の利活用を基本としており、地元関係者間で合意形成を図ることが必要です。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	市民センター整備については、建物の築年数や設備の更新時期等を勘案して、施設の耐震化や老朽化対策、機能向上などの改修を今後も計画的に行います。事業費については、老朽化した施設の維持管理が必要のため拡充します。また、市民サブセンターの整備は、地元の総意がまとまったところから、順次進めていきます。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	大里柳市民センター整備事業						施策番号			
							Ⅲ-3-(1)-②			
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	2,900 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		74,923 千円	0 千円		課長	0.1 人	職員	0.1 人	担当課	市民センター室
					係長	0.1 人			課長名	菅野

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	大里柳市民センターは、1階が図書館、2～4階が大里柳市民センターの合築施設です。建築後37年が経過し、老朽化が進んでおり、またエレベーターが未設置など利用しづらい施設となっています。こうした状況を解消するために新たに移転建替えを行います。また、建替え後は、旧施設の解体工事を行います。	成果実績	当事業の成果の検証を、毎年度、数値で検証することは困難ですが、計画的に整備が進むことで、満足度が向上していると判断しています。
-----------	---------------------	--	-------------	---

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
代表的な成果指標	大里柳市民センターを利用する市民が満足感を得られる状態		大里柳市民センターを利用する市民が満足感を得られる状態	—		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	老朽化が進んだ大里柳市民センターにおいて、移転建替え工事を行うことで、安全性や利便性が向上し、大里柳市民センターを利用する市民が満足感を得られる状態を目指す。 (最終目標と目標年度)大里柳市民センターを利用する市民が満足感を得られる状態			%		
				%	大変順調	大変順調
	(最終目標と目標年度)			%	順調 やや遅れ 遅れ	

活動計画	平成22年8月より施設の移転建替え工事に着工し、本年5月末の竣工予定です。また、建替え後は、本年度末までに旧施設の解体工事を行う予定にしています。	活動実績	大里柳市民センターの建替え工事 旧大里柳市民センターの解体工事
-------------	---	-------------	------------------------------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
活動指標	大里柳市民センター整備状況		100 %	100 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	本年度中の竣工に向け、事業の進捗状況を指標として設定しました。			100.0 %		
				%	大変順調	大変順調
				%	順調 やや遅れ 遅れ	

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	成果の状況について、移転建替え工事は安全対策に配慮した施工ができ、整備後は安全性や利便性が向上し、市民にとって利用しやすい施設となったため、大変順調としました。 活動の状況については、事業が予定どおりに進んだため大変順調としました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	公共工事は入札により発注し、効率的な工事を行っているためコスト削減の余地は少ないです。旧建物は老朽化が進み、またエレベーターが未設置など利用しづらい施設であった大里柳市民センターの問題点を解消するため、施設機能やバリアフリーに配慮した新施設を建設することで、移転建替え後は利用者にとって安全性や利便性が向上し、施策実現に対する効率性は高いと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	事業が順調に進捗したことにより、平成23年度で事業は終了しました。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成23年度で事業終了。	—

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	つどいの家設置等補助事業					施策番号	Ⅲ-3-(1)-②			
						コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安
		2,804 千円	5,400 千円		課長	0.03 人	職員	0.1 人	担当課	地域振興課
					係長	0.05 人		課長名	櫻江	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか	住民が身近に話し合える場所を確保するため、自治会等のつどいの家の設置、改修を支援し、住民主体のまちづくりを促進します。	成果実績	補助金を活用し、つどいの家の改修等を行うことで、住民が身近に話し合い、相互に交流を深める集会所としての機能確保ができています。
-----------	---------------------	---	-------------	---

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
代表的な成果指標	住民の集会所としての機能の確保		住民の集会所としての機能の確保	%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	住民が安全に活用できる集会所としての機能が確保されることを指標とします。つどいの家は自治会等が管理運営しており、設置や改修の件数は自治会等の資金力や運営状況に左右されることから指標を数値化することは困難です。 (最終目標と目標年度)			%		
	(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	つどいの家の設置・改修に対する補助を実施します。	活動実績	活動結果は下記のとおりです
-------------	--------------------------	-------------	---------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
活動指標	つどいの家設置・改修に対する補助		件	3 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	自治会等のつどいの家の設置や改修計画にあわせて補助金を交付します。	6 件		%		
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	H23年度は設置1件、改修2件の実績ですが、H22年度には6件の改修補助の実績があるように、補助金の交付件数は、自治会等の設置・改修計画等に左右されるため、年度によって増減があります。しかし補助金を交付することで、住民が身近に話し合い、相互に交流を深める集会所としての機能確保の支援は順調にいと判断しています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	住民の身近なコミュニティ施設整備の補助を行うことは、地域活動促進のために有効であり、本事業は今後も現状どおり継続して実施していきます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 平成23年度の実績は設置1件、改修2件でした。平成24年度も3件の補助があり、順調に進んでいると考えています。つどいの家の設置等補助金は予算の範囲内で補助していますが、設置・改修は自治会等の設置・改修計画や資金力、運営状況等に左右されるため、補助金申請の希望が集中する場合があります。したがって、区役所を通じて、早期に自治会等の設置・改修の情報を得ることにより、計画的な執行を図る必要があります。	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 平成25年度も引き続き住民が安全に活用できる集会所としての機能の確保を目指します。
	次年度の活動計画(見直し内容) 事業費は現状を維持し、区役所と連携を図りながら、計画的な執行に努めます。	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	NPO・ボランティア活動促進事業					施策番号	
						Ⅲ-3-(2)-①	
コスト	事業費	平成23年度執行額 14,521 千円	平成24年度当初予算額 15,885 千円	人件費 の目安	金額 7,300 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局
				課長 0.2 人 職員 0.4 人		担当課	地域振興課
				係長 0.2 人		課長名	神野

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 地域の課題に自ら対応し、市民が自発的、主体的に公共活動に参画する市民社会の形成に向けて、まちづくりの重要な担い手であるNPOやボランティア団体などの活動を促進します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	NPO法人数(累計)	263 法人	290 法人	293 法人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	それぞれの目的の達成に向けて市民活動団体を主体的に発足させた市民活動団体(NPO法人)数の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)25年度330法人			101.0 %		
	市民活動サポートセンター利用者数(単年度)	19,318 人	20,000 人	20,428 人		102.1 %
これから市民活動に携わりたい市民への情報提供や相談受付を行うとともに、市民活動に取り組む団体の情報交換や交流を支援する市民活動サポートセンターの利用者数の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)25年度21,000人						

活動計画	市民活動サポートセンターを中心に、講座などを委託する以外は市の直接実施で、ニーズに即した各種支援策を実施します。NPO・ボランティア団体に関する総合的な相談受付、NPO法人認証に関する県の出張相談受付、NPO・ボランティア活動情報の提供、NPO活動発表会及び団体間の交流促進事業開催、専門講座・講演会等の研修・啓発を実施します。	活動実績	活動の状況は下記のとおりです。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	講座実施数	2 講座	3 講座	3 講座	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	これから市民活動に携わりたい市民への啓発や、市民活動に取り組む団体の組織や活動を強化するための講座を開催します。			100.0 %		
	広報誌などの発行	12 回	12 回	12 回		100.0 %
市民活動に取り組む団体等に、他団体の活動やイベント、助成金など、活動に役立つ情報を提供するため、広報誌やニュースレターを発行します。						

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 市民活動サポートセンターは、行政施設の一部を活用して行政機関の窓口の一部として直営で運営しており、職員についても嘱託職員で対応していることから、経済効率は高いものと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 成果指標と計画どおり推移しています。 次年度、市民活動サポートセンターがコムシティの市民みらい創造プラザに移転する予定です。現在、市民活動サポートセンターの利用団体は市東部に拠点がある団体が多く、引き続きの利用継続と、市西部を中心に新たな利用団体の掘り起こしが、課題となります。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	支援拠点としての市民活動サポートセンターの利用促進に努めることで、地域課題の重要な担い手である市民活動団体の活動の促進を図り、NPO法人数(累計)330法人、市民活動サポートセンター利用者数(単年度)21,000人の達成を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	NPO公益活動支援事業						施策番号
							Ⅲ-3-(2)-①
コスト	事業費	平成23年度執行額 4,891 千円	平成24年度当初予算額 5,500 千円	人件費 の目安	金額 4,650 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局
					課長 0.1 人 職員 0.2 人	担当課	地域振興課
					係長 0.2 人	課長名	神野

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	NPO法人又は市民活動団体が専門性等を十分に発揮して行う意欲的かつ先進的な公益活動(地域の課題解決につながる活動や公共の福祉の向上に資する活動など)に対して助成を行うとともに、これらの活動事例を幅広く情報提供することなどを通して本市におけるNPO活動の更なる発展を図ります。	成果実績	補助の対象となった事業は、いずれも地域課題の解決や地域の活性化に寄与するものであり、公益性が高く団体の専門性や特性が活かされた事業でした。
-----------	--------------------	---	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		補助交付事業件数	件	件	36 件(累積)	
	市内全域を対象とするまちづくり活動、地域課題の解決に繋がる活動、市のイメージアップに寄与する活動に対する補助交付事業の累積件数を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度) 25年度に補助事業累積件数が42件	25 (累積)	30 (累積)	120.0 %		
	成果発表会の参加人数			80 人(累積)		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	活動事例を幅広く情報提供することなどを通して本市におけるNPO活動の更なる発展を図るため、成果発表会への参加人数を指標とします。 (最終目標と目標年度)25年度に参加者累積人数が180人	26 人	80 (累積)	100.0 %		

活動計画	市内全域を対象とするまちづくり活動やイメージアップに寄与する活動等に対する補助事業を、地域に密着した市民活動を促進するまちづくりステップアップ事業と連携しながら、地域密着と市内全域と重層的な支援で市民活動の活性化を促進します。	活動実績	成果の状況は下記のとおりです。
-------------	---	-------------	-----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		市民活動団体に対する補助事業の広報		補助事業の積極的な活用を呼びかける広報活動	%	
	市内全域を対象とするまちづくり活動等に対する補助事業と、地域に密着した市民活動を促進するまちづくりステップアップ事業と連携しながら、その活用を広く市民へお知らせします。	-		%		
				%		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	当該事業は、NPOによる地域課題の解決に向けた専門的で先駆的な実践を伴うものであり、実際に市民福祉の向上に大きな成果をあげるとともに、事業の審査や成果の公開・広報を通して、市民活動の活性化に大きく寄与しています。平成23年度は、11団体11事業に対して補助金を交付しました。補助の対象となった事業は、いずれも公益性が高く、NPOの専門性や先駆性が活かされた事業でした。また、「NPO協働提案モデル事業」では、NPOと市が実際に協働して事業を展開し、課題の解決に取組みました。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	地域の事情に精通した団体や高い専門性を有する団体が地域課題の解決に取り組んでいるため、効果的かつ効率的な運営となっています。NPOと行政が協働して取り組む「NPO協働提案モデル事業」では、行政が挙げている課題に対して、NPOの専門的・先駆的な発想を導入することで、行政が直接実施することに比べ、より効率的で効果的な成果を得ることができました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	補助事業件数は、計画を上回るペースで実績を挙げていますが、市民活動団体等が専門性を十分に発揮して取り組む地域課題の解決に向けては、事業実施と成果の両立が求められています。
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	市民活動団体等が専門性を十分に発揮して取り組む地域課題の解決に向けて、補助事業実施の際、アドバイス等の事業運営支援に取り組むことで、補助事業費の削減と事業成果の達成の両立を図ります。	市民活動団体等が専門性を十分に発揮して取り組む地域課題の解決に向けて、事業実施上の支援にも取り組みながら、補助事業累積件数42件、成果発表累積人数180人の達成を図ります。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	コミュニティビジネス推進事業						施策番号
							Ⅲ-3-(2)-①
コスト	事業費	平成23年度執行額 516 千円	平成24年度当初予算額 820 千円	人件費 の目安	金額 1,750 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局
				課長 0 人 職員 0.1 人		担当課	地域振興課
				係長 0.1 人		課長名	神野

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとする「コミュニティビジネス」の振興を図ります。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです			
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	セミナー参加者	46 人	25 人	27 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	成果指標として、コミュニティビジネスの啓発・普及を推進するため実施するセミナーの参加者数を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度) 30人(25年度)			108.0 %		
				%		順調
(最終目標と目標年度)						

活動計画	地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとする「コミュニティビジネス」の振興を図るため、基本研修や受講生アンケート等を参考にテーマ別研修等を開催します。	活動実績	成果の状況は下記のとおりです			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	セミナー開催数	5 回	3 回	3 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	活動指標として、コミュニティビジネスの理念の普及を推進するため実施するセミナーの開催数を評価の指標とします。			100.0 %		
				%		順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 セミナー内容は、アンケートや参加者の声などを基に決定しています。前年度は、基礎研修(3回)、事例発表会(2回)を開催しました。当該年度は、要望のあったテーマ別研修(3回)を実施しました。 なお、参加者は、NPOの他、個人での参加もあり、アンケートには今後の活動について前向きな意見も多く寄せられており、コミュニティビジネスの裾野を広げ、促進することに効果があったと考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 アンケートによれば、受講生が大変満足していることが伺え、また7団体が活動の活性化に参考になると回答しており、効用度は高いと考えます。 ビジネスの手法を活用しながら地域課題の解決や地域活性化を図ると高い公益性を有しているもの、多くの参加団体は非営利活動団体なので、引き続き市の関与は必要と考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとするコミュニティビジネスのセミナー参加者数は順調に推移していますが、起業そのものを希望される市民には、産業経済局とのスムーズな連携が求められます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	コミュニティビジネスの振興のため、同概念のソーシャルビジネス(産業経済局)と連携しながら、セミナー参加者30人の達成を図ります。
	引き続きニーズに基づいたテーマ研修を開催します。また、産業経済局と連携することで相乗効果が得られる活動体系を構築することで、事業費の削減と成果の両立を図ります。	

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	まちづくりステップアップ事業						施策番号
							Ⅲ-3-(2)-①
コスト	事業費	平成23年度執行額 6,529 千円	平成24年度当初予算額 7,517 千円	人件費 の目安	金額 1,220 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局
					課長 0.03 人 職員 0.05 人	担当課	地域振興課
					係長 0.05 人	課長名	神野

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	市民が、地域の特性を活かして取り組む公益的な活動(地域住民の交流の促進に関する活動や子どもの健全育成・子育ての支援に関する事業など)に対して助成を行い、団体相互の連携や企画、行政等との協働による新たなまちづくりの活動を支援することにより、本市における市民主体のまちづくりを推進します。	成果実績	補助の対象となった事業は、いずれも地域課題の解決や地域の活性化に寄与するものであり、公益性が高く団体の専門性や特性が活かされた事業でした。
-----------	--------------------	--	-------------	---

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		市民活動団体に対する補助交付件数	件	件	116 件(累積)	
	地域に密着した市民活動団体の活動を促進するため、こまめな支援を図る必要があります。市民活動団体に対する累積補助交付件数を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度) 25年度に補助事業累積件数が183件	81 (累積)	115 (累積)	100.9 %		
	(最終目標と目標年度)			%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	市民が主体的に行う地域の課題解決や活性化活動を支援するため、区毎に活動申請を審査し、適切な支援を行います。また、市内全域を対象とするNPO公益活動支援事業とも連携しながら、地域密着と市内全域と重層的な支援で市民活動の活性化を促進します。	活動実績	成果の状況は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	-----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		市民活動団体に対する補助事業実施回数	7 回	7 回	7 回	
	地域に密着した市民活動団体の活動を促進するため、こまめな支援を図る必要があります。市内の7区全区で着実に補助事業を募集し、全ての地域で市民活動が活性化されるように努めます。			100.0 %		
				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	当該事業は、地域住民相互の交流の促進や地域の活性化など実践を伴うものであり、実際に安全なまちづくり、自然保護、地域イベントなどに大きな成果をあげるとともに、事業の審査や成果の公開・広報を通して、市民活動の活性化に大きく寄与しています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	地域の事情に精通した地域団体や高い専門性を有する市民活動同団体が直接的に地域課題の解決に取り組んでいるため効果的かつ効率的な運営となっています。また、外部委員を含む審査会において、申請事業の妥当性や効率性を審査するとともに、必要に応じて指導や助言を行うことにより、効率的な運営に努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 市民活動団体に対する補助交付件数は、計画どおり進捗し、地域の活性化のため順調な成果を挙げていますが、地域に密着した地域活動を支援するという事業趣旨から、全ての地域活動を網羅できていない部分があります。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	次年度の活動計画(見直し内容)	地域に密着した地域活動の活性化のため、本事業を着実に進めることで、補助事業累積件数183件の達成を図ります。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	NPO・ボランティア活動促進事業						施策番号	
							Ⅲ-3-(2)-②	
コスト	事業費	平成23年度執行額 14,521 千円	平成24年度当初予算額 15,885 千円	人件費 の目安	金額 7,300 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局	
					課長 0.2 人 職員 0.4 人	担当課	地域振興課	
					係長 0.2 人	課長名	神野	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたいのか 地域の課題に自ら対応し、市民が自発的、主体的に公共活動に参画する市民社会の形成に向けて、まちづくりの重要な担い手であるNPOやボランティア団体などの協働を促進します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。					
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】		
	NPO法人数(累計)	263 法人	290 法人	293 法人	101.0 %	大変順調	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック	
	それぞれの目的の達成に向けて市民活動団体を主体的に発足させた市民活動団体(NPO法人)数の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)25年度330法人							
	NPO法人との関連事業(委託・助成等)数	133 件	130 件	未(H24.8調査実施予定)	%	やや遅れ	遅れ	順調
市民との協働を進めるために、実際にNPO法人等と関連して行なった事業数(委託・助成等)を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度)25年度160件								

活動計画	市民活動サポートセンターを中心に、NPO・ボランティア団体に関する総合的な相談受付、NPO法人認証に関する県の出張相談受付、NPO・ボランティア活動情報の提供、NPO活動発表会及び団体間の交流促進事業等を実施します。	活動実績	活動の状況は下記のとおりです。					
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】		
	広報誌などの発行	12 回	12 回	12 回	100.0 %	大変順調	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック	
	市民活動に取り組む団体等へ、他団体の活動やイベント、助成金など、協働に役立つ情報を提供するため、広報誌やニュースレターを発行します。							
					%	やや遅れ	遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析 「経済性」 「効率性」 の分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 市民活動の活性化支援に併せて、多様な主体による協働が促進されるよう積極的な広報や情報提供を実施しています。活動は有効であると判断します。 なお、NPO法人との関連事業数は、少なくとも例年並みの実績をあげることが見込まれています。 市民活動サポートセンターは、行政施設の一部を活用して行政機関の窓口の一部として直営で運営しており、職員についても嘱託職員で対応していることから、経済効率は高いものと考えます。
------------------	--	---

以下、予算要求時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算要求時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 NPO法人との関連事業(委託・助成等)数は、順調に増加(H23年度148件)しており、市民活動団体と行政との協働事業が普及しつつあります。一方、協働について関係者それぞれがさまざまな捉え方をしていることが課題としてあげられます。 次年度の活動計画(見直し内容) 協働による住みよいまちづくりの推進のため、市民活動サポートセンターの機能拡充等、事業費を拡充して取り組みます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標) NPO法人との関連事業(委託・助成等)数は、160件の達成を目指します。
---------------	--	---

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	NPO・ボランティア活動促進事業						施策番号	
							Ⅲ-3-(3)-①	
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	7,300 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局
		14,521 千円	15,885 千円		課長	0.2 人 職員 0.4 人	担当課	地域振興課
					係長	0.2 人	課長名	神野

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	地域の課題に自ら対応し、市民が自発的、主体的に公共活動に参画する市民社会の形成に向けて、まちづくりの重要な担い手であるNPOやボランティア団体などとの協働を促進します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。
-----------	--------------------	--	-------------	-----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		NPO法人数(累計)			293 法人	
	それぞれの目的の達成に向けて市民活動団体を主体的に発足させた市民活動団体(NPO法人)数の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)25年度330法人	263 法人	290 法人	101.0 %		
	NPO法人との関連事業(委託・助成等)数			未(H24.8調査実施予定) 件		順調 やや遅れ 遅れ
	市民との協働を進めるために、実際にNPO法人等と関連して行なった事業数(委託・助成等)を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度)25年度160件	133 件	130 件	%		

活動計画	市民活動サポートセンターを中心に、NPO・ボランティア団体に関する総合的な相談受付、NPO法人認証に関する県の出張相談受付、NPO・ボランティア活動情報の提供、NPO活動発表会及び団体間の交流促進事業等を実施します。	活動実績	活動の状況は下記のとおりです。
-------------	--	-------------	-----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		広報誌などの発行			12 回	
	市民活動に取り組む団体等へ、他団体の活動やイベント、助成金など、協働に役立つ情報を提供するため、広報誌やニュースレターを発行します。	12 回	12 回	100.0 %		
				%		順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	市民活動の活性化支援に併せて、多様な主体による協働が促進されるよう積極的な広報や情報提供を実施しています。活動は有効であると判断します。 なお、NPO法人との関連事業数は、少なくとも例年並みの実績をあげることが見込まれています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市民活動サポートセンターは、行政施設の一部を活用して行政機関の窓口の一部として直営で運営しており、職員についても嘱託職員で対応していることから、経済効率が高いものと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	
	NPO法人との関連事業(委託・助成等)数は、順調に増加(H23年度148件)しており、市民活動団体と行政との協働事業が普及しつつあります。一方、協働について関係者それぞれがさまざまな捉え方をしていることが課題としてあげられます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	協働による住みよいまちづくりの推進のため、市民活動サポートセンターの機能拡充等、事業費を拡充して取り組みます。	NPO法人との関連事業(委託・助成等)数は、160件の達成を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	出前講演事業						施策番号		
							Ⅲ-3-(3)-②		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	5,450 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
		318 千円	493 千円		課長	0.1 人 職員 0.44 人		担当課	広聴課
			係長		0.1 人	課長名		小坪	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	出前講演は、市民からの要望に応じて市の幹部職員が直接地域に出向き講演を行うもので、市民に市が重点的に取り組む施策や事業を理解してもらうとともに、直接市民の生の声を聞くことで市民との協働を推進します。	成果実績	成果の状況は下記の通りです。
-----------	--------------------	---	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	出前講演件数(単年度)	394 件	450 件	543 件 120.7 %	→	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	出前講演の実施件数が増えると、市民が市の施策や事業に対する理解を深める機会が増えるため、指標として設定しました。 (最終目標と目標年度)平成25年度までに500件を目標とします。			%		
	(最終目標と目標年度)					

活動計画	より多くの市民に出前講演を利用してもらうため、出前講演テーマ集を作成し、多くの市民が入り出る市民センター、区役所などのほか、商工会議所など複数の団体と関わりのある団体へ配布します。また、より市民が利用しやすいように講演テーマの充実を図ります。	活動実績	活動の状況は下記の通りです。
-------------	---	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	出前講演のテーマ数	175 テーマ	180 テーマ	187 テーマ 103.9 %	→	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	講演テーマ数を増やして受講者の選択の幅を広げる、その時々々の市民の関心の高いテーマを取り入れるなど、より市民が利用しやすいように講演テーマ充実させます。			%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	その時々々の関心の高いテーマを取り入れることにより、講演依頼回数が増えました。また、多くの市民が入り出る市民センターへの配布数を増やしたり、受講実績の多い団体などにテーマ集を送付することにより、効果的な広報が行えたと考えます。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	事務手順の見直しを図り、広聴課から直接講演テーマ担当課に講師派遣を依頼することによって、事務処理の簡素化及び市民の利便性向上が図られました。また、テーマ集に講演実施課への問合せ先情報を掲載することにより、講演内容に対する問い合わせがスムーズになり、市民の要望に対してよりきめ細やかな対応をとることができるようになりました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題
	平成23年度は、出前講演件数が目標の450件を大幅に上回ることができました。今後も市民がより一層利用しやすいものとなるよう講演テーマの充実を図るとともに、多くの市民に利用してもらえるよう出前講演の周知を図る必要があると考えます。
	次年度の活動計画(見直し内容)
	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	現在は受講実績の多い団体や市内の小中学校に出前講演テーマ集を送付し利用促進を図っていますが、新しい利用者を増やすためにも今後は市内の高校、大学など配布先を増やしPRを行っています。予算の範囲内でのPR活動を考え、事業費は現状維持とします。
	平成23年度は東日本大震災の影響を受けて防災関係の講演の増加、また新球場場についての講演の増加など講演件数が増える特殊な要因がありました。次年度はそういった要因が無くても講演件数が500件を達成することを目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	NPO・ボランティア活動促進事業						施策番号	
							Ⅲ-3-(3)-②	
コスト	事業費	平成23年度執行額 14,521 千円	平成24年度当初予算額 15,885 千円	人件費 の目安	金額 7,300 千円 (備考)	担当局	市民文化スポーツ局	
					課長 0.2 人 職員 0.4 人	担当課	地域振興課	
					係長 0.2 人	課長名	神野	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	地域の課題に自ら対応し、市民が自発的、主体的に公共活動に参画する市民社会の形成に向けて、まちづくりの重要な担い手であるNPOやボランティア団体などとの協働を促進します。				成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】			
	NPO法人数(累計)	263 法人	290 法人	293 法人	→	【成果の状況】	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック		
	それぞれの目的の達成に向けて市民活動団体を主体的に発足させた市民活動団体(NPO法人)数の増加を図ります。 (最終目標と目標年度)25年度330法人			101.0 %					
	NPO法人との関連事業(委託・助成等)数	133 件	130 件	未(H24.8調査実施予定) 件	→	【成果の状況】	順調		
市民との協働を進めるために、実際にNPO法人等と関連して行なった事業数(委託・助成等)を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度)25年度160件	%								

活動計画	市民活動サポートセンターを中心に、NPO・ボランティア団体に関する総合的な相談受付、NPO法人認証に関する県の出張相談受付、NPO・ボランティア活動情報の提供、NPO活動発表会及び団体間の交流促進事業等を実施します。					活動実績	活動の状況は下記のとおりです。		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】			
	広報誌などの発行	12 回	12 回	12 回	→	【活動の状況】	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック		
	市民活動に取り組む団体等へ、他団体の活動やイベント、助成金など、協働に役立つ情報を提供するため、広報誌やニュースレターを発行します。			100.0 %					
					%	→	【活動の状況】	順調	
				%					

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	市民活動の活性化支援に併せて、多様な主体による協働が促進されるよう積極的な広報や情報提供を実施しています。活動は有効であると判断します。 なお、NPO法人との関連事業数は、少なくとも例年並みの実績をあげることが見込まれています。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	市民活動サポートセンターは、行政施設の一部を活用して行政機関の窓口の一部として直営で運営しており、職員についても嘱託職員で対応していることから、経済効率は高いものと考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	NPO法人との関連事業(委託・助成等)数は、順調に増加(H23年度148件)しており、市民活動団体と行政との協働事業が普及しつつあります。一方、協働について関係者それぞれがさまざまな捉え方をしていることが課題としてあげられます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	協働による住みよいまちづくりの推進のため、市民活動サポートセンターの機能拡充等、事業費を拡充して取り組みます。	NPO法人との関連事業(委託・助成等)数は、160件の達成を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	NPOとの協働によるまちづくり人材育成事業						施策番号				
							Ⅲ-3-(3)-②				
コスト	事業費	平成23年度執行額 2,295 千円	平成24年度当初予算額 3,000 千円	人件費 の目安	金額	3,650 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
					課長	0.1 人		職員	0.2 人	担当課	地域振興課
					係長	0.1 人				課長名	神野

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	多様化・複雑化する市民ニーズに対応しながら、更に質の高い市政運営を進めていくためには、行政とNPO・市民活動団体とのパートナーシップを積極的に推進し、協働して地域課題の解決に取り組むことが重要となっています。そのため協働を進めるための環境づくりや意識醸成を図ります。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです
-----------	--------------------	---	-------------	----------------

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		NPOとの協働についての研修への参加者数累計 市民活動に対する理解を促進し、NPOとの協働に対して理解を深めるための研修への参加者の累計を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度) 400人(25年度)	203 人 (累積)	200 人 (累積)	297 人(累積) 148.5 %	
	(最終目標と目標年度)			%		

活動計画	協働についての理解を広めるため、職員研修や市民向け研修を開催します。また、より良い協働事業の実現のため、協働事業の担当者と団体関係者との合同セミナーを開催し、協働推進に必要な人材の育成を図ります。	活動実績	成果の状況は下記のとおりです
-------------	--	-------------	----------------

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		セミナー開催数 活動指標として、協働の理念の普及を推進するため実施するセミナーの開催数を評価の指標とします。	2 回	2 回	2 回 100.0 %	
				%		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	協働についての理解を広めるため、職員研修や市民向け研修を開催しました。また、より良い協働事業の実現のため、協働事業の担当者と団体関係者との合同セミナーを開催し、ネットワークやコーディネート力を発揮する「協働コーディネーター」育成研修などを通して、協働によるまちづくりを進めていくために必要な相互理解が進んだと考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」 「同じコストでより高い成果を」 得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	協働によるまちづくりを進めるためには、市民みんなが、力をあわせて取り組むことが必要となります。市役所が仲介することで協働の促進がより進む部分があり、市の関与は有効です。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	NPOとの協働についての研修参加者数は順調に目標を達成しましたが、協働について関係者それぞれがさまざまな捉え方をしていることが課題としてあげられます。引き続き市民活動に対する理解と、協働についてのより具体的な理解を促進する必要があると考えます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	協働のあり方に関する基本指針に基づき、まちづくりの人的ネットワークの構築等に力を入れることで、予算を縮減しつつ、協働による住みよいまちづくりに資する人材の育成を図ります。	より良い協働事業の実現をめざして、協働の基本理念の理解を深めるための研修を継続し、研修累積参加者400人の達成を図ります。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	区役所窓口ワンストップサービス推進事業						施策番号		
							Ⅲ-3-(3)-④		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	66,125 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
		370,518 千円	0 千円		課長	0.75 人 職員 5 人		担当課	区政課
			係長		2 人	課長名		加藤	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	ワンストップサービスとは、窓口を移動することなく、一箇所で市民が必要とする複数の申請や届出などを受け付けるサービスのことです。区役所でのワンストップサービスの実現を通して、住所の異動や戸籍の届出の際に、市民生活に深く関わる保健福祉関係の各種手続き(国民健康保険、介護保険、乳幼児医療など)も市民課の窓口で受付できるようにし、市民サービスの向上を図ります。	成果実績	待ち時間の短縮などの点からも、市民生活と直結した区役所窓口での市民サービスの向上が、認められました。
-----------	--------------------	---	-------------	--

	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
代表的な成果指標	区役所窓口業務のワンストップサービス化による市民サービスの向上		区役所窓口での、市民サービスの向上	—		代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	利便性の向上(複数の手続きを一箇所で受付)や手続き漏れの防止(新たに開発した総合受付システム等による職員の支援)などにより、市民サービスの向上を図ります。 (最終目標と目標年度)			%		
	(最終目標と目標年度)				大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	平成22年10月 小倉北区役所でサービス開始 平成23年10月 他の6区役所でサービス開始	活動実績	下記の活動指標のとおりです。
-------------	--	-------------	----------------

	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
活動指標	ワンストップサービスを実施している区役所	1 区役所	7 区役所	7 区役所 100.0 %		活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市民サービスの向上を目指して、すべての区役所でのワンストップサービス化を実施します。					
					大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成22年10月から小倉北区役所において先行実施し、その成果を見据えながら、平成23年10月には全区役所での実施を予定どおり実現できました。その結果は、日本経済新聞社による「経営革新度調査」で「市民の利便度の向上」において北九州市が高評価を得るなど、事業の成果として表われてきています。広聴課による「市政評価」でも、「市役所の窓口サービスの向上」は11位から7位に上昇しました。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	区役所窓口でのサービス提供においては、民間事業者の活用にも制約がある中で、フロアマネージャーをはじめとして、適切な範囲での効果的な導入を図ってきました。また、ワンストップサービスの実施に伴い設置された区政事務センターにおいても、住民票の写し等の郵便請求事務の一部を民間事業者に委託して行うことができるようになりました。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 区役所窓口での市民サービスの向上という目標に向けて、概ね順調に全区で取り組みを進めることができました。なお、年度初めの繁忙期において、手続き待ちの市民の滞留により一時的に待ち時間が長くなりましたが、今後、改善を進めていきます。	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	予算事業としての「区役所窓口ワンストップサービス推進事業」は平成24年度で終了しますが、今後も区役所窓口での市民サービス向上への取り組みは継続していきます。	引き続き、区役所窓口の市民サービス向上を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	コミュニティビジネス推進事業						施策番号		
							IV-2-(2)-②		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	1,750 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
		516 千円	820 千円		課長	0 人 職員 0.1 人		担当課	地域振興課
					係長	0.1 人		課長名	神野

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとする「コミュニティビジネス」の振興を図ります。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	セミナー参加者	46 人	25 人	27 人	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	成果指標として、コミュニティビジネスの啓発・普及を推進するため実施するセミナーの参加者数を評価の指標とします。 (最終目標と目標年度) 30人(25年度)			108.0 %		
	(最終目標と目標年度)	%	順調			

活動計画	地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとする「コミュニティビジネス」の振興を図るため、基本研修や受講生アンケート等を参考にテーマ別研修等を開催します。		活動実績	成果の状況は下記のとおりです		
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	セミナー開催数	5 回	3 回	3 回	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	活動指標として、コミュニティビジネスの理念の普及を推進するため実施するセミナーの開催数を評価の指標とします。			100.0 %		
	(最終目標と目標年度)	%	順調			

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	セミナー内容は、アンケートや参加者の声などを基に決定しています。前年度は、基礎研修(3回)、事例発表会(2回)を開催しました。当該年度は、要望のあったテーマ別研修(3回)を実施しました。 なお、参加者は、NPOの他、個人での参加もあり、アンケートには今後の活動について前向きな意見も多く寄せられており、コミュニティビジネスの裾野を広げ、促進することに効果があったと考えます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	アンケートによれば、受講生が大変満足していることが伺え、また7団体が活動の活性化に参考になると回答しており、効用度は高いと考えます。 ビジネスの手法を活用しながら地域課題の解決や地域活性化を図ると高い公益性を有しているもの、多くの参加団体は非営利活動団体なので、引き続き市の関与は必要と考えます。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 地域が抱える課題を地域資源を活かしながらビジネス的な手法によって解決しようとするコミュニティビジネスのセミナー参加者数は順調に推移していますが、起業そのものを希望される市民には、産業経済局とのスムーズな連携が求められます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	引き続きニーズに基づいたテーマ研修を開催します。また、産業経済局と連携することで相乗効果が得られる活動体系を構築することで、事業費の削減と成果の両立を図ります。	コミュニティビジネスの振興のため、同概念のソーシャルビジネス(産業経済局)と連携しながら、セミナー参加者30人の達成を図ります。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	文学館普及研究事業						施策番号		
							IV-4-(1)-②		
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費の目安	金額	12,625 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局
		23,281 千円	23,119 千円		課長	0.5 人 職員 0.25 人		担当課	文学館
			係長		0.5 人	課長名		西岡	

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	北九州市ゆかりの文学者の業績を企画展等で紹介し、本市の文芸の振興に功績のあった文学者を市内外に発信していきます。また、大人から子どもまで文学に親しむ機会を提供し、豊かな感性の育成と教養文化の向上に努めます。	成果実績	親子で考えてもらう内容の企画展を行った結果、年間入館者数が約20%増加しました。
-----------	--------------------	---	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		文学館企画展の入館者数			10,741 人	
	本市ゆかりの文学者や全国的に著名な作家などの展覧会のほか、文学に関連する企画展を充実させ、多くの方へ偉人・先人の業績を伝えます。 (最終目標と目標年度) 毎年度13,000人以上の入館者数 平成25年度	8,890 人	13,000 人	82.6 %		
				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

活動計画	前年度に引き続き、定期的に魅力ある企画展を開催し、大人から子どもまで文学に親しむ機会を提供します。又、入館者数の増加に努めます。	活動実績	企画展は目標数を実施することができました。入館者数は目標数には届きませんでした。が、昨年度と比較して増加しました。
-------------	--	-------------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		企画展等の開催回数			4 回	
	文学の振興、教育、普及とともに本市にゆかりのある文学者と文芸活動をより多くの市民に紹介する手段として、企画展などの開催件数を活動の指標としました。	5 回	4 回	100.0 %		
				%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	順調

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	企画展について、前年度より1つ数は減少しましたが、目標数を開催することができ、又、入館者数は昨年度と比較し増加しました。(8,890人 → 10,741人) アンケートでは、企画展の内容について非常に高い評価を得ています。
	【経済性】 【効率性】 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	企画展は、毎回違う内容で実施するため、経済性・効率性の向上を図りにくいですが、できる限り最少の費用で最大の効果があげられるよう、毎回検討し企画展を行っています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	平成24年度の文学館の入館者数は、夏休み企画展が約6,000人と好評だったため前年度と比較し増えていますが、目標には達していません。引き続き、特別企画展や企画展、講演会や文学講座等のイベントを実施し、入館者の拡大に努めます。北九州市ゆかりの文学者の業績を市内外に発信するために、文学館以外の施設での展示室を検討します。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	
	定期的に魅力ある企画展を開催するとともに、文学に関心を持ってもらう講座を実施し、大人から子どもまで文学に親しむ機会を提供します。事業費は事務の見直しなどの努力を行い、予算は縮小します。	入館者数13,000人以上を目指します。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	松本清張記念館研究センター・普及事業						施策番号				
							IV-4-(1)-②				
コスト	事業費	平成23年度執行額	平成24年度当初予算額	人件費 の目安	金額	23,250 千円	(備考)	担当局	市民文化スポーツ局		
		14,090 千円	14,927 千円		課長	0.5 人		職員	1 人	担当課	松本清張記念館
					係長	1 人				課長名	木村

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	松本清張記念館は、松本清張の多岐にわたる創作活動を企画展等で体系的に紹介し、清張とその時代の研究を行うとともに、市内外に情報発信し、来館者の増加と本市のイメージアップを図ります。	成果実績	年2回の特別企画展開催及びシンポジウムや企画展関連講演会の開催により、入館者数の確保に貢献しました。
-----------	--------------------	---	-------------	--

代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
		松本清張記念館の入館者数			49,731 人	
	平成21年度の生誕100年記念事業で大幅に増加した入館者数が22年度から減少に転じました。この傾向に歯止めをかけるべくさらに魅力ある企画展等を開催し、入館者数の確保に努めます。 (最終目標と目標年度)年間入館者数の増加を目標とします 平成25年度	58,187 人	60,000 人	82.9 %		
	企画展入場者の満足度			84 %		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ
	来館者アンケートのうち企画展の内容についての設問で、「非常に良い」「良い」といった満足度の高い評価の割合を高めます。 (最終目標と目標年度)90% 平成25年度	85 %	85 %	98.8 %		

活動計画	開催した企画展の成果を分析し、新規入館者の増加及びリピート率の向上を図ります。さらに魅力的な企画展・特別展を開催します。	活動実績	H22.12.1~23.3.15特別企画展『松本清張と東アジア-描かれたく東アジア・東南アジア> 読まれる<清張>』、H24.1.20~24.5.6松本清張没後20年記念特別企画展『いつもカメラを携えて-松本清張が愛したカメラとその時代-
-------------	--	-------------	---

活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段: 指標名 下段: 指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
		企画展の開催			2 回	
	市民に質の高い作品などに接する機会を安定的に提供し、魅力ある企画展・特別展を開催します。	2 回	2 回	100.0 %		
				%		大変順調 順調 やや遅れ 遅れ

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。	平成23年度は2回の企画展を開催し、14,711人の入場があり、内容についてもアンケート結果で好評を得ています。また、開館記念講演会、国際共同研究公開シンポジウム、企画展関連講演会、さらに年2回の松本清張研究発表会など質の高い文化に接する機会を提供しています。今後もさらに魅力的な企画展等を開催することが課題と思われます。
	「経済性」 「効率性」 の分析	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。	委託業務については、コンペや予定価格の見直し等、経済的でより質の高い事業を行えるよう努めています。

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 平成24年度の企画展入場者は、10月18日現在で10,636人です。最終的に18,000人となることが予想されます。入館者数は企画展入場者の約3倍であるので、企画展入場者の増加を図り入館者の拡大に努めます。	
	次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標)
	市制50周年と開館15周年を記念した企画展を開催し、入館者数の増加を図ります。予算は現状を維持します。	入館者数60,000人を目標とします。

PDCAチェックシート (平成23年度実績評価)

事業名	文化財の保存及び活用事業						施策番号	
							V-3-(2)-③	
コスト	事業費	平成23年度執行額 144,962 千円	平成24年度当初予算額 207,874 千円	人件費の目安	金額 11,050 千円 (備考)		担当局	市民文化スポーツ局
					課長 0.2 人 職員 0.5 人		担当課	文化振興課
					係長 0.5 人		課長名	西山

【Plan】計画 → 【Do】実施 → 【Check】評価

目的	何を(誰を)どのような状態にしたのか	文化財の指定、保存管理、購入及び埋蔵文化財の発掘調査を行い市内の文化財を保護・活用します。	成果実績	成果の状況は下記のとおりです。		
代表的な成果指標	指標 (数値化できない場合は、目指している状態を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明と目標設定の考え方)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【成果の状況】
	指定・登録文化財の件数	143 件	144 件	144 件	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	代表的な成果指標の実績などを参考に、成果の状況をチェック
	市内に所在する文化財を把握し、保護を図る必要がある文化財について、市の文化財に指定するほか、重要なものについては、国または、県の文化財指定を働きかけていきます。また、近代化遺産の保存・活用を図るため、国の登録文化財制度の利用を図ります。 (最終目標と目標年度) 147件(累計) 平成25年度			100.0 %		
	(最終目標と目標年度)	%	%	順調		

活動計画	市内に所在する文化財を把握し、保護を図る必要がある文化財について、市の文化財に指定するほか、重要なものについては、国または、県の文化財指定を働きかけていきます。また、近代化遺産の保存・活用を図るため、国の登録文化財制度の利用を図ります。	活動実績	国・県と連携して適切に活動しました。			
活動指標	指標 (数値化できない場合は、活動内容を文章で記載) (上段:指標名 下段:指標の説明)	前年度実績	目標	実績 (達成率)	→	【活動の状況】
	指定・登録文化財の保護		国・県と連携して活動します。	%	大変順調 順調 やや遅れ 遅れ	活動指標の実績を参考に、活動の状況をチェック
	市内に所在する文化財を把握し、保護を図る必要がある文化財について、市の文化財に指定するほか、重要なものについては、国または、県の文化財指定を働きかけていきます。また、近代化遺産の保存・活用を図るため、国の登録文化財制度の利用を図ります。			%		
	(最終目標と目標年度)	%	%	順調		

【Check】評価(分析)

分析及び課題の整理	【成果の状況】 【活動の状況】 を踏まえた分析	活動や成果は予定通りだったのか、成果を得るための活動は有効だったのかなど、分析し課題を整理する。また、影響を及ぼした外的要因の分析も行う。 市内に所在する文化財の把握に努め、国・県とも連携して活動するなど、適切な保護に努めました。指定文化財については、適切な保存活用を図るよう支援しました。	「同じ成果をより低いコストで」「同じコストでより高い成果を」得られないか。また、民間活力導入による「経済性・効率性」の向上はできないか。 文化財公開施設については、地元で組織する文化財保存団体の協力を得て管理しており、経済的な運営が行われています。埋蔵文化財の発掘調査については、開発者と発掘調査機関とで円滑な調整が行われています。概して、経済的で効率的に実施されています。
------------------	---	--	--

以下、予算案作成時に記入

【Action】 上記の評価結果と、予算案作成時点までの事業の状況を踏まえて記入

見直し状況等	課題 平成23年度で144件の目標を達成した後、新規に2件国登録有形文化財登録を行っています。引き続き注意深く物件の調査を行ってきたいと考えています。限られた予算の中で、文化財の登録・保存・活用が課題です。 次年度の活動計画(見直し内容)	その結果目指す成果(次年度の成果目標) 文化財の保存・活用に努めます。平成25年度予定している埋蔵文化財発掘調査整理業務の事業量減により平成24年度予算に対して平成25年度予算は縮小します。
---------------	---	--